

図書館による授業支援サービスの可能性: 小中学校社会科での3つの実践研究

2012年8月



International Library of Children's Literature

国立国会図書館 国際子ども図書館

国際子ども図書館調査研究シリーズ No. 2
(ILCL Research Series No. 2)

図書館による授業支援サービスの可能性：
小中学校社会科での3つの実践研究

2012年8月

国立国会図書館国際子ども図書館
International Library of Children's Literature,
National Diet Library

刊行にあたって

平成 12 年に開館した国際子ども図書館は、開館 10 周年を迎えた平成 22 年度に、「国立国会図書館国際子ども図書館子どもの読書活動推進支援計画 2010」や「国際子ども図書館第 2 次基本計画」を策定し、児童書や子どもの読書に関わる多様な活動を支援し、子どもの読書活動推進の現場に還元できるような調査研究プログラムを企画・実施していくことといたしました。それらの成果を広く知っていただき、各種の活動推進に役立てていただくことを目指して、このたび、「国際子ども図書館調査研究シリーズ」の第二弾にあたる『図書館による授業支援サービスの可能性：小中学校社会科での 3 つの実践研究』を刊行いたしました。本書は、公共図書館と学校図書館との連携協力のモデル事業を実施してまとめたものです。

調査研究を充実させていくためには、国際子ども図書館職員だけではなく、関係諸機関及び外部の有識者との協働が必要となります。関係のみなさまと連携・協力し、様々な調査に取り組んでいくことで、実りある成果を挙げていきたいと考えております。

本シリーズは、今後、調査研究の成果を公表するため、随時刊行していく予定です。これが、子どもと本を結ぶ活動の役に立ち、子どもの読書推進の一助となっていくことを願っています。

平成 24 年 8 月

国立国会図書館国際子ども図書館長
坂田 和光

執筆者一覧

鎌田 和宏（帝京大学文学部教育学科・教職大学院教職研究科准教授）

第1章1、第7章

橋詰 秋子（国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課企画推進係長）

第1章2～4、第2、3、4、6章

目 次

刊行にあたって

要 旨	1
SUMMARY	2
1. はじめに	3
1.1 図書館による授業支援の意義と現状	
1.2 「学校図書館との連携による学習支援プロジェクト」の概要	
1.3 問題意識とプロジェクトのねらい	
1.4 本報告書のねらいと構成	
2. 実践研究① 東京学芸大学附属竹早中学校「日本の諸地域調べ」	9
2.1 学校と学校図書館の概要	
2.2 授業の概要	
2.3 調べ学習支援の流れ	
2.4 実践を通して明らかになったこと	
3. 実践研究② 大田区立大森東中学校「中世のものづくり」	18
3.1 学校と学校図書館の概要	
3.2 授業の概要	
3.3 調べ学習支援の流れ	
3.4 実践を通して明らかになったこと	
4. 実践研究③ 荒川区立第三^{はけた}峡田小学校「江戸の文化と新しい学問」	25
4.1 学校と学校図書館の概要	
4.2 授業の概要	
4.3 調べ学習支援の流れ	
4.4 実践を通して明らかになったこと	
5. 学校図書館実践者へのインタビュー：効果的な授業支援の在り方とは	33
6. まとめと考察	42
6.1 考察：授業支援サービスの充実を目指して	
6.2 調べ学習支援サービスの手順	
6.3 授業者との打合せポイント	

7. おわりに：図書館による授業支援サービスの可能性…………… 52

(参考資料) …………… 55

<実践研究① 参考資料>

参考資料1-1 「日本の諸地域調べ」授業実践ドキュメント

参考資料1-2 「日本の諸地域調べ」学習用ブックリスト

<実践研究② 参考資料>

参考資料2-1 「中世のものづくり」授業実践ドキュメント

参考資料2-2 「中世のものづくり」学習用ブックリスト

<実践研究③ 参考資料>

参考資料3-1 「江戸の文化と新しい学問」授業実践ドキュメント

参考資料3-2 「江戸の文化と新しい学問」学習用ブックリスト

要 旨

本書は、国立国会図書館国際子ども図書館が、平成 22 年度から平成 23 年度にかけて実施した「学校図書館との連携による学習支援プロジェクト」（以下、「プロジェクト」という。）の成果を報告したものである。

プロジェクトは、図書館による授業支援サービスの効果的な在り方を明らかにすることによって、公共図書館と学校図書館との連携の促進に資することを目的とした調査研究である。鎌田和宏准教授（帝京大学文学部教育学科・教職大学院教職研究科）を主査として、国際子ども図書館児童サービス課職員が行った。具体的な内容は、国公立小中学校 3 校（東京学芸大学附属竹早中学校、大田区立大森東中学校、荒川区立第三峡田^{はけた}小学校）において、社会科の授業の中で行われる調べ学習を対象とした授業支援サービスの実践研究である。また、研究の最後にはこの実践研究の成果を深めるために、授業支援の実績を積んできた学校図書館の実践者に対するインタビューを実施した。

本書は、以下の 7 章から構成される。

第 1 章では、図書館による授業支援サービスの意義と現状を述べた上で、プロジェクトの概要を説明する。プロジェクトのねらいやそこに至る問題意識も併せて述べる。また、本報告書について、ねらいと構成を示す。

第 2 章から第 4 章では、3 つの実践研究を紹介する。第 2 章では東京学芸大学附属竹早中学校の「日本の諸地域調べ」、第 3 章では大田区立大森東中学校の「中世のものづくり」、第 4 章では荒川区立第三峡田小学校の「江戸の文化と新しい学問」の調べ学習への支援を取り上げ、その概要と実践を通して明らかになったことを示す。

第 5 章では、平成 24 年 3 月に実施した「学校図書館実践者へのインタビュー」の主な記録を掲載する。これは、実践研究の成果を深めるために、学校教員、司書教諭、学校司書が経験則として持つ授業支援のノウハウを明らかにすることをねらったものである。

続く第 6 章では、第 2 章から第 5 章で示した授業支援に関する知見を整理し、サービスを充実させる方策及び学校図書館と公共図書館の連携について考察する。そして、授業支援に関するノウハウのまとめとして、「調べ学習支援サービスの手順」と「授業者との打合せポイント」を示す。

最後の第 7 章では、プロジェクト主査が、図書館による授業支援サービスの可能性について論じる。

SUMMARY

This working paper reports the results of the research program “Learning Support Project in Collaboration with School Libraries,” conducted by the International Library of Children’s Literature (ILCL) from FY2010 to FY2011.

The purpose of the project is to encourage collaboration between public libraries and school libraries by showing effective ways of providing support for the coursework in schools. The research was carried out by the supervisor, Kazuhiro Kamata, Associate Professor of Department of Education, Faculty of Arts, Teikyo University / Associate Professor, Department of Education, Graduate School of Education of Teikyo University and staff members of the Children’s Services Division, ILCL.

This report examines the practice of library’s coursework support for the “investigative learning” of social studies, in which children try to find out for themselves several topics given in the class, in three public schools; Takehaya Junior High School Attached to Tokyo Gakugei University, Ota City Omori Higashi Junior High School, and Arakawa City Third Haketa Elementary School. To deeply analyze the practice, we conducted interviews with those with years of experience in a school library and have extensive practical knowledge of support activities for the coursework.

This report consists of the following seven chapters.

Chapter 1 describes the purpose and overview of this project, referring to the value and the current situation of library services for investigative learning at school.

Chapters 2, 3 and 4 introduce three case studies: “Various Districts in Japan” in Takehaya Junior High School Attached to Tokyo Gakugei University (Chapter 2), “Craftsmanship in the Medieval Period” in Ota City Omori Higashi Junior High School (Chapter 3) and “Culture of the Edo period and Advancement of Learning” in Arakawa City Third Haketa Elementary School (Chapter 4).

Chapter 5 presents the main points of the interviews with those who work on school library activities. The interview is intended to improve the skill of teachers, teacher librarians and school librarians to support the coursework by using library materials in order to deeply analyze the practice.

Chapter 6 organizes the knowledge and information delivered in Chapter 2 to Chapter 5 and considers how to improve library services for the coursework and collaboration between school libraries and public libraries. A summary of the findings, “A Guide for Services to Support Investigative Learning” and “Notes for the Interview with Teachers” are also included.

In chapter 7, the research supervisor Kazuhiro Kamata points out the potentiality of the library support activities for the coursework.

1. はじめに

1.1 図書館による授業支援の意義と現状

21世紀が到来し10年余の月日が経った。制定から60年の時を経て教育基本法に変更が加えられ、それに基づいて作成された学習指導要領下の新たな教育課程による教育もスタートした。この教育改革に伴って、図書館に対して授業支援の充実がこれまで以上に求められるようになってきている。そうした動向や図書館による授業支援の現状は、本書で報告する「学校図書館との連携による学習支援プロジェクト」（詳細は後述。）の背景と言えるものであるため、本書のはじめに、プロジェクトの主旨から説明することとしたい。

今回の教育改革は、現代社会は知識基盤社会であるとの認識の上で展開している。知識基盤社会はこれまで以上に情報の持つ意味が重要となり、変化が急速な社会である。そのような社会に生きる人間にとって情報の読み書きの技能である“情報リテラシー”は必須のものであり、学習指導要領では「言語活動の充実」という表現でその育成を強調している¹。

情報リテラシーの育成のためにはこれまで行われてきた学力観・授業観を変えていく必要がある。学習指導要領では基礎・基本を習得させる学習と、それを活用する学習、そしてそれらを基に探究する学習と三つの学習形態を提示し、そのバランスを取った教育活動の展開を求めている。しかし、これら三つの学習形態の中で最終的に求められているのは探究的な学習であり、基礎・基本の習得と活用はそのためにある。ところがこの探究的な学習や、習得した基礎・基本を探究へとつなげる活用の学習は指導が難しい。これらを育てるものとして、既に平成10年には総合的な学習の時間が創設されており、新しい時代に求められる学力である「生きる力」を育成するものとして広く社会や市民からは期待が寄せられていたが、なかなか実践は困難であった。そこで今回の改訂では、総合的な学習の

1 平成20年度版小学校学習指導要領では、総則の第一章、第四指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項の(10)に「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。」とあり、さらにこの項の解説には「学校図書館については、教育課程の展開を支える資料センターの機能を発揮しつつ、①児童が自ら学ぶ学習・情報センターとしての機能と②豊かな感性や情操をはぐくむ読書センターとしての機能を発揮することが求められる。したがって、学校図書館は、学校の教育活動全般を情報面から支えるものとして図書、その他学校教育に必要な資料やソフトウェア、コンピュータ等情報手段の導入に配慮するとともに、ゆとりのある快適なスペースの確保、校内での協力体制、運営などについての工夫に努めなければならない。これらを司書教諭が中心となって、児童や教師の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与することができるようにするとともに児童の自主的、主体的な学習や読書活動を推進することが要請される。今回の改訂においては各教科等を通じて児童の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な児童の言語活動の充実を図ることとしている。その中でも、読書は、児童の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上で重要であり、児童の望ましい読書習慣の形成を図るため、学校の教育活動全体を通じ、多様な指導の展開を図ることが大切である。このような観点に立って、各教科等において学校図書館を計画的に活用した教育活動の展開に一層努めることが大切である。各教科等においても、国語科、社会科及び総合的な学習の時間で学校図書館を利活用することを示すとともに、特別活動の学級活動で学校図書館の利用を指導事項として示している。また、コンピュータや情報通信ネットワークの活用により、学校図書館と公立図書館等との連携も一層進めやすくなっている。また、保護者や地域社会の人々との連携協力を進め、学校図書館が地域に開かれたものになり、人々の生涯学習に貢献することも大切である。」（小学校・傍線筆者）とある。同様の記述は中学校、高等学校にもある。

時間を教科学習で培った成果を基に、探究的な学習を展開する時間として位置づけ直し、各教科で「言語活動の充実」を図り、「生きる力」の育成を行おうとしている。総合的な学習の時間に集中的に期待された探究的な学習が、言語活動を核に他の教科・領域の学習と有機的に関連づけられ、ある意味より広範に取り組みられることを求めたのであった。

ところで、平成 10 年度版学習指導要領が明らかになった際、読書・学校図書館に期待を寄せる人々は、学校図書館こそが「生きる力」を育てる基盤であると期待を寄せた²。子どもの興味・関心を生かし、横断的・総合的な課題について探究的に展開される学習は、学校図書館を基盤として展開されるべきであるとの認識である。この認識は当を得ており、今回の改訂によってますます学校図書館に期待される役割は大きなものとなっている。しかし、残念ながらこのような認識は学校教育関係者の中では必ずしも共有されていない。それは、一つには学校教育関係者の学校図書館機能等に関わる認識の不足に起因するといっていよう。整備された学校図書館と、それを活用した授業を経験したことのある教育関係者が極めて少数であり、経験がないものは認識が難しい。また、養成課程や教員研修等で学校図書館の機能等について必ずしも学んでいない事にもよるだろう。そう考えると、認識不足で片付けてしまうのは酷なのかもしれない。学校図書館の整備には予算と時間と人が必要であるが、現状ではそのいずれも十分ではない。平成 22 年に公表された文部科学省の調査によれば、学校図書館の蔵書数を定めた学校図書館図書標準の達成率は、最も達成率の高い学校種である小学校でも 50% である³。文科省の定めた学校図書館図書標準自体が探究的学習の提起された以前の読書センターを想定したものであり、標準を達成したとしても探究的な学習に応ずる学習資料センターとして機能できるだけの資料環境になっているとはいいがたいのだが、まだ半数以上の学校が文科省の設定した標準にすら達していない。また人的な環境についていえば学校司書などの学校図書館担当職員が配置されている学校は小中高等学校の約 49% に過ぎず、64% の学校に司書教諭・学校司書等も発令・配置されていない状況である。

このような現状において、学校図書館を活用して言語活動を充実させる授業実践を行う場とすることは極めて困難である。これを可能にするには何らかの支援が必要である。そこで注目されるのが公共図書館による学校図書館支援である。資料の団体貸出しによる学校図書館支援は、すでに一部の公共図書館が取り組んでいるが、今回の学習指導要領の改訂で求められる言語活動の充実のために今後取り組まれるであろう活用型・探究型の学習のための支援としては心もとない。今後求められるのは授業展開のための支援なのである。学校現場の現状を把握した上でのきめ細やかな支援が求められることになるのだが、そのための知見が十分に蓄積・共有されているとはいえない状況である。先進的な地域では学校図書館支援センター等を設置し、物的・人的支援に取り組み、支援の質的向上を図ろうとしているが、公共図書館と学校図書館のニーズをうまくマッチさせて機能している例は必ずしも多くはない。また支援の事例をデータベース化し、蓄積を図ろうとする動き

2 この頃、雑誌などで総合的な学習の時間の展開には学校図書館が必要であると言った主張が多くなされた。同様の主張をした単著には以下がある。押上武文, 小川哲男編. 「総合的な学習」のための学校図書館活用術—楽しくいきいき調べる学習. 学事出版, 2002. 156p.

3 文部科学省. 平成 22 年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について. http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/06/1306743.htm (accessed 2012-5-15)

もあるが、まだ緒に就いたばかりである⁴。

ともあれ、今回の学習指導要領の改訂による新たな教育課程の展開においては、各教科・領域・時間の学習の授業において、学校図書館は学習情報センターとして機能することが求められている。しかしながら現状はそれに応ずることのできる学校図書館はごくまれであり、支援が必要な状況にあるが、支援のための知見の蓄積が不十分である。学校現場では、これまで一般的でなかった学校図書館を活用した授業を開発し、今後、図書館による授業支援の方法について事例を蓄積・共有することが望まれる。(鎌田和宏)

1.2 「学校図書館との連携による学習支援プロジェクト」の概要

国立国会図書館国際子ども図書館は、立法府に属する国立の児童書専門図書館である。国際子ども図書館は、平成22年に「子どもの読書活動推進支援計画2010」を策定し、その中の取組方針の一つに学校図書館への支援を掲げて、その充実に向けて取り組んできた。この一環として、平成22年度から平成23年度にかけて実施したのが、「学校図書館との連携による学習支援プロジェクト」(以下、「プロジェクト」という。)である。

プロジェクトは、図書館による授業支援サービスの効果的な在り方を明らかにすることによって、公共図書館と学校図書館との連携の促進に資することを目的とした調査研究である。調査研究の実施は、以下のメンバーによる研究会が担当した。

主 査：鎌田和宏(帝京大学文学部教育学科・教職大学院教職研究科 准教授)⁵

委 員：小林直子(国際子ども図書館児童サービス課長)

濱田久美子(国際子ども図書館児童サービス課課長補佐)

橋詰秋子(国際子ども図書館児童サービス課企画推進係長)

高宮光江(国際子ども図書館児童サービス課企画推進係)

田中千穂子(国際子ども図書館児童サービス課企画推進係)

(以上、敬称略。所属は調査実施当時のもの。)

プロジェクトでは、小中学校の授業で用いる調べ学習用ブックリストの作成・活用・評価を、研究者、授業を担当する教員(以下、「授業者」という。)、学校図書館専門職(司書教諭、学校司書)と国際子ども図書館職員が協働する形で行った。具体的には、国公立小中学校3校で、社会科を対象にした授業支援サービスの実践研究を行った。また、これらの実践で得られた成果を深めるために、学校図書館で授業支援の実績を積んできた実践者

4 東京学芸大学学校図書館運営専門委員会は「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」を構築し、学校図書館による授業支援の事例の蓄積を始めている。

東京学芸大学学校図書館運営専門委員会. 先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース. <http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/> (accessed 2012-5-15)

5 鎌田准教授は、小学校社会科を対象とした学習用ブックリストを学校教員や学校図書館専門職と協働で作成し、以下の図書として刊行している。

鎌田和宏, 中山美由紀編著. 先生と司書が選んだ調べるための本: 小学校社会科で活用できる学校図書館コレクション. 少年写真新聞社. 2008, 159p.

を対象としたインタビューを実施した。

実践研究の概要(協力校、支援対象、実施時期、各学校の協力者)及び実践者インタビューの概要(実施日、協力者等)は、次のとおりである。ご協力いただいた学校や協力者の方々に、この場を借りて心から御礼申し上げます⁶。

実践研究① 東京学芸大学附属竹早中学校での調べ学習支援

- ・対象：中学1年生(4クラス分) 3学期
社会科地理「日本の諸地域調べ」
- ・実施時期：平成22年12月～平成23年3月
- ・協力者：荒井正剛(東京学芸大学附属竹早中学校 教諭)
岡島玲子(東京学芸大学附属竹早小・中学校 学校司書)

実践研究② 大田区立大森東中学校での調べ学習支援

- ・対象：中学1年生(4クラス分) 2学期
社会科歴史「中世のものづくり」
- ・実施時期：平成23年9月～平成24年1月
- ・協力者：小石都志子(大田区立大森東中学校 教諭)

実践研究③ 荒川区立第三^{はけた}峡田小学校での調べ学習支援

- ・対象：小学6年生(1クラス分) 2学期
社会科歴史「江戸の文化と新しい学問」
- ・実施時期：平成23年8月～11月
- ・協力者：川島徹(荒川区立第三峡田小学校 主任教諭)
吉田香奈子(荒川区立第三峡田小学校 学校司書)
藤田利江(荒川区教育委員会指導室学校図書館支援室 主任学校図書館指導員)

学校図書館実践者へのインタビュー

- ・実施日：平成24年3月19日
- ・場所：国際子ども図書館研修室
- ・協力者：(○オブザーバー)
実重和美(鳥根県松江市立東出雲中学校 学校司書)
村上恭子(東京学芸大学附属世田谷中学校 学校司書)
遊佐幸枝(東京純心女子中学校 司書教諭)
○赤木裕朗(神奈川県相模原市立藤野小学校 教諭)
○中山美由紀(東京学芸大学附属小金井小学校 学校司書)

(以上、敬称略。所属は調査実施当時のもの。)

6 なお、本書2章以降では、研究会メンバーに対する敬称は省略したが、学校関係の協力者に対しては氏の敬称を用いた。

1.3 問題意識とプロジェクトのねらい

「学校図書館との連携による学習支援プロジェクト」を実施したねらいは、次の2点である。

- ① 図書館の授業支援サービスの効果的な在り方を探ること
- ② ①を通して、授業支援の面で公共図書館と学校図書館の連携を促進すること

以下、①②の順に、問題意識とともにその趣旨を説明する。なお、①の“図書館”は、学校図書館と公共図書館の両方を指している。

近年、様々な場面において調べ学習や探究学習という言葉が聞かれるようになるにしたがい、小中学校で資料を活用した調べ学習が行われる機会が増えている。それに伴い、学校図書館や公共図書館には授業支援サービスの充実が求められるようになったが、授業支援の在り方や手法はいまだ確立しておらず、試行錯誤している図書館も多い。

また、公共図書館を始めとする学校外の図書館は、学校現場でどのように資料を使った学習が行われているか、児童生徒が授業中にどのように資料を使っているかを直接見る機会が少ないため、提供するサービスが適切かどうかを判断するのが難しい。実際、国際子ども図書館も、学校図書館等へ本を貸し出す「学校図書館セット貸出事業」を行ってきたものの、学校現場で直接的に授業に携わった経験があまりなかったため、これまで、手探りでサービスの向上を図っていた。

また、ねらい②に視点を変えると、“公共図書館と学校図書館の連携”は、古くて新しい問題と言われている⁷。平成13年に制定された「子どもの読書活動推進に関する法律」によって、両者の連携は地域の課題として全国で取り組まれるようになったが、現時点では、団体貸出しに代表される公共図書館からの支援がほとんどで、両者が協働している事例はあまり多くない。文部科学省の「学校図書館の現状に関する調査」によると、公共図書館と連携している学校図書館は、小学校で全体の74%、中学校で全体の46%であったが、その中身のほとんどは公共図書館資料の学校への貸出しである。団体貸出し以外の内容で連携していると答えていたのは、公共図書館と連携している小中学校のうちの1割から2割程度の数であった⁸。(平成22年5月時点)

団体貸出し以外の連携内容には、公共図書館職員が学校を訪問し、おはなし会やブックトークを行ったり、お薦め本のブックリストを作成したりといった、読書案内に関するものが目立つ。授業支援の面での連携は、これから充実が期待される分野であり、積極的に取り組んでいる地域もあるが、現時点では全国的にはあまり進んでいない。

そこで、今回の調査研究プロジェクトでは、国際子ども図書館が学校外の図書館の代表として学校現場に入り、授業支援サービスを実践することを通じて、授業支援を効果的に行うための方法や公共図書館と学校図書館の連携の在り方を探ることとした。

経験を積んできた学校図書館専門職には、授業支援のノウハウを自分の中の知識として

7 平久江祐司. 公共図書館と学校図書館の連携・新たな展望. 図書館雑誌. 2010. 3, p.134-136.

8 文部科学省. 平成22年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について. http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/06/1306743.htm (accessed 2012-5-15)

持っている者もいるだろう。しかし、それらの知識は、言語化されていない暗黙知となりがちなため、公共図書館の職員や授業支援の経験が浅い者には知られていない。プロジェクトを通して経験者の持つ暗黙知を言語化し形式知化することは、授業支援にこれから本格的に取り組もうとしている公共図書館職員のみならず、新たに配属・発令された学校司書や司書教諭にとっても有用だと考えられる。

ノウハウの形式知化を目的としたため、プロジェクトの研究対象は、これまでに授業支援の知見があまり共有されていないと考えられる分野とした。すなわち対象には、(総合的な学習の時間で行われる調べ学習ではなく) 教科学習の中で取り組まれる調べ学習を選んだ。教科学習は、学校教育の主体であり、かつ、これから図書館を使う機会が増える分野と考えられる。また、対象とする学校種は、主に中学校を想定することとした。中学校は、小学校に比べると、図書館を使った授業の事例報告が少ないからである。

なお、学校図書館を扱った研究文献レビュー⁹が指摘しているとおり、我が国の学校図書館研究には、サービスや公共図書館との連携を実証的に扱ったものが少ない。本プロジェクトは、研究者と実務者が共に行う調査研究であり、この面からもプロジェクトの意義が説明できると思われる。

1.4 本報告書のねらいと構成

本書では、プロジェクトの成果を報告する。

国際子ども図書館が公共図書館の立場に立って試行した、学校現場での実践研究の成果を公表することで、公共図書館、学校図書館を問わず、授業支援サービスの向上に資することを目指す。本書の主な読者には、1.3節のねらいを踏まえて、授業支援の実務を担当する公共図書館職員と授業支援の経験が少ない学校図書館専門職を想定する。また、図書館を使った調べ学習の学習指導案や教員と図書館員との協働方法についても述べる。

全体の構成は、以下のとおりとした。本章に続く第2章、第3章、第4章で、3つの実践研究を個別に取り上げる。具体的には、各校での実践について、①学校や学校図書館の概要、②支援の対象とした授業の概要、③調べ学習支援の手順、④実践を通して明らかになったことを述べる。次の第5章では、平成24年3月に実施した「学校図書館実践者へのインタビュー」の主な記録を掲載する。これは、教員や司書教諭、学校司書の経験則を明らかにすることをねらったインタビューである。第6章では、第2章から第5章までで明らかになった授業支援の知見を整理し、サービスを充実させる方策を考察する。最後の第7章では、図書館による授業支援サービスの可能性について述べる。

なお、報告書は、主に国際子ども図書館職員が執筆を担当し、プロジェクト主査の鎌田和宏准教授は、全体的な助言と第1章第1節及び第7章の執筆を担当した。

9 学校図書館に関する文献レビューには、例えば、次のものがある。

中村百合子. 学校図書館に関する日本国内の研究動向 (研究文献レビュー). カレントアウェアネス, No.282, 2004, p.24-28. ; 河西由美子. 学校図書館に関する日本国内の研究動向—学びの場としての学校図書館を考える (研究文献レビュー). カレントアウェアネス, No.304, 2010, p.24-30. ; 岩崎れい. 学校図書館をめぐる連携と支援—その現状と意義 (研究文献レビュー). カレントアウェアネス, No.309, 2011, p.23-28.

2. 実践研究① 東京学芸大学附属竹早中学校「日本の諸地域調べ」

- ・協力校 東京学芸大学附属竹早中学校（東京都文京区小石川 4 - 2 - 1）
- ・実施期間 平成 22 年 12 月～平成 23 年 3 月
- ・対象学年 中学 1 年生 3 学期（4 クラス分）
- ・対象教科単元 社会科地理「日本の諸地域調べ」
- ・協力者（敬称略。所属は実施当時のもの。）

荒井正剛（東京学芸大学附属竹早中学校 教諭）

岡島玲子（東京学芸大学附属竹早小・中学校 学校司書）



写真 1) 竹早中での打合せ



写真 2) フィードバックミーティング

2.1 学校と学校図書館の概要

東京学芸大学附属竹早中学校は、国立の教員養成大学の附属校として、中等普通教育を行うほか、教育の理論と実践に関する研究・実践及び学生の教育実地研究（教育実習）の指導に当たる使命を持つ。そのため、各種の授業研究に積極的に取り組んでいる。

学校図書館は、同じ敷地内にある小学校と中学校の両方を対象としている。蔵書数はおよそ 16,000 冊である（平成 22 年 4 月時点）。中学校の校舎は附属竹早小学校の校舎とつながっており、学校図書館は小学校の校舎の 3 階に位置している。名称は、「東京学芸大学附属竹早小中学校メディアセンター」である。

学校司書の岡島氏は、平成 19 年度から、非常勤として週 4 日勤務している。地方自治体が設置する学校ではないため、学校図書館を直接バックアップする市町村立図書館はないが、東京学芸大学の附属校の学校図書館ネットワークがあり、附属校の学校図書館の間で必要な資料の貸し借りや情報交換が活発に行われている。

2.2 授業の概要

今回、対象とした「日本の諸地域調べ」は、講義と組み合わせられた調べ学習である。調べ学習に入る前に、授業者の荒井氏は、北陸と東京に関する講義を12時間かけて行い、調べ学習はその講義で得た知識を踏まえて実施された。調べ学習は、1クラスを8グループに分けたグループ学習として行われた。生徒は、あらかじめ決められた8地域からグループごとに担当する地域を決めた上で、その地域の特色と課題を調べた。授業の最後には、グループで調べた成果を口頭で発表した。調べ学習は、平成23年1月から2月にかけて実施された。

当該単元の授業時間のうち、調べ学習に充てられたのは9時間であった。生徒が実際に資料を用いた調べ作業をしたのは、そのうちの2時間である（なお、調べ作業以外の時間は、調べたことの整理や発表準備、グループ発表の時間に充てられた）。調べ学習の授業は、社会科グループ学習室で行われた。具体的な授業内容は、参考資料1-1「東京学芸大学附属竹早中学校 授業実践ドキュメント」（56ページ）を参照されたい。

なお、授業者はベテランの社会科教諭で、長年にわたって地理学習の指導法を研究してきた。授業者は、これまでも今回と同様の方法による授業の実践を積み重ねており、また、他の単元の授業でも図書館を活用した経験があった¹。

ちなみに、学習者は、この授業までに地理の調べ学習を2回（世界の衣食住調べ、世界の諸地域調べ）経験していた。また、索引や図鑑の使い方などを説明する学校図書館のオリエンテーションを受けていた。

2.3 調べ学習支援の流れ

図書館による調べ学習支援は、次ページの表の手順で、平成22年11月から平成23年3月にかけて行った。プロジェクトの研究会メンバーの国際子ども図書館職員は、公共図書館の視点で協働作業に参加した。

1 以下のページに、荒井氏へのインタビューが掲載されている。
東京学芸大学学校図書館運営専門委員会. 授業と学校図書館－授業に役立つ学校図書館データベース：先生のひとこと. http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/?page_id=17 (accessed 2012-5-17)

表 2-1 東京学芸大学附属竹早中学校における調べ学習支援の手順

ステップ	日程	作業事項	内容
(0)	—	事前準備	国際子ども図書館職員は、教科書を読んでおく。
(1)	H22/11/10	授業者への授業構想インタビュー①	プロジェクト主査と国際子ども図書館職員とが、授業者に、対象とする授業の構想（授業目的・調べる方法・時間数・授業日程等）をインタビューする。
	12/6	ブックリスト選書用のキーワード案の作成・確定	国際子ども図書館職員が、授業者インタビューに基づいて、教科書を見ながら、ブックリスト選書用のキーワード案を作成する。 授業者が、キーワード案を確認・修正する。 学校司書、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査が、授業者の修正したキーワード案を確認する。
(2)	12/22	一次選書の作成と検討	国際子ども図書館職員が、OPAC等を活用して、選書用キーワードを基に一次選書を行い、一次選書リストを作成する。
			授業者、学校司書、国際子ども図書館職員の三者で、資料の中身を見ながら、一次選書リストを検討する。あわせて、追加候補資料の選定を行う
(3)		二次選書の作成	国際子ども図書館職員が、(2)の検討結果を受けて一次選書リストを修正（資料の追加・削除）し、二次選書リストを作成する。
(4)		資料集め	学校司書が、他の学芸大附属校の学校図書館の協力を得ながら、二次選書リストの資料を集める。
(5)	H23/1/14	授業構想インタビュー②	授業者、学校司書、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査の4者で、授業者構想インタビューを行う。関係者で指導案を確認し、具体的な支援の内容を検討する。
(6)		二次選書の検討と授業準備	授業者が、(4)で集めた資料を見て二次選書リストを最終確認し、ブックリストを完成させる。
			学校司書が、授業前の資料準備を行う。
(7)	調べ学習 2/1～2/23 (当該単元の授業期間 12月～2月)	授業実践	授業者が、ブックリストの資料を用いて調べ学習の授業を行う。 学校司書が、授業現場で生徒と本をつなぐ支援を行う。 国際子ども図書館職員とプロジェクト主査は、授業を見学する。
(8)	2/26	評価・振り返り	授業者、学校司書、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査が集まって、(1)から(7)までを振り返る。 ※この部分は、実際には、上記4者の他に学校図書館関係者など計16名を集めた「平成22年度フィードバックミーティング(写真2参照)」として実施した。

2.4 実践を通して明らかになったこと

今回の授業者は、長年にわたって地理で調べ学習を実践してきたベテラン教員である。それがゆえに、調べ学習に必要なだと考えている事項を明確な言葉で説明することができた。この教員視点の指摘から、授業支援サービスの利用者の意見が分かる貴重な示唆が得られた。

本節では、授業者の指摘を交えながら、実践から得られた授業支援の知見を述べる。具体的には、(1)授業ごとにブックリストをカスタマイズする必要性、(2)教科教員と図書館員との視点の違い、(3)授業現場での直接支援の有効性について説明する。

(1) 授業ごとにブックリストをカスタマイズする必要性

実践を通じてまず分かったのは、調べ学習用ブックリストのための選書、言い換えれば、調べ学習用資料の選定は、対象とする授業に大きく影響されるということである。今回、授業者は、「学習用ブックリストに入れる資料は新しい方がよいが、内容が良ければ刊行年が古くても構わない。最新データは他の情報源に当たるように生徒に指導する」として、1982年刊の『旺文社 日本地理』を選んだ。この選書基準は、授業者の指導力が前提にあると考えられる。そのため、例えば授業者が新任の教員であった場合は、同じ学習内容であったとしても、選書基準は違うものになるだろう。

選書への影響という点で「授業」をとらえると、それは学習内容だけで構成されるものではなく、授業者となる教員、授業者の意図、学習者の能力、指導法、授業で資料を利用する場面などの複数の要素からなるものと考えられる。そのうちの「授業で資料を利用する場面」一つを取ってみても、それには「単元の導入の際の利用」「展開の際の利用」「終末(まとめ)での利用」「発展での利用」など様々な選択肢がある。そして、各選択肢で必要な資料も違ってくる。例えば、導入時には、単元の学習内容に興味を持たせるきっかけとなる絵本や読み物が良いが、展開時の調べ学習には事典が向いている。

プロジェクトの開始以前、国際子ども図書館職員は、どの授業でも使える、教科単元ごとの汎用的なブックリストを作成したいと考えていた。しかし、そうしたブックリストは、参考情報としては有用だが、実際の授業で使う場合には、授業を構成する他の要素も考慮してカスタマイズする必要があることが分かった。現在、多くの公共図書館や学校図書館が単元ごとの学習用ブックリストを提供しているが、そうしたブックリストが、そのままの形で授業に使えるわけではないことに留意すべきであろう。

(2) 教科教員と図書館員との視点の違い

① 「調べ学習」という言葉

学校司書及び国際子ども図書館職員(以下、「図書館員」という。)と授業者との協働作業の経験から、同じ「調べ学習」という言葉であっても、授業を担当する教科教員と支援を行う図書館員とでは、その言葉が指す定義や範囲が違う傾向があることが分かった。これは、今回の実践で分かったことの中でも、特に興味深い知見であった。

実際には、授業者は「調べ学習」を“授業の一部として行う調べ作業”にとらえ、図書館員は“自由研究的な調べ学習”にとらえていた。授業者の「調べ学習」は、教科単元の学習内容を効果的に習得させるための手法の一つであり、教科の学習内容と比べると情報リテラシーの習得に重きを置いたものではなかった。それに対して図書館員は、「調べ学習」をテーマ設定から調べた成果の整理・発表までを範囲とするものとしてとらえ、生徒が自力で探求を完成させることを目指して、情報リテラシー教育的な側面を重視していた。

授業者の「調べ学習」のとらえ方は、図書館に求められる支援の内容に関係すると考え

られる。“授業の一部として行う調べ作業”の場合、必要な資料は調べ作業で用いる材料（調査発表のパーツとなる特定テーマの資料）だが、“自由研究的な調べ学習”で必要なのは、児童生徒が情報リテラシーを体得できるような幅広い資料（コレクション）だと推測できるからだ。そこから、授業者の意図に沿った資料を準備するためには、図書館は、まず、支援対象がどちらの調べ学習であるかを確認する必要があると思われる。

② 選書用キーワード

2.3節のステップ(1)で示したとおり、今回の調べ学習支援では、授業の学習内容を関係者で共有するために、ブックリストの資料を選ぶ前の段階で、選書用に具体的なキーワード（例：リアス式海岸、阪神工業地帯）をリスト化し、関係者で検討・確認するステップを設けた。そこでの経験から、図書館員と授業者では、選ぶキーワードが異なる傾向があることも明らかになった。

このステップでは、具体的には、最初に国際子ども図書館職員が教科書や授業者への授業構想インタビューを踏まえてキーワード案を作成し、そのキーワード案を授業者が直すという手順をとった。国際子ども図書館職員が作成した案を図2-1（14ページ）、授業者が修正した案を図2-2（15ページ）に示す。図2-1の下線がついた部分は、授業者が最初案から削除したキーワードであり、図2-2の下線がついた部分は授業者が追加したキーワードである。

図2-1、2-2から見てとれるように、全体の半分以上のキーワードが、授業者の検討により削除・追加された。具体的には、生活や文化、観光、歴史に関するキーワード（例：ジギスカン、九州新幹線、武田信玄）が削除され、地理的内容に関わる用語（例：歴史的景観保全）、近年注目されている用語（例：エコツーリズム）、教科書によく出てくる用語（例：平和記念都市）が追加された。ただし、図書館員が挙げたキーワードが全く役に立たなかったわけではなく、授業者は「国際子ども図書館から提示されたキーワードリストを見て、教師の立場・発想と異なるキーワードに刺激を受けた。授業で使うブックリストには結びつかなかったキーワードも、授業の導入などでは使えそうだ。」との感想を述べていた。

図 2-1 「日本の諸地域調べ」用ブックリストの選書用キーワード <国際子ども図書館が最初に作成した案>

※下線のついたものは、最終版では採用されなかったキーワード

学習のポイント		グループ学習で対象とする地域							
		北海道	東北	東山(北関東甲信)	東海	近畿	中国・四国	九州	沖縄
1	地理的特色 (地形、気候、 <u>自然環境</u>)	寒冷地、広大な土地	やませ、リアス式海岸、奥羽山脈	富士山、日本アルプス	日本の中央、濃尾平野	大坂湾	瀬戸内海、日本海	九州山地 筑紫平野、桜島	160の島々、 <u>亜熱帯、台風</u>
2	歴史	アイヌ、開拓使	奥の細道、伊達政宗	武田信玄、登呂遺跡、 <u>長野オリンピック</u>	織田信長、豊臣秀吉、 <u>徳川家康</u>	古都	出雲大社、広島原爆、 <u>源平合戦、坂本竜馬</u>	邪馬台国、キリスト教伝来、 <u>長崎原爆、南蛮文化、西郷隆盛</u>	琉球王国 (ひめゆりの塔 (太平洋戦争))
3	観光	ニセコスキー場、アウトドア、さっぽろ雪まつり	青森ねぶた祭、 <u>藤王スキー場</u>	伊豆、善光寺	名古屋城、白川郷	<u>国際観光都市</u> 、奈良京都、伊勢神宮	鳥取砂丘、お遍路さん、よさこい、阿波踊り、 <u>金刀比羅宮</u>	大宰府天満宮、雲仙、湯布院温泉、 <u>博多どんたく</u>	リゾートホテル、 <u>沖縄ちゅら海水族館</u>
4	農業	じゃがいも、酪農	米、果物 (さくらんぼ、りんご)	果物 (ブドウ、りんご、もも)、 <u>茶、高原野菜</u>	うなぎ	梅	みかん、ブドウ、 <u>杜鰈</u> 、21世紀梨	畜産(牛、豚、鶏)、 <u>ハウス野菜、いちご</u>	さとうきび、 <u>パイナップル</u>
5	工業 (資源、エネルギー)	パルプ工業、鉄鋼	発電所 (原子力、風力、火力)	精密工業(カメラ)、紙	中京工業地帯、自動車 (トヨタ)	阪神工業地帯、清酒	瀬戸内工業地帯、 <u>石油化学、造船</u>	北九州工業地帯、 <u>鉄鋼、IC工業</u>	
6	その他の産業(商業)	観光業、漁業	漁業(まぐろ)	漁業	林業、 <u>窯業</u>	<u>天下の台所(商業)</u> 、林業、観光業		窯業	観光業
7	環境保全	釧路湿原、防雪	八郎潟の干拓	浜名湖		琵琶湖	宍道湖	屋久島、 <u>有明湾干潟</u>	さんご礁
8	人口・都市村落 (都市化)	札幌	仙台		名古屋大都市圏	関西大都市圏	広島	福岡	長寿
9	<u>生活・文化(食べ物)</u>	<u>ジンギスカン</u>	きりたんぼ、いも煮、 <u>かまくら</u>	サッカー	味噌カツ、 <u>名古屋コーチン</u>	<u>上方文化</u> 、たこやき、 <u>お笑い、京菓子</u>	<u>さぬきうどん</u> 、 <u>もたろろ(岡山)</u>	<u>さつまいも</u> 、 <u>ちゃんぽん</u>	<u>ゴーヤチャンプル</u> 、 <u>エイサー</u>
10	他地域との結び付き (国際問題、交通)	北方領土	東北新幹線	中央自動車道、 <u>東海道</u>	<u>名古屋港</u> 、 <u>セントレア</u> (中部国際空港)、 <u>東海道</u>	関西国際空港、 <u>神戸港</u>	<u>瀬戸大橋</u>	大陸文化の窓口、 <u>対馬</u> 、 <u>種子島</u>	<u>アメリカ軍基地</u> 、 <u>琉球王朝</u>
都道府県		北海道	青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島	長野、山梨、静岡	愛知、岐阜	大阪、京都、奈良、兵庫、滋賀、和歌山、三重	広島、岡山、鳥取、島根、山口、香川、愛媛、徳島、高知	福岡、長崎、佐賀、大分、熊本、宮崎、鹿児島	沖縄

図2-2 「日本の諸地域調べ」用ブックリストの選書用キーワード < 授業者が修正した最終版 >

		グループ学習で対象とする地域							
		北海道	東北	東山(北関東甲信)	東海	近畿	中国・四国	九州	沖縄
学習のポイント (5つのテーマ)		寒冷地、広大な土地、 濃霧	やませ、リアス海岸	日本アルプス	濃尾平野	近畿	瀬戸内海、鳥取砂丘、 三つの気候	桜島、阿蘇山、火山、 シラス、集中豪雨	
1	自然環境	釧路湿原、防雪、火山	自神山地		輪中	琵琶湖	ため池	屋久島、有明湾干潟 環境モデル都市 (北九州、水俣)	亜熱帯、台風 さんご礁
2	生活文化・歴史	アイヌ、開拓使	青森ねぶた祭、 夏祭り、魚鮎 保存食	歴史的景観保全 (白川郷、南木曾)	用水路の開発、 宿場町	古都、歴史的景観 商都大阪	平和記念都市広島 (海上交通)	大陸・ヨーロッパ文化 の窓口(アジアとの交流)	琉球王国、米軍統治 ゴージャスチャンプル、 エイサー、島唄、三線
3	農林水産業	じゃがいも、酪農、 太規模畑作、 稲作の北進 北洋漁業	米、果物 (さくらんぼ、りんご) 養殖、栽培漁業	果物(ブドウ、りんご、も も)、高原野菜	茶、重昭菊、 施設園芸農業	近郊農業、みかん 吉野林業	みかん、牡蠣、21世紀 梨、砂丘農業、和牛、 高知平野の野菜、いちご 沿岸漁業と養殖	北部の稲作 畜産(牛、豚、鶏)、 ハウス野菜、いちご 西海漁業と養殖	さとうきび、 ハイナッツル、 北五穀莖
4	工業・ 第三次産業	観光産業 さっぽろ雪まつり、知床	発電所(原子力、風 力)、 IC工業、伝統工業	避暑地、観光農園	伊豆	国際観光都市、伊勢神 宮	温泉、アジア人観光客	リゾートホテル、 観光産業、エコツーリ ズ	工業の選れ
5	人口、都市・村落	札幌	仙台	過疎	名古屋大都市圏	大阪大都市圏、私鉄の 郊外開発、ポートアイラ ンド、ニュータウン	広島、過疎、 町おこし・村おこし、 馬路村のゆず	福岡 離島	長寿(男女の差い)
6	他地域との関わり	北方領土	東北新幹線	中央自動車道 大都市とのつながり	名古屋大都市圏 名古屋 セントレア (中部国際空港)、 東海道	関西国際空港、 神戸港	本四連絡橋 中国自動車道	アジアとの交流	アメリカ軍基地
生徒が自分の調査 テーマとして考える 予想されるテーマ		北海道の開拓と先住民 北海道の農業 北海道の観光 札幌 北洋漁業と北方領土 (北海道の開拓:工業も)	稲作と果樹栽培 太平洋岸の漁業 工業の変化 伝統的な生活文化 仙台	北関東の産業の変化 盆地の農業の変化 高原野菜 観光の発展と影響 工業の進出と変化	中京工業地帯 東海工業地域 名古屋 集約的な農業 輪中 (静岡県の茶とみかん)	琵琶湖 古都の景観と観光 阪神工業地帯 大阪と神戸 紀伊半島の林業 (ニュータウン)	山陰の農業と人口 瀬戸内の農業と漁業 瀬戸内工業地域 南四国の農業と人口 本四連絡橋 (広島)	北九州の工業の変化 福岡市とアジア 環境モデル都市 火山とシラス 南九州の農業	独特の自然 琉球文化 農業の変化 観光産業 アメリカ軍基地
都道府県		北海道	青森、岩手、秋田、山 形、宮城、福島	長野、山梨、栃木、茨 城、群馬、(岐阜)	愛知、岐阜、静岡、三重	大阪、京都、奈良、兵 庫、滋賀、和歌山	広島、岡山、鳥取、島 根、山口、香川、愛媛、 徳島、高知	福岡、長崎、佐賀、大 分、熊本、宮崎、鹿児島	沖縄

※下線がついたものは、授業者が追加したキーワード

③ 選書基準

2.3節のステップ(2)(6)にあるように、ブックリストの選書は、国際子ども図書館が選んだ資料について関係者で中身を見ながら確認する、という手順を進めた。その経験から、選書基準の面で、図書館員が重視する事項と授業者が重視する事項に若干ずれがあることが分かった。

授業者が重視している（と国際子ども図書館職員が推察できた）事項を表2-2に、授業者がそれほど重視していない（と推察できた）事項を表2-3に整理した。なお、この基準は、東京学芸大学附属竹早中学校の社会科地理「日本の諸地域調べ」のためのものであり、安易な一般化には注意する必要がある。

表2-2 授業者が重視している（と推察できた）選書基準

- 中1「日本の諸地域」単元の学習内容に合った情報が掲載されている
 - ※資料の例：『ポプラディア情報館 日本地理』
- ・他の教科・単元（例：歴史、国語）に特化した資料は避ける
 - ※資料の例：『北海道の歴史散歩』
- ・小学校の学習内容レベルの資料は避ける
- ・都道府県ごとの地域性が分かる資料が良い（日本全体の記述しかない資料は避ける）
- ・具体的な人間の営み（エピソード）が書かれている資料が良い

- 生徒の興味を引く身近なテーマを扱っている
 - ※資料の例：『大阪検定テキスト』
- ・ただし、生徒の興味をそらしがちなテーマ（鉄道、観光など）は避ける

- 発表の材料（パーツ）にできる情報が掲載されている
 - ※資料の例：『朝日ジュニア年鑑』
- ・写真、図版、統計、地図が多い
- ・全部を読み通すことを前提とした資料（例：新書、絵本）は避ける（授業者コメント：学習後の発展には良い）

- 適切な目次がある

表2-3 授業者がそれほど重視していない（と推察できた）選書基準

- 適切な索引がある
 - （授業者コメント：あった方がよいが絶対条件ではない）

- 出版者、執筆者、編者が著名である

- 刊行年が新しい
 - （授業者コメント：新しい方がよいが、内容が良ければ刊行年が古くても構わない。最新データは別の情報源で確認するよう指導するため）

- 児童書である
 - （授業者コメント：中1なら一般書を読める生徒もいるが、今回の授業では児童書だけでも足りるだろう。）

○本全体の完成度が高い

○選書用キーワードで挙げた全てのキーワードに対応する資料を集める

(授業者コメント：資料の調査だけで学習を完成させるわけではなく、必ず教師の指導が入るため。)

上記のうち、国際子ども図書館職員が意外に思ったのは、授業者が本全体の完成度をそれほど重視していない点であった。

研究会メンバーの所属する国際子ども図書館児童サービス課では、これまで児童図書館サービスの一環として選書を行ってきた。そこでは、面白い写真が含まれる資料であっても、その中にデータが古いページがあれば選ばない、というように全体を見て資料を選んできた。しかし、表 2-2、2-3 を見るかぎり、教員は部分を見て使える／使えないの評価をしていた。つまり、教員の視点は、児童図書館サービスで培われてきた選書基準とは異なる傾向があったのである。ここから、図書館が、教科で使う資料を児童図書館サービスの視点だけに基づいて選んでしまうと、授業者の意図とずれてしまう可能性があると言えよう。

なお、児童図書館サービスの基準で選ぶ資料（具体的には、ストーリー性が高く読み物としての完成度が高い本がそれに当たるだろう）が、学校の授業で全く役に立たないわけではない。そうした本も導入時の読み聞かせで使えば、児童生徒の興味をひき、非常に有用だと考えられるからである。

他方、プロジェクト主査は、授業者の選書基準について、「授業者は、学習者の状態（学力・情報リテラシーの習得度合いなど）を意識して資料を選んでいる。今回の対象は中学 1 年生であったが、中学 2 年生であったら選ばれる本は違ってくるだろう。また今回は中学 1 年生の 3 学期であったが、同じ中学 1 年生でも 1 学期であればまた選ぶ本は異なる。」と指摘していた。

④ 授業者との打合せの必要性

これまで述べてきた視点の相違から、授業支援のノウハウとして、次のことが言える。

- ・授業支援サービスでは図書館員と授業者の視点を合わせるステップ、つまり両者の打合せが必要である。
- ・打合せの中で、具体的な選書用キーワードを授業者と共に作成・検討したり、図書館員が選書した資料を授業者が吟味・確認したりすることで、図書館員（特に、公共図書館職員）は学習のポイントや教員の視点を知ることができる。

(3) 授業現場での直接支援の有効性

2.3 節のステップ(7)で、国際子ども図書館職員は、学校に出向いて調べ学習の授業見学をした。その経験から、授業支援サービスは、資料を集めて置いておくだけでは十分でなく、授業現場での直接支援がないと効果が出にくいことが分かった。実際、授業では、背表紙のタイトルだけで資料を選ぼうとして迷っている生徒がいたが、学校司書による資料紹介によって、その生徒は欲しい情報にたどりつくことができた。適切な資料に誘導する学校図書館専門職なしでは、きちんと選書した資料も生徒の手に渡りにくいのである。

3. 実践研究② 大田区立大森東中学校「中世のものづくり」

- ・協力校 東京都大田区立大森東中学校（東京都大田区大森東 4-1-1）
- ・実施期間 平成 23 年 9 月～24 年 1 月
- ・対象学年 中学校 1 年生 2 学期（4 クラス分）
- ・対象教科単元 社会科歴史「中世のものづくり」
- ・協力者（敬称略。所属は実施当時のもの。）
小石都志子（大田区立大森東中学校 教諭）



写真 3) 大森東中での打合せ



写真 4) 調べ学習の授業

3.1 学校と学校図書館の概要

大田区立大森東中学校は、平成 23 年に創立 30 周年を迎えた東京の区立中学校である。1 学年には 4 クラス設置されている（平成 23 年度時点）。部活動がとても盛んで、打合せで学校へ行くと、いつも、熱心に部活動に取り組む生徒の姿を見ることができた。

大森東中学校の学校図書館は、校舎の 2 階にある。図書費の予算が比較的あるとのこと、新しい資料が目立つ蔵書構成であった。目録の電子化も完了している。

東京都大田区では、学校図書館に学校司書などの専門職は配置されておらず、また、いわゆる学校図書館支援センターも設置されていない。今回の実践研究の協力者である小石氏が赴任する以前は、教科の授業で同校の学校図書館が使用された例はほとんどなかったとのことだった。なお、実践研究の期間中、小石氏は授業で使用できる状態になかった学校図書館の整備を徐々に進めていた。

なお、公共図書館は区内に 16 館あり、館ごとに担当する学校が決められている。学校への団体貸出制度はあるものの、小石氏の赴任前は大森東中学校が公共図書館の支援を積極的に受けた実績はなかったとのことだった。

3.2 授業の概要

今回対象としたのは、日本の歴史「中世のものづくり」をテーマとした調べ学習である。これは、中1社会科「東アジア世界とのかかわりと社会の変動」単元の最後に、発展として行う授業であった。授業者は、「(京浜工業地帯に住む)同校の生徒にとって、職人は身近な存在であるので、職人の仕事の中世に端を発していることを感じさせたい」と述べていた。授業のねらいは、中世の農業改革と商品経済の発展による民衆の力の伸長を理解することであった。

授業者は、これまでの赴任校で、長年にわたって図書館を活用した学習に取り組んできていた。しかし、今回の実践研究の時期が、大森東中学校に着任した初年度だったこともあり、(司書教諭の資格は持っているが)司書教諭の発令はされていなかった。プロジェクト主査は、小石氏の状況について、「学校の中で点として存在して、図書館を使った学習に取り組んでいる教員だ」¹と指摘し、こうした状況にある教員は全国的に存在していると述べた。

学習者は、中学1年の生徒(4クラス)である。調べの経験が少ない生徒が多いため、授業者は今回の授業を“調べの第一歩”と位置付けていた。なお、生徒は、この授業までに、同じ社会科で「古代の寺と人物調べ」という簡単な調べを行っていた。

「中世のものづくり」調べには、当該単元の学習時間(全10時間)のうち、6時間目、7時間目、8時間目の3時間が当てられた。その前の時間では、教科書等に沿った講義形式の授業が行われた。

調べ学習は、平成23年12月から24年1月にかけて実施された。授業が行われたのは、各クラスの教室であった。授業者は、学習指導案を半年以上かけて検討し、最終的に、絵巻物に描かれている働く民衆の姿を資料から探し出し、トレーシングペーパーに模写する、というやり方を取った。生徒が模写した作品は、最後にクラスごとに貼り合わされ、絵巻物の形にまとめられた。生徒には、授業終了後、調べ学習の授業や使った資料の感想を尋ねるアンケートに答えてもらった。詳しい授業内容とアンケートの結果は、参考資料2-1「大田区立大森東中学校 授業実践ドキュメント」(63ページ)を参照されたい。

3.3 調べ学習支援の流れ

図書館による調べ学習支援は、次ページの表の手順で、平成23年9月から平成24年1月にかけて行った。

この事例の特徴は二つある。第一は学校図書館に学校図書館専門職がない中での調べ学習であること、第二は授業者と図書館が授業作りの段階から協働したことである。なお、国際子ども図書館職員は、公共図書館の視点で作業に参加した。

1 国際子ども図書館で開催した「平成23年度児童サービス協力フォーラム」(平成24年3月12日開催)では、こうした“点として存在している教員”への支援の重要さが、プロジェクト主査から指摘され、第二部ディスカッションでは、点として存在している教員への支援の在り方が取り上げられた。詳しい議論の内容は、下記ホームページを参照のこと。

国際子ども図書館. 平成23年度児童サービス協力フォーラム 第二部ディスカッション記録. <http://www.kodomo.go.jp/study/cooperation/forum/2012.html#anchor1> (accessed 2012-5-17)

表 3-1 東京都大田区立大森東中学校における調べ学習支援の手順

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(13)評価・振り返り」時の感想・コメント
(0)	-	事前準備	国際子ども図書館職員は、教科書を読んでおく。	
(1)	H23/9/27	授業者への授業構想インタビュー①	プロジェクト主査と国際子ども図書館職員が、授業者に、学習用ブックリストの対象となる授業の構想（授業目的・調べる方法・時間数・授業日程等）をインタビューする。授業者は、インタビューを受けながら、調べ学習のテーマを検討する。	・授業者は、時間をかけて指導案を固めていたが、今回、図書館はその授業作りに対して十分に支援できなかった。授業作りに対する支援を効果的に行うためには、ステップ(1)のインタビューで、授業作りの方法や当該時点での授業作りの段階を聞いておくべきだった。(国際子ども図書館職員:ILCL)
		ブックリスト選書用のキーワード案作成	授業者とプロジェクト主査が、教科書を見ながら、ブックリスト選書用のキーワードを挙げる。	・教科書会社によって、出てくるキーワードが違うこともある。複数の教科書を見比べることができれば、より良かっただろう。(授業者) ・複数の教科書を揃えることは、公共図書館に期待される支援内容だろう。(プロジェクト主査:主査)
(2)	~10/3	ブックリスト選書用キーワードの確認・確定	三者で確認し合いながら、ブックリスト選書用キーワードを確定させる。	
(3)	~10/18	一次選書	国際子ども図書館職員が、OPAC等を活用して、選書用キーワードを基に選書を行う。一次選書リストを作成する。	・一次選書では、選書用キーワードを使ってOPACを検索した。しかし、そこでヒットした資料をそのままリスト化することはしなかった。図書館の担当者が資料の中身を見て、一次選書リストに載せるかどうかを判断するステップを設けた。(ILCL) ・リストに、資料の内容情報も含まれていて、助かった。(授業者)
(4)	10/22	一次選書の資料の収集	国際子ども図書館職員が、一次選書リストを基に、国際子ども図書館の所蔵資料の中から資料を集める。	・中身を見ながら資料を検討できたのが、とても良かった。授業者と図書館員で授業構想を一緒に検討する作業には、授業者にとって、授業のねらいを明確にできる効果があると思う。(授業者) ・教材となる資料の内容が分からないと、調べ学習の指導案も具体化しにくい。その意味で、このステップには大切な意味がある。(主査)
		一次選書の検討(授業者への授業構想インタビュー②)	授業者と国際子ども図書館職員が、実際の資料の中身を確認し、使い方を検討する。あわせて、リストに追加すべき資料を選定する。授業者は、授業で資料をどう活用するかを考え、授業のテーマを検討する。	

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(13)評価・振り返り」時の感想・コメント
(5)	11/2	二次選書	国際子ども図書館職員が、(4)の結果を受けて、ブックリストを修正(資料の追加・削除)し、二次選書リストを作成する。	
(6)	～12/7	指導案の検討	授業者が、二次選書リストを参考に、授業のテーマと指導案の検討を進める。[実際には、(7)の資料の収集と同時並行で行った。]	
(7)	11月中旬 ～11/28	授業用の資料の収集	授業者が、公共図書館に依頼して、(5)の二次選書リストをもとに、授業用資料を収集する。[実際には、団体貸出しを申し込む形で、公共図書館に資料収集を依頼した。]	<ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館に資料収集を依頼できたのは助かった。しかし、公共図書館から学校への配送サービスがなかったため、学校まで資料を運ぶのが大変だった。(授業者) ・学校への配送サービスがないと、学校現場で本を使った学習をするのが難しくなる。しかし、公共図書館が配送サービスを行っているところでも、利用する教員が少ないために、サービスの継続が困難になっている事例があると聞く。両方がそろっていることが大切なのだろう。(主査)
(8)	11/28頃	指導案の作成	授業者の中で授業のテーマが固まる。指導案を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・このころ、授業のテーマを「中世のものづくり」とする決心がついた。(授業者)
		二次選書の修正	授業者が(7)で収集した資料を確認する。足りない分野については、公共図書館に依頼して、新たな資料を追加する。	
(9)	12/7	授業者への授業構想インタビュー③	授業者は、国際子ども図書館職員と確認し合いながら、指導案を詰める。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備では、資料の背にマスキングテープを貼り、その上に通し番号を振るなどの作業を行った。(ILCL) ・今回の授業では、生徒たちに短時間で調べをさせたので、資料に振られていた通し番号が役立った。(授業者)
		授業準備	国際子ども図書館職員が、授業者と共に、調べ学習のための資料準備(資料へのラベル付けや資料排架など)を行う。	
(10)		指導案の修正・確定	授業者が、(8)の指導案を修正し、指導案を確定させる。[実際には、(11)の授業実践のうち、初回授業の様子を見た上で、指導案の修正を行った。]	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の授業の状況を見て指導案を修正するという方法は、中学校でよく行われるやり方である。複数クラスの授業を教員一人が担当するところが多いためである。(主査)
		ブックリスト完成	授業者が、確定した指導案を基にブックリストを修正し確定させる。	

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(13)評価・振り返り」時の感想・コメント
(11)	12/12~20	授業実践 (4クラス分)	授業者が、ブックリストの資料を用いて、授業を行う。学習後、生徒の感想を知るためのアンケートを実施する。 国際子ども図書館職員は、授業を見学する。	・生徒へのアンケートは、学校ではよく行われる。頼まれば、抵抗感なくやってくれる教員も多いだろう。(授業者) ・生徒のアンケートと一緒に、授業者の感想も聞いておくとよい。量的な結果だけでなく、質的な結果が得られるようなアンケート内容にするとより良いだろう。(主査)
(12)	12/22	後片付け	国際子ども図書館職員が、授業者とともに、学習後の後片付け(公共図書館への資料返却等)を行う。	・国際子ども図書館職員が資料の選書・排架・返却をやってくださったって、とてもありがたかった。(授業者)
(13)	H24/1/24	評価・振り返り	授業者、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査が集まって、(1)から(12)までを振り返り、作成したブックリストや図書館による授業支援方法を評価する。	・振り返りをすることで、今回の授業の成果を次の授業にいかせる。図書館員と今度はこうしようと相談できる。(授業者)

3.4 実践を通して明らかになったこと

本節では、実践研究を通して得られた授業支援の知見を述べる。具体的には、(1)学校図書館に学校図書館専門職がない中での調べ学習、(2)教員の授業作りに対する支援、(3)国立である学芸大学附属竹早中学校と区立である大田区立大森東中学校の違いの3点について説明する。

(1) 学校図書館に学校図書館専門職がない中での調べ学習

① 調べ学習の効果

今回の学習者は、資料を使った調べに馴染みのない生徒であった。授業後のアンケートで、資料を使った調べ学習が好きかどうか尋ねたところ、「はい」が66人、「いいえ」が49人という結果であった(参考資料2-1参照)。「いいえ」と答えた生徒が、「調べるのに時間がかかりすぎて、居残りになって難しかった」「本によっては調べたいものがのっていないものもあって、さがすのが大変でした」という感想を寄せていたことから、適切な資料を選ぶことの難しさが学習者の印象を左右していると推測できる。現場で直接支援する学校図書館専門職がいなかったことも、学習者の調べ学習の成果に少なからず影響しているとも考えられる。

しかしその一方で、「本に書いてあることをうつしたり、かいたり、読み取ったりすることが難しいけど、楽しいです」「最初は興味がなかったけど、調べていくうちに興味を持った」という肯定的な感想を書いた生徒も目立った。授業者も、通常の講義中心の一斉授業と違う、調べ学習の効果を実感しており、「調べ学習を行うことで、生徒の資料を読み取る

力が向上し、その後の授業に対する反応も良くなった」という感想を持っていた。十二分の成果とまでは言えないかもしれないが、学習者にとっても授業者にとっても調べ学習の成果はあったと言えよう。

② 調べ学習を行うための最低条件と公共図書館による支援

今回の学校図書館には学校司書などの学校図書館専門職が配置されていないが、1.1節で述べたように、このような状態にある学校図書館は決して珍しくない。全国的に見れば、学校司書などが配置されている学校は、小中高等学校の約49%である²。こうした状況の中で、図書館を使った調べ学習に取り組む場合に、まず学校図書館の何から手を着けたらよいのか、公共図書館に期待する支援は何かについて、実践の最後に、授業者とプロジェクト主査を交えて議論を行った。そこでの主な指摘を紹介する。

- ・授業で学校図書館を使うためには、学校図書館の書架を分類順に排架整頓し、学校にどの分野の本がどのくらいあるかを知ることから始める必要がある。それがあって、公共図書館から足りない本を借りることができる。排架の次の段階は、使いやすいように書架にサインを付けることだ。学校司書がない場合は、公共図書館の職員に書架の整備を手伝ってもらえると助かる。今回は一人でやってとても大変だった。(授業者)
- ・こういう状況で教員として公共図書館に期待するのは、やはり学校図書館にない資料の貸出しだ。ただし、学校への配送が付いた貸出しでないと、利用しにくい。学校司書がいればサポートを頼むこともできるが、いない場合は授業者自身が本の搬送まで行わなければならない、それが出来ない教員は資料を使った学習をあきらめてしまう。(授業者)
- ・資料の配送は第一の課題だが、公共図書館から学校への配送を実現していても、学校の利用がなく、サービスの継続が難しくなってしまった地域もあると聞いている。資料配送の実施は、学校の継続的な利用とセットでないと続かない。一般の学校教員に“図書館を使う”という意識があまりないので、公共図書館側で教員向けの研修や広報をしていくことが大切だろう。(プロジェクト主査)
- ・学校図書館に人がいて、その人と授業者と公共図書館の三者で協働するのが理想だが、そもそも三者が揃わないところも多い。学校司書がいた竹早中学校の実践と今回の実践の経験を比べて考えると、学校図書館に人がいることの効果が分かる。(国際子ども図書館)
- ・学校図書館に専門職がない状況では、授業者をサポートできるのは公共図書館の職員しかいない。そのため、本来であれば学校図書館が担当すべき作業を公共図書館が補助する必要も出てくるのではないか。今回、国際子ども図書館が行った、授業のための資料準備はそれに当たる作業だと思う。図書館を使った学習を推進するためには、学校図書館に人がいない地域ほど、公共図書館に期待される役割は大きくなる。(国際子ども図書館)

(2) 教員の授業作りに対する支援

授業作り・授業研究に対する支援は、授業自体への支援とともに、図書館に期待される

2 文部科学省. 平成22年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について. http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/06/1306743.htm (accessed 2012-5-15)

分野である。プロジェクト主査は、「図書館が過去の実践事例や学習指導案などの情報を提供すれば、教員の授業作りの役に立つだろう」と、図書館による情報提供の可能性を示唆した。

前節で示したとおり、今回の実践では、授業者は調べ学習用資料の選書と並行して授業作りを進めていた。しかし開始当初、国際子ども図書館職員は、授業作りが並行して進んでいることに気付かず、学習指導案が完成している前提で支援に取り組んでいたために、授業作りに対して十分な支援を行うことができなかった。国際子ども図書館職員のミスリーディングは、今回のケースに、授業イメージが最初から明確であった竹早中学校の経験（第2章）を当てはめていたことが理由だと考えている。

今回の経験を通して、教員の授業作りのスタイルは個人ごとに様々であることが分かった。ここから図書館は、授業を支援するに当たって、授業者の授業作りがどの段階にあるかを把握する必要があると考えられる。そして、授業作りの段階を的確に知るために、3.3節のステップ(1)で行う授業者インタビューの内容を工夫する必要があると推察できた。そこで、この点を学校図書館実践者へのインタビュー（第5章）で取り上げ、実践者の意見を聞くこととした。

直接的な援助ではなかったものの、調べ学習用資料の検討という作業が、教員の授業作りにも貢献していた。授業者は、「中身を見ながら資料を検討できたのが、とても良かった。教材となる資料がどんな内容か分からないと、調べ学習の指導案も具体化しにくい。授業構想を図書館員と協働で検討することは、授業者が授業のねらいを明確にできる効果もある」という感想を持っていた。

(3) 学芸大学附属竹早中学校と大田区立大森東中学校との違い

本章の最後に、国立中学校である学芸大学附属竹早中学校と区立中学校である大田区立大森東中学校との相違について、簡単に触れておきたい。

結論からいうと、両校の実践研究の経験からは、国立中学校と区立中学校という学校種別による違いは、あまり感じられなかった。教員養成大学の附属校である竹早中学校は、学外者の授業参観が日常的であったため、竹早中の生徒の方が授業見学に慣れていたという違いはうかがえたが、授業支援サービスに関わる部分で学校種を理由とした相違は見られなかった。もちろん、学習者の様子や授業者の授業作りのスタイル、学校図書館の状態などの多くの面で両校に違いはあったが、こうした違いは学校種に基づくものとは考えにくい。

むしろ、両校の相違で重要だと思われたのは、学校種ではなく、授業者の授業スタイルであった。両校とも授業者はベテランの社会科教諭であるが、以前の授業をアレンジする形で授業作りを行っていた竹早中の荒井氏と、一から授業作りを行った大森東中の小石氏とでは、インタビューで聞くべき内容や図書館に期待される支援内容が違っていたからである。

4. 実践研究③ 荒川区立第三峡田小学校「江戸の文化と新しい学問」^{はけた}

- ・協力校 荒川区立第三峡田小学校（東京都荒川区荒川 1 - 43 - 1）
- ・実施期間 平成 23 年 8 月～23 年 11 月
- ・対象学年 小学校 6 年生 2 学期（1 クラス分）
- ・対象教科単元 社会科歴史「江戸の文化と新しい学問」
- ・協力者（敬称略。所属は実施当時のもの。）
川島徹（荒川区立第三峡田小学校 主任教諭）
吉田香奈子（荒川区立第三峡田小学校 学校司書）
藤田利江（荒川区教育委員会指導室学校図書館支援室 主任学校図書館指導員）



写真 5) 第三峡田小での打合せ



写真 6) 調べ学習の授業

4.1 学校と学校図書館の概要

荒川区立第三峡田小学校は、90 年以上の歴史を持つ東京の区立小学校である。単学級（1 学年 1 クラス）の学校で、学校パワーアップ事業の一つとして学校全体で図書館を積極的に活用している。

学校図書館は、校舎の 1 階にあり、蔵書数はおよそ 7,500 冊である（平成 23 年度末現在）。学校司書は平成 19 年度から配置されている。平成 23 年時点では、吉田氏が非常勤の学校司書として 1 日約 6 時間・週 5 日勤務していた。学校図書館では、児童が進んで図書館に足を運ぶことができるように、図書館前のスペースを使った展示や始業前の図書館開放などの様々な取組を行っている。放課後も児童の元気な声が絶えない図書館である。

東京都荒川区は、平成 19 年度後半および平成 20 年度に文部科学省の推進事業として学校図書館支援センターを設けた後、平成 21 年度から教育委員会の下に「学校図書館支援室」を本格的に設置し、区を挙げて学校図書館活性化事業を推進している。区内の全校に学校司書が常駐し、各館の蔵書は図書標準 100% を達成すると共に、目録の電子化も完了して

いる。全国的に見て、荒川区の学校図書館は充実した状況にあると言える。

学校図書館支援室は、学校図書館の環境整備のアドバイスや学校司書の研修を実施すると共に、学校図書館を活用した指導案の作成やモデル授業の実施など、学校教育のカリキュラムに踏み込んだ支援を展開している。これは、全国的に見ても、現時点で最も充実した学校図書館支援と言える¹。また、学習・情報センターとしての学校図書館活動に関わる研究にも取り組んでおり、文部科学省の研究指定による「学び方を学ぶ場としての学校図書館機能強化プロジェクト」を平成 21 年度に実施していた。国際子ども図書館のプロジェクトへの協力も、学校図書館支援室を中心に取り組んだものである。

4.2 授業の概要

今回対象としたのは、社会科歴史の「江戸の文化と新しい学問」単元の最後に行われる調べ学習である。

学習者は、第三峡田小学校 6 年 1 組 26 名であった。授業者は、今回の授業に先立ち、1 学期に“調べる方法を学ぶ授業”を 2 時間実施した。これは、学校図書館支援室の主任学校図書館指導員である藤田氏と協働で実施した授業で、藤田氏が作成したワークシート（「太陽チャート」「そのままカード」など）を用いて、情報の読み取り方やまとめ方など、調べるスキルの初歩を指導した（表 4-1 参照）。児童の「もっとやりたい」との声を受けて、授業者はその後、同じ方法で、理科の時間に「からだ調べ」を行った。

表 4-1 調べる方法を学ぶ授業

- ①調べるテーマを文章化する。一つのキーワードからいくつか疑問を出す。
⇒⇒「太陽チャート」を使用する。
- ②資料を使って、疑問を調べる。
- ③疑問に対する答えを書き写す（引用）。
⇒⇒「そのままカード」を使用する。
わからない事は、わからない言葉のまま書き写す。
- ④いくつかのカードを、箇条書きで合体する。
⇒⇒「まとめカード」を使用する。
自分の言葉で書く。イラストを付けてもよい。
(途中、二人一組で、調べていること・もっと調べたいことをインタビューし合ってもよい)
- ⑤調べたことに対する自分の考えを書く。
⇒⇒「感想カード」を使用する。
- ⑥「まとめカード」と「感想カード」を 1 枚の画用紙に貼ってまとめる。
- ⑦発表。作品を掲示し、簡単に説明する。

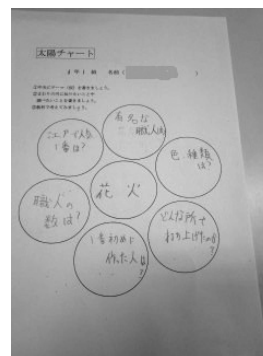


写真 7) 太陽チャート

1 岩崎れい. 学校図書館をめぐる連携と支援：その現状と意義. カレントアウェアネス. No.309, 2011.9, p.23-28

- ※「太陽チャート」「そのままカード」等を使った調べる方法については、以下も参照。
- ・内田洋行教育総合研究所 「学びの場. com：学校図書館を活用した調べる学習 ～どう情報を読み取りまとめるか、児童・教員共に学ぶ―東京都荒川区教育委員会 学校図書館支援室・藤田利江 主任学校図書館指導員―」
<http://www.manabinoba.com/index.cfm/6,16813,14,html> (accessed 2012-5-15)
 - ・「調べ学習を調べる 上」毎日小学生新聞 2011年11月7日号 p.1-2
 - ・「調べ学習を調べる 中」毎日小学生新聞 2011年11月8日号 p.1-2
 - ・「調べ学習を調べる 下」毎日小学生新聞 2011年11月9日号 p.1-2

授業者の川島氏は、1学期の授業で児童が得た“調べることへの自信”の強化を、今回の調べ学習に期待していた。授業のねらいは、単元の学習内容を発展させて自主的な探究につなげること、児童が調べることに自信をつけて、調べる楽しさを知ることであった。

資料を用いた調べ学習には、当該単元の全授業時間（7時間）のうち6時間目と7時間目を当てた（計2時間）。なお、1～5時間目は、教科書に沿って講義形式の授業が行われた。調べ学習には、前述の“調べる方法を学ぶ授業”でやった方法、つまり「太陽チャート」「そのままカード」「まとめカード」「感想カード」を使った方法を採用し、その最後に、児童は「まとめカード」「感想カード」を画用紙に貼り、それを見せ合い紹介し合った。

調べ学習の授業は、学校図書館で行われた。授業の実際の様子は、巻末の参考資料3-1「荒川区立第三峡田小学校 授業実践ドキュメント」（72ページ）を参照されたい。

4.3 調べ学習支援の流れ

図書館による調べ学習支援は、下記の表の手順で、平成23年8月から11月にかけて行った。この事例の特徴は、授業者、学校司書、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査に、学校図書館支援室の指導員を加えた五者で協働したことである。なお、国際子ども図書館職員は、公共図書館の視点で作業に参加した。

表4-2 荒川区立第三峡田小学校における調べ学習支援の手順

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(7)評価・振り返り」時の感想・コメント
(0)	—	事前準備	国際子ども図書館職員は、教科書を読んでおく。	
(1)	H23/7/28	授業者への授業構想インタビュー	プロジェクト主査と国際子ども図書館職員が、授業者に、学習用ブックリストが対象とする授業の構想（授業目的・調べる方法・時間数・授業日程等）をインタビューする。学校図書館支援室の指導員が同席し、資料や学校図書館の授業での使い方をアドバイスする。	・教科書を見ながら話し合ったのが、分かりやすかった。（プロジェクト主査：主査） ・授業者へのインタビューを通して、資料を使う子どもたちの状況（調べ学習の経験等）が分かって、選書の参考になった（国際子ども図書館職員：ILCL） ・司書教諭がない今回の場合、支援室指導員のアドバイスには司書教諭の機能を補完する意味もあっただろう。（主査）

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(7)評価・振り返り」時の感想・コメント
(1) 続き		ブックリスト 選書用のキー ワード案の作 成・確定	<p>授業者が、指導案に基づいてブックリスト選書用のキーワード案を作成する。</p> <p>関係者で確認し合いながら、キーワードを確定させる。</p>	<p>・キーワードを提示したら、充実した資料が集まったので驚いた。(授業者)</p> <p>・授業者とキーワードを確認し合うことで、授業者が重視されている点や当該小単元の学習ポイントが分かった。(ILCL)</p>
(2)	～8/15	一次選書	国際子ども図書館職員が、OPAC等を活用して、選書用キーワードを基に一次選書を行い、一次選書リストを作成する。	<p>・たたき台となる一次選書リストを作ってもらえたのが助かった。自館にない資料も紹介してもらえた。(学校司書)</p> <p>・リストに、資料の内容が分かる情報(「補記」欄)が含まれていたのが良かった。(支援室指導員)</p>
(3)	8/16～8/30	資料集め	学校司書が、支援室指導員の協力を得ながら、一次選書リストの資料を集める。	<p>・リストがあったので資料を集めやすかった。資料集めでは、荒川区の公共図書館に全面的に協力していただいた。(学校司書)</p> <p>・他校の学校図書館から資料を借りてきてくださるなど、支援室指導員が資料集めを手伝ってくださり、とても助かった。(学校司書)</p>
(4)	8/30	一次選書の検討	<p>授業者、学校司書、支援室指導員、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査で、(3)で集めた資料を確認しながら、一次選書リストや追加候補資料を検討する。</p> <p>⇒資料現物を見ながら、当該授業のための選書基準や授業案を固める。</p>	<p>・資料現物を見たことで、児童が資料を使う様子を具体的にイメージでき、効果的に選書を進めることができた。(授業者)</p> <p>・付箋を付ける、必要箇所のコピーを準備するなど、個々の資料の使い方を具体的に検討することができた。(ILCL)</p>
(5)	9/1～9/8	二次選書の作成・検討	<p>国際子ども図書館職員が、(4)の検討結果を受けてブックリストを修正(資料の追加・削除)し、二次選書リストを作成する。</p> <p>授業者が、二次選書リストを確認し、確定させ、ブックリストを完成させる。</p>	<p>・完成したブックリストを見て、支援室指導員、学校司書、国際子ども図書館職員という視点や役割が違う三者で選書した効果を感じた。今回の学習に合った、幅広い資料を準備することができた。(ILCL)</p>

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(7)評価・振り返り」時の感想・コメント
(6)	9/12～30 うち 調べ学習 9/26～30	授業実践	授業者が、ブックリストの資料を用いて授業を行う。 学校司書が、授業現場で児童と本をつなぐ支援を行う。支援室指導員が補助をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・調べるテーマに合った資料が揃っていたので、2時間という少ない時間だったが、調べ学習をうまく進めることができた。子どもたちの満足度も高かったようだ。(授業者) ・用意した本を、4,5冊続けて読む子が多くいた。(支援室指導員) ・調べ学習前から教室に資料を置いておいておいたが、そうした資料の中でも、『落語絵本』が人気だった。絵本から落語に興味を持ち、字の多い落語の本を読む子もいた。(学校司書) ・(調べ学習用の資料を事前に読み込む時間があったので)うまく調べられない子に適切な資料を手渡すことができた。(学校司書)
(7)	11/29	評価・振り返り	授業者、学校司書、支援室指導員、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査が集まって、(1)から(6)までを振り返り、授業支援方法や作成したブックリストを評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の満足度も高く、充実した調べ学習をすることができた。また、このような振り返りの時間があると、結果を確認でき、次の授業にもつなげられると思う。(授業者) ・今回の学習支援が、協働作業だったということを改めて感じた。支援室の藤田先生が、司書教諭的機能を補完してくださっていることが分かった。(学校司書) ・今回のケースを通じて、支援室指導員の重要な機能が授業支援であることを再確認できた。(支援室指導員) ・振り返りの時間があることで、自分たちが選んだ本に児童がどう反応したか分かった。今後の選書の参考にしたい。(ILCL) ・今回は、支援室指導員が核となることで、授業者、学校司書、学校外の図書館(ILCL)、支援室指導員の四者がチームになって授業支援を行うことができたと言える。(主査)

4.4 実践を通して明らかになったこと

本節では、今回の実践研究から得られた授業支援の知見を記す。具体的には、(1)学習者の調べ経験に応じた資料提供、(2)協働で行う授業支援の効果、(3)小学校と中学校の相違の3点について述べる。

(1) 学習者の調べ経験に応じた資料提供

今回の学習者は、情報リテラシースキルが初歩段階だと思われる小学6年生であった。児童は、前学期に、“調べる方法を学ぶ授業”を受けており、「江戸の文化と新しい学問」で調べ学習は3回目となる予定であった。

前節で示したステップ(1)とステップ(4)の打合せの中で、学校図書館支援室の指導員とプロジェクト主査から、学習者の調べ経験を踏まえたアドバイスがあった。それは例えば、「(調べ学習用資料には) 絵や写真が多い資料が良い。特に、児童の目を引くとつきやすい本、読みやすい易しめの本が良い。」「1時間の授業は、児童が見開き2ページの情報を抜き出したくらいで終わりだろう。何冊か見比べる時間はなさそうだ。」「本のページをめくるのに慣れていない児童のために、複数のテーマを含む本には該当箇所が付箋を挟んでおくとよい。」などであった。これらのアドバイスに従って、児童に適した資料を選び、また授業前には、資料中の該当箇所が付箋を挟む、資料の背にマスキングテープを貼って通し番号を振るなどの準備を行った。

その結果、2時間という限られた授業時間であったが、児童は全員、自分の調べを完成させることができた。授業後、児童にアンケートを取ったところ、「資料を使った調べ学習は好きですか?」という問いに対して26人中23人が「好き」と答えた。(参考資料3-1参照) このように調べ学習が成功したのは、その理由に、学習者の調べ経験を踏まえた資料提供があると考えられる。

プロジェクト開始以前、国際子ども図書館職員は、調べ学習の中の情報リテラシー教育の要素を重視していたために、直感的に内容が分かる易しめの本の用意や資料中の該当箇所への付箋のような“調べの近道を作る”ことは避けた方がよいと考えていた。しかし、今回の経験から、調べる経験の浅い学習者が対象の場合は、児童生徒が図書館や調べ学習を好きになるように、また教科の学習内容の習得を優先させるために、“調べの近道を作る”ことも大切だと分かった。

(2) 協働で行う授業支援の効果

今回の実践から、授業者、学校司書、学校図書館支援室の指導員、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査という異なる役割を持つ者が、協働して調べ学習支援を行うことの効果が明らかになった。各自の役割に根ざした多様な視点が入ることで、支援内容の幅が広がり、授業者や学習者に調べ学習の成功を実感してもらいやすくなるのである。

① 選書

協働の効果は、まず、国際子ども図書館職員(学校外の図書館)、学校司書、支援室指導員の三者がそれぞれの視点を持って協働で選書した結果、授業に適した多様な資料を準備

できたことに現れた。資料の多様さや豊富さは調べ学習の充実度を左右すると考えられるものだが、一人だけの選書では資料の広がりには限界があろう。今回の協働選書で、学校司書や支援室の指導員は、国際子ども図書館職員が作成した選書リストから学校図書館にはない面白い資料を知ることができ、国際子ども図書館職員は、児童の身近にいる学校司書や支援室指導員だからこそできる、児童の特性に寄り添った資料を知ることができた。協働での選書は、お互いの選書の視点を学び合うことにもなり、図書館員の選書眼を養うことにもつながることも分かった。

② 教室での事前展示

今回の単元は、1～5時間目は教室での講義形式の授業、6、7時間目が学校図書館での調べ学習という構成で行われた。この1～5時間目の間、調べ学習用資料をクラスの教室に置いておき、児童が自由に目を通せるようにした。これは、調べ学習に当てる授業時間が2時間しかなかったため、限られた時間で効率よく調べが進められるように、五者で相談して行った工夫である。

この事前展示のおかげで、調べ学習の前に児童のほとんどが資料に目を通し、調べ学習当日はスムーズに本を選ぶことができた。ここから、児童をよく知る授業者と資料をよく知る図書館員とが授業の準備段階から協働することが、学習の効率を高める工夫の取り入れにつながったと言える。

③ 学校図書館支援室が関与することの効果

最後の振り返りの場で、プロジェクト主査から次のような指摘があった。

この事例では、学校図書館支援室の指導員が、授業者と図書館との間を取り持つコーディネーターの役割を果たしていた。さらに指導員は、司書教諭的な役割も補完していた。今回の調べ学習支援は、五者がチームとなって実施したととらえることもできるが、そのチームの核は学校図書館支援室の指導員だったのである。

3章で述べたように、授業者と図書館員には視点が異なる部分がある。打合せの場に、両者の視点が分かるコーディネーターが同席することで、協働の効果をより高められると言えよう。

(3) 小学校と中学校の相違

第三峡田小学校での経験と既述の中学校での経験から、小学校と中学校では教員の授業作りのスタイルに異なる傾向があることが明らかになった。これは、学校の現場にいる者にとっては自明のことかもしれないが、学校外の者にとっては見えにくい部分だと思われるので、簡単に触れておきたい。

3校での経験を比べると、中学校と小学校の相違は教科学習の担当制の違いによるものだと考えられた。具体的に言えば、中学校の教科担任制と小学校のクラス担任制による相違である。中学校の教員は、普通、特定の教科（例えば社会科）を担当し、その教科を複数のクラスで教える。そのため、教科学習の中に調べ学習を取り入れる場合、教科の授業の枠の範囲でどこに入れるかを考えることになる。また、複数のクラスを教えるため、授業を実施しながら、多少、調べ学習の指導方法を試行錯誤する時間を持つことができる。実際、竹早中学校の授業者は、地理の教科を4クラスで教えており、最初に授業を行った

クラスの経験（生徒の反応等）を、次のクラスの授業にいかしていた。他方、小学校は一人の教員が一つのクラスのほぼ全ての授業を担当するため、クラスの枠の範囲で授業時間や学習内容を多少変更できる。実際、第三峡田小学校の調べ学習は2時間続きの授業時間を設けて行われた。

こうした教科学習の担当制の違いは、調べ学習の内容に影響を与えるものであるため、図書館が授業支援サービスの内容を考える際に無視できない要素だと考えられる。例えば、第三峡田小学校では、調べ学習の授業の前から6年1組の教室に調べ学習用資料を展示するという授業支援サービスを行ったが、これは小学校だからこそ可能な工夫で、複数クラスを範囲とした中学校では難しいと考えられる。

5. 学校図書館実践者へのインタビュー

：効果的な授業支援の在り方とは

2章から4章で述べた授業支援の知見をさらに深めるために、平成24年3月、中学校の学校図書館で授業支援を実践している方々を中心に、インタビューを行った。このインタビューは、図書館による調べ学習支援の効果的な在り方をテーマに、教員、司書教諭、学校司書として学校現場で活躍している実践者の経験則を明らかにすることを目的としていた。本章では、その主な内容を紹介する。

- ・日時 平成24年3月19日（月）14:00～17:00
- ・場所 国際子ども図書館 研修室
- ・参加者（敬称略。所属は実施当時のもの。）（○オブザーバー、◎主査、△委員）
 - 実重和美（島根県松江市立東出雲中学校 学校司書）
 - 村上恭子（東京学芸大学附属世田谷中学校 学校司書）
 - 遊佐幸枝（東京純心女子中学校 司書教諭）
 - 中山美由紀（東京学芸大学附属小金井小学校 学校司書）
 - 赤木裕朗（神奈川県相模原市立藤野小学校 教諭）
 - ◎鎌田和宏（帝京大学 文学部教育学科・教職大学院教職研究科 准教授）
 - △小林直子（国際子ども図書館児童サービス課長）
 - △濱田久美子（国際子ども図書館 児童サービス課課長補佐）
 - △橋詰秋子（国際子ども図書館 児童サービス課企画推進係長）
 - △高宮光江（国際子ども図書館 児童サービス課企画推進係）
 - △田中千穂子（国際子ども図書館 児童サービス課企画推進係）

○調べ学習支援の手順について

鎌田 今回の実践研究では、私が中山さんや村上さんと以前に作成した『司書と先生が選んだ調べるための本』¹で使った学習用ブックリストの作成手順を準用して、3つの学校で調べ学習の支援を試行した（次ページの表5-1参照）。実際の学校現場では、授業支援をどのような手順で行っているか。

実重 私も、この手順とほぼ同じような形で調べ学習の支援をしている。どれも、押さえておかなければならない大切な事柄であ



1 鎌田和宏，中山美由紀編著『先生と司書が選んだ調べるための本：小学校社会科で活用できる学校図書館コレクション』少年写真新聞社，2008，159p

と思う。しかし実際には、ステップ⑥の振り返りはしていない。平成 22 年度は 1 年間で 400 時間の授業に携わっており、授業をこなすので精一杯だ。昨年度は校内研究が「図書館活用」だったので、それぞれの授業で振り返りまで行った。今は毎年の積み重ねという経験値でこなしているが、経験のない人が一から行うのは難しいのではないかと思う。振り返りをすると、授業支援のあり様を定型化できるので良いと思う。しかし、現実には仕事量の多さから、実際にはその時間はないというのが現状である。

村上 実重さんの状況（1 年間 400 時間の授業支援）は、特殊な事例だろう。初心者向けには、振り返りのステップは必要としておいた方が良い。普通は図書館が関与する授業はそれほど多くないので、振り返る時間は持てると思う。

表 5-1 実践研究における学習用ブックリストの作成手順の概略

<p><ステップ①>授業者インタビュー 図書館（※）は、授業者となる教員に、授業内容や目的をインタビューする。授業者は、調べ学習用資料の選書のためのキーワードを作成し、図書館と確認し合う。</p>
<p><ステップ②>授業用資料リスト案の作成と資料の収集 図書館は、①の結果を基に、授業用資料の候補本を選書しリスト化する。学校図書館にない資料は公共図書館から借り受けるなどして、リストに挙げられた資料を一か所に集める。（一次選書）</p>
<p><ステップ③>授業用資料の検討と確定 図書館と授業者とで、②の資料を見て、授業で使用できるか検討・確認する。資料が不足していれば、補足する資料を探し、追加するかどうか検討する。（二次選書）</p>
<p><ステップ④>授業準備 図書館は、授業者インタビューを行い、授業現場での資料提供や図書館員による直接支援の方法を確認する。図書館は、授業に向けて資料提供の準備をする。</p>
<p><ステップ⑤>授業の実施と授業現場での支援 授業者は、授業を実践する。学校図書館専門職（司書教諭・学校司書）は、授業現場で児童生徒の支援を行う。</p>
<p><ステップ⑥>事後処理と振り返り・評価 図書館は、授業で用いた資料の事後処理を行う（公共図書館から借り受けた資料の返却など）。授業者と図書館が集まり①から⑤までを振り返る。授業支援の記録を残す。</p>

（※）“図書館”は、国際子ども図書館と学校図書館が協働で行った部分を意味している。

○効果的な授業者インタビューとは

国際子ども図書館 今回の授業支援では、最初に授業者インタビューを行った。その時の経験から、授業者インタビューで何を聞くかが、授業支援の効果を左右する“鍵”だと分かった。授業者インタビューで聞くべき事項を「授業者への聞きどころ案」としてまとめたが（次ページの表 5-2 参照）、これについてどう思うか。

村上 聞きどころ案の最初の項目（授業で行う調べ学習は、①授業の一部としての調べ学習と②自由研究的な探究学習のどちらか）に違和感がある。この事項はインタビューするものではなく、授業を支援する上での大前提だと思うからだ。教科の授業支援の対象は、基本的に「授業の一部としての調べ学習」しかないと思う。

表 5-2 実践者インタビューで提示した「授業者への聞きどころ案」

聞きどころ案	
まず	授業で行う調べ学習は、以下の①②のどちらか ①授業の一部としての調べ作業 ②自由研究的な探究学習
学習内容・指導法	教科書と副読本
	教科単元
	単元の学習目的
	授業の日程（うち、調べ学習を行う日程）
	授業時間数（うち、調べ学習を行う時間数）
	調べ学習をする場所
	授業のスタイル（例：まず教科書に沿って講義+最後にグループで調べ学習）
	調べにおける児童生徒のインターネットの使用可否
	調べた成果はどうするか（例：画用紙にまとめて見せながら発表する）
	調べをすることで学習者に期待すること
学習者	学習者の人数
	学習者の様子
	学習者の調べの経験
授業者	授業者が当該授業を実施した経験（例：今までに同じ授業を実施したことがあるか）
	現時点での授業作りの段階（例：構想段階、指導案作成済み）
	授業者の調べ学習の経験
資料	必要な本の主題 ⇒選書用キーワードとして把握
その他	授業で児童生徒に配る情報源リストやパスファインダーを希望するか
	発展学習につながる資料の提供を希望するか（例：学校図書館でのコーナー展示）
	授業作りの参考となる情報の提供を希望するか

上記のインタビュー結果を踏まえて、図書館は、授業用資料の選書に当たって留意すべき以下の事項を判断する。

選書に関する判断事項	
資料	必要な資料の量はどのくらいか（例：児童生徒一人当たりの冊数）
	授業者が資料に載っていてほしいと考えている情報は何か（例：統計、写真）
	刊行年の新しさは考慮するか
	読み通す必要のある資料（絵本・読み物）を含めるか
	大人向け一般書を含めるか
	複本は必要か

実重 これは初心者向けの聞きどころなので、残しておいてはどうか。ここが曖昧になると厳しい。「聞きどころ」というより、「押さえどころ」というべきかもしれない。

鎌田 実態として、学校現場では「調べ学習」がいろいろな意味で使われている。私は「調べ学習」と「探究学習」は違うと考えている。「調べ学習」は、「探究学習」の一つのステップとしてとらえた方が分かりやすい。図書館側が「調べ学習」＝「自由研究」ととらえてしまうと、支援の方向を間違えることになる。確かに、これは学習支援をする上での「押さえどころ」だろう。



村上 調べた成果の最終形がレポートではない授業もある。調べたらレポートにまとめず講義に戻る授業もある。授業のどこに「調べ」が入るのかは重要な質問ポイントだと思う。

中山 私も、調べた成果をまとめる形式や形態は早めに知りたい。

実重 私は、「授業のねらい」が一番知りたい。「目的」「ねらい」「子どもにどうなってほしいのか」が一番の聞きどころで、ここを、授業者と図書館員が共通認識しておく必要がある。

村上 図書館員と話すことで、授業者の先生にとっても、授業のイメージや目的が明確になることが多い。

中山 どうやって図書館を使ったらよいか分からない先生も多い。図書館員との会話で先生に授業のイメージができてくると、「目的」が変わることもある。この聞きどころ案は、最初から先生の授業の目的や方法がはっきりしている場合のものだと思う。最初の時点では授業の目的や方法が曖昧な先生もいるので、その場合、図書館側は、レファレンスインタビューのように先生から授業の目的や方法を聞き出していく必要がある。

鎌田 実践研究①は、最初からしっかりした授業計画を持っている授業者のケースだった。授業者である竹早中の荒井先生は、自分が行う授業を人に語るすることができるベテラン教員だったが、教員は必ずしも皆がそうではない。話をする中で聞き出すのが大切だろう。

国際子ども図書館 実践研究②の授業者（大森東中の小石先生）は、私たちと打合せを行う中で、徐々に学習指導案を固められていた。授業者インタビューでは、先生の授業構想が当該時点でどの段階にあるかを尋ねたいが、どのように聞けばよいか。

村上 実際には、その段階を言える先生はいないと思う。「先生はこの授業にどんなイメージ持っていますか？」と聞いて探るとか。学習目的、授業のねらい、子どもに期待すること辺りを、細かく具体的に打ち合せていくことで分かってくるだろう。

実重 そういう意味では、「授業者インタビュー」ではなく、「打合せ」と呼んだ方がよいかもしれない。こちらから一方的に「聞く」ではなくて、図書館員からの提案も含め、お互いに話し合うのが大事だと思う。

国際子ども図書館 レファレンスインタビューのイメージがあって、「授業者インタビュー」という名称にした。授業者に聞く人には公共図書館の職員も入っていると思うが、公共図書館の職員が、提案も含む「打合せ」を行うのは難しいのではないか。



中山 公共図書館が「打合せ」をしても構わないのではないか。

鎌田 双方向性のやりとり、ということだろう。

司書に力があれば、一方的ではなく、先生から引き出すことができる。お互いのキャリアと授業の内容によって、先生から引き出す量と図書館から提案する量の割合が変わるのだろう。

○中学生レベルの学習内容を知るには

国際子ども図書館 実践研究を通じて、学校外にいる図書館員には、教科書を見ただけでは中学生レベルの学習ポイントが分からないことを痛感した。国立国会図書館は学術的な資料を多数所蔵しているので、研究者レベルの資料を提供しようと思えばいくらでもできる。そうした環境の中で、中学生が使う資料として、どのレベルの資料を提供すればよいか悩んだ。中学生レベルの学習内容を知るにはどうしたらよいか。

鎌田 学校図書館の人は、意識しない部分だろう。どのように説明できるか。

遊佐 中学生向けの教科事典を読むとよい。中学レベルで、どの程度のことが書かれているかを知ることができる。教科書に準拠している資料集や事典でもよい。

実重 やはり基本は、教科書をきちんと見ることだろう。実際の資料提供では、中学生レベルの資料を中心に、先生のねらいを意識して、そのレベルの前後の本を入れ、資料の幅を広げるようにしている。

実重 支援する授業では、必ず教科書のコピーをもらうことにしている。学校で使っている教科書だけでなく、他の会社の教科書を見るのも勉強になる。

中山 先生が子どもに配るプリントを見せてもらうのも効果的だと思う。子どもはこのワークシートを埋めていくのか、こういう授業をするのか、ということが分かる。

鎌田 公共図書館には教科書が置いてあると思う。複数の会社の教科書を読み比べて教材研究をするのも面白い。授業に必要な本の主題は何かという問題は、実は、教科書だけでなく、裏にある授業の意図が読み取れないと分からない。

遊佐 先生は、「レポートを書かせるので、〇〇の本を用意して」とだけ言って依頼されることが多い。教科書にも「インターネットで調べよう」と出ているが、私の学校の生徒は、中学1年生の社会科の調べ学習で鍛えられているので、「インターネットで調べるなんて難しくて大変！」という。中学3年生になると、生徒から先生に「これは何のためのレポートですか」と聞くようになる。

実重 きちんとした調べ学習の授業をやってきた子どもは、先生を育ててくれる。

○教科学習の中に情報リテラシー教育を組み込むには

国際子ども図書館 教科学習の中に情報リテラシー教育的要素をどう組み込むか、という課題はどう考えるか。

実重 私は、司書教諭に担当してほしい大事な仕事に、情報リテラシー教育の全体計画の作成があると考えている。私の学校では、年度ごとに授業相関図を作っている（次ページの図 5-1 参照）。総合的な学習の時間で基本となる芯を作って、教科の学習と連携する。中学 3 年生になると、生徒は放っておいても調べが進められるようになる。司書教諭にはこれをコーディネートする役割があると思う。単発の授業に調べを取り入れるのもいいが、それだけでは、いつまでも生徒の調べる力が見えてこない。学年、教科を体系的につないでいくのが司書教諭の大切な仕事だと思う。

村上 中学校では、普通、情報リテラシー教育に当てる授業時間が取れない。調べる力を付ける指導を国語の授業の中に組み入れることで、無理なく進められないかと考えている。

国際子ども図書館 情報リテラシー教育は、単発の授業に組み込む要素ではなく、体系的な計画に沿って行うものなのだろう。実は、この情報リテラシー教育関係の部分は、今回の実践研究からはノウハウを明らかにできなかった。話を聞いていて、できなかった理由が、今回の授業支援が単発の授業の中で完結していることにあると気が付いた。

鎌田 赤木先生の藤野小学校でも全体計画を作っているが、どうして作ったのか。

赤木 何年か単発で調べ学習をやってみて力が付かないことが分かったので、6 年間の全体計画を立てることにした。時間が足りないので、国語を中心にして、教える内容を精選し、小学校を卒業する時には図鑑と百科事典を使える能力が付く計画にした。図鑑と百科事典から情報を抜き出せる子にして中学校に送り出したい。

鎌田 情報リテラシーの習得は、組織的に長いスパンで考えないといけないということだろう。

○教員や児童生徒に調べ学習の成功を実感してもらうには

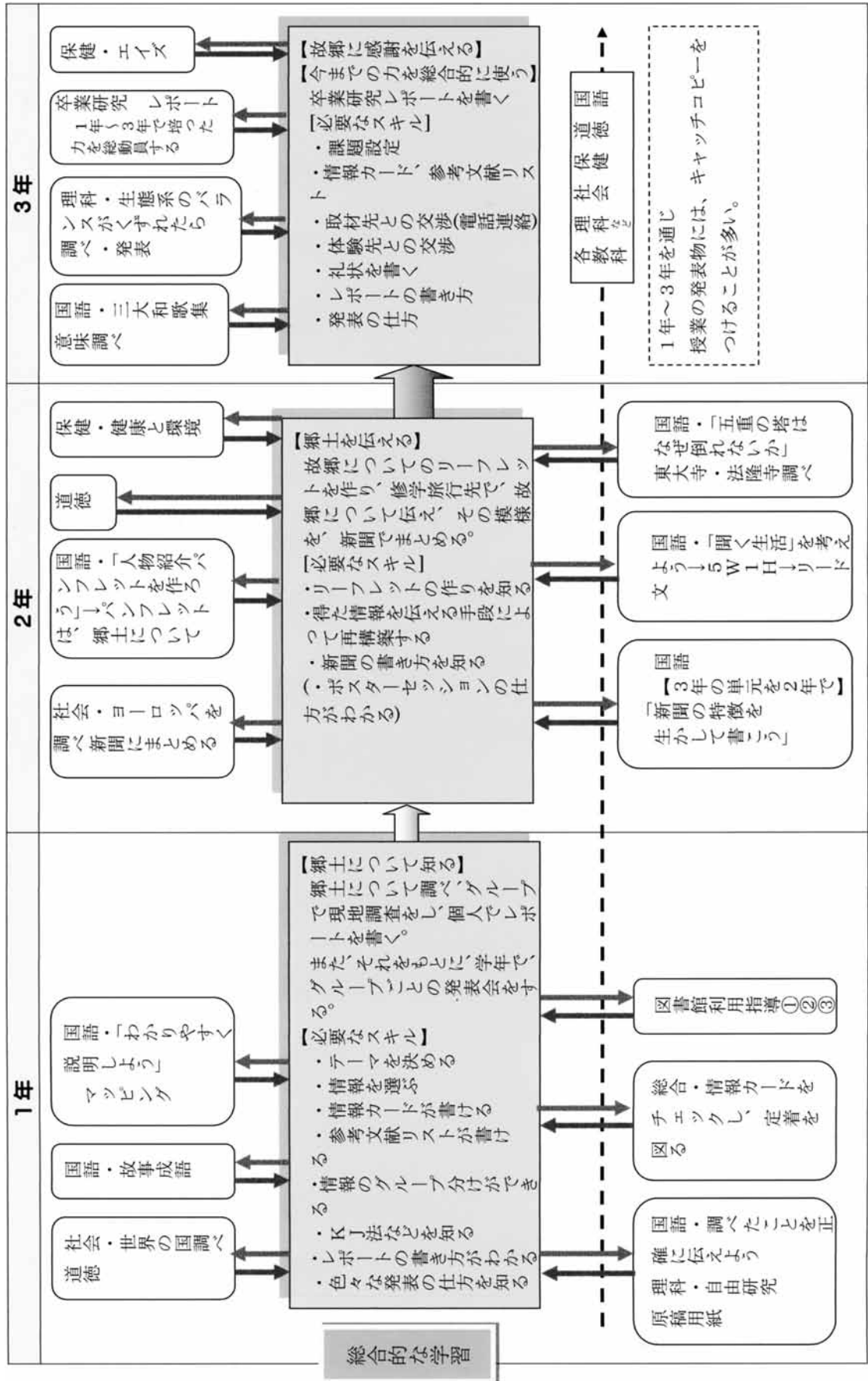
国際子ども図書館 調べ学習で、先生や生徒に成功を実感してもらうには、どうしたらよいか。

遊佐 私は、調べ学習の授業のために冊子の形のワークシートを作っている。ワークシートに書き込んでいくと、調べが完成するようになっている。教員が作成する部分と私が作成する部分を合わせた冊子である。これがあれば、生徒がやるべきことを目に見える形で確認できる。

国際子ども図書館 調べ学習の経験が少ない子は、図書館が集めた本をブックトラックに載せて「さあどうぞ」だけでは、本をうまく使えないと思うのだが。

実重 東出雲中では、生徒が困らないように、基本的な利用指導を 1 年生で行っている。そうした利用指導を受けたことのない生徒を想定するのであれば、生徒がすぐに正解に近づけるように、資料中の該当ページに付箋を挟むのも効果的だと思う。そうすれば、生徒は、資料からの的確な情報を見つけられたという達成感が得られ、先生も教科の学習のねらいに近づきやすくなる。調べが楽しくなる準備は、一生懸命やっている。また、

図 5-1-1 松江市立東出雲中学校 2011 年度 授業相関図



授業後、先生に「子どもたちは調べるのが楽しいと言っていましたよ」と生徒の感想をフィードバックするようにしている。生徒に感想を書かせて、その感想を先生に渡す。主体的に学ぶ授業は、生徒にとって基本的に楽しい。生徒に「楽しかった」と言われる授業を作れた授業者も嬉しいと思う。

村上 私は、資料が充分にあることが一番重要だと思う。生徒に、選り取り見取りに本が選べるインパクトを与えたい。易しい内容のヴィジュアル的な本から難しい本まで、多様な資料を揃えることで、生徒に「何かしらあるぞ」と実感してもらえる。本は、色々な切り口の知識が載っている面白いものだ。教科書と資料集だけを使い、そこから情報を抜いてくる形の調べでは楽しくないと思う。

国際子ども図書館 図書館員から見るとすごく良い考え方だが、先生はどう考えるだろうか。「多様な資料のせいで学習のポイントが絞れないのが困る」と考える先生もいるのではないか。

鎌田 だからこそ、授業後の先生へのフィードバックが必要になるのだろう。先生たちに、回り道も大事と思うように仕掛ける。

実重 生徒の様子を先生にお伝えすることと、図書館を使えば司書が手伝うから先生も楽になると伝えるとよい。教室以外の生徒のつぶやきや生徒の変化を伝えると効果的だ。

中山 学校図書館に生徒の調べた作品を掲示するのも効果がある。他のクラスの子も見るので、怠けた子は「ちゃんとやれば良かった」と反省したり、頑張った子は「甲斐があった」と喜んだりする。学校図書館でそういう会話がなされるので、それを先生に伝える。

村上 調べっぱなし、発表しっぱなしでなく、ちゃんと見てもらう、リターンが大事ということだろう。

○授業で図書館を使ってもらうには

鎌田 授業で図書館が活用されるようになった“きっかけ”は、何だったか。

実重 東出雲中のレポートの授業の“きっかけ”は、理科で出した夏休みの自由研究レポートだった。先生たちは、よく宿題にレポートを出すのが、生徒に調べるスキルがないのでうまくできない。そして、先生方は、生徒のレポートの出来に不満だった。学校図書館と教科の授業が手をつなぎだしたのはそれからで、総合の時間の一コマを使ってレポートの書き方を学ばせるようになった。社会科の宿題でも出すなど、色々な教科でレポートを作成させたところ、生徒のレポートの出来が変わった。多くの教科と関わったので、多くの教科の先生に関わりを実感してもらえた。

中山 新しい小学校教科書では、新聞作成の課題がよく出てくる。

鎌田 新聞作成とレポート執筆は、どの教科でも使える“きっかけ”になるだろう。実は、先生は、教科で定められた学習内容を教えることに集中してしまうので、生徒の能力や学力の成長を実感しにくい。

村上 先生は、目の前の子どもを見るので精一杯なのだと思う。学校司書として、長いスパンで生徒の成長を見られるのは楽しい。

赤木 藤野小学校では、「ブックショップ」といって、クラスごとに本を紹介する活動をしている。クラスでお薦めの本を選んで、様々な表現方法で発表する。表現を学ぶ授業で

ある。

中山 図書館の活用は、調べてまとめるだけでない。創造する、モノを作る、自分が造って表現するという面での図書館活用が注目されても良いと思う。調べてまとめるのでなく、調べて作る。そうした意識は、図書館員にも先生にもないかもしれない。

○プロフェッショナルとして調べ学習支援をするために

国際子ども図書館 最後に、図書館員が、プロフェッショナルとして調べ学習支援をするために何が大切だと思うか、聞きたい。

村上 本を知ろうとする努力をし続けること、だと思う。学校現場にいる強みは、子どもに寄り添って話ができることや先生と直接話ができることだ。先生が何を求め、子どもが何に困っているかを知り、つなげたいと思う。

遊佐 私も本を知る努力はしているが、それだけではなく、本を教育で使う方法を知りたいと思っている。国語を例に挙げて言えば、徒然草は文法と解釈を学ぶだけでも時間がかかるが、さらに深めるためにどんな教え方ができるのかを知りたい。先生に提案するために、授業の方法論のようなものを自分の中に持ちたい。

実重 公共図書館の職員も含めた図書館員の強みは、やはり、本や資料を知っていることだと思う。学校司書に限定すると、そこに知り得た本をどう教育にいかせるかを先生に伝えられることが入ってくる。

国際子ども図書館 学校司書は、教育の文脈で本を評価して手渡せる人ということか。

実重 そうだと思う。本を授業で使えるように手渡すことが大切。先生は授業のプロフェッショナルだが、授業のどこに本を入れられるのかを知っている人が学校司書だと思う。

中山 資料を知ろうと努力し、利用者の子どもと教員を知ろうと努力し（発達段階や教育課程、教育方法など）、それらを結びつけることが大切だが、私は、それに「タイミング」が入ってくると思う。「この資料、今が案内時！」という「今」が分かること。最近、この先生はどのタイプで、このタイプの先生はこういうタイプの本を渡すと喜ばれる、ということが見えてきた。これは、同じ学校に長くいて、自分が構築してきた学校図書館のコレクションがあるからこそ出来ることだと思っている。

赤木 教員として、司書の方に希望するのは、本が分からないので教えてほしいということと、本を使う相談に乗ってもらいたい、ということだ。藤野小学校で本を使った学習を試みた時は、教員は誰もそうした授業を経験していなかったもので、公共図書館に足を運んで教えてもらった。

6. まとめと考察

本章では、まず、第2章から第4章の実践研究と第5章の学校図書館実践者へのインタビューで明らかになった授業支援に関する知見を整理し、サービスを充実させるための方策を考察する。その中で、学習支援での公共図書館と学校図書館との連携についても触れたい。そして次に、実践研究で取った作業の手順を整理し、「調べ学習支援サービスの手順」として示す。最後に、図書館が授業者（授業を担当する教科教員）との打合せで確認すべき点を「授業者との打合せポイント」としてまとめる。なお、本章では、これから授業支援サービスに本格的に取り組もうとしている図書館が参考にできるように、授業支援の初心者の視点を意識しながら説明していきたい。

6.1 考察：授業支援サービスの充実を目指して

サービスの前提

図書館の授業支援サービスは、大まかに言えば、授業に役立つ資料を選び、自館の内外から集め、授業現場で効果的に提供することで、授業の成功に資する活動と言える。言い換えれば、“資料を知り、授業を知り、両者を結び付ける”活動だと言える。

図書館は、サービスを提供する前提として、学校の授業は一つ一つ異なり、授業ごとに必要な資料も違うという事実に着目する必要がある。この事実は、実践研究①で明らかになったことである。一口に「授業」といっても、学習内容だけでなく、当該授業の目的や指導法、学習者となる児童生徒の状態（学力、情報リテラシースキル等）、授業者の経験といった様々な要素で構成されている。授業に本当に役立つサービスを提供するためには、こうした構成要素を考慮し、支援の内容（特に、授業用の資料の選び方）をケースバイケースで変える必要があると考えられる。

また、こうしたケースバイケースでの対応の必要性を踏まえると、特定の授業を想定せずに作られた、教科単元ごとのブックリストの資料をそのまま提供するだけでは、十分な授業支援とならないと推測できる。このような汎用的なブックリストは、選書の土台として用いれば大変有用だが、実際の授業で使う場合には、授業者の意図などを勘案した上で、その授業に合うようにカスタマイズする必要があるということである。

教科学習で行われる調べ学習と情報リテラシー教育について

実践研究①から、教科教員と図書館員とでは「調べ学習」という言葉のとらえ方が異なる傾向があることが明らかになった。授業者となる教員は、単元の学習内容を効果的に習得させるために行う“授業の一部として行う調べ作業”としてとらえ、国際子ども図書館職員をはじめとする図書館員は、学習者が資料を使った探求を行う“自由研究的な調べ学習”としてとらえていたのである（2.4節）。

“授業の一部として行う調べ作業”では、学習者の調べ経験に応じた資料提供や授業現場での直接支援が特に効果的だと言える。調べること自体のハードルを下げることで、教科の学習内容の習得に近づけるようになるからである。実際、調べ経験の浅い学習者が対象

であった実践研究③では、調べ学習用資料の中の正解箇所が付箋を付ける、学校司書が授業現場で正解が載っている本を紹介するなどした結果、児童は全員、自分の調べを完成させることができた。また、授業支援を実践してきた学校司書も、5章のインタビューの中で「調べが楽しくなる準備は一生懸命にやっている」と述べていた。

多くの論稿でよく言及されるように、児童生徒が調べる力を付けるには、小中学校で情報リテラシー教育を行う必要がある。この情報リテラシー教育の面から、教員と図書館員の「調べ学習」のとらえ方の違いを見ると、興味深いことが分かる。図書館員の“自由研究的な調べ学習”が、情報リテラシーの体得を重視する傾向がある一方で、教員の“授業の一部として行う調べ作業”は、単元の学習内容の習得が主たる目的であるがゆえに、情報リテラシー教育に重きを置かないことが多いのである（2.4節）。

5章のインタビューにおいて、学校図書館の実践者から「調べ学習を“授業の一部として行う調べ作業”としてとらえることは、教科の調べ学習を支援する際の大前提だ」という指摘があった。「教科の授業では、これ以外の調べ学習はほぼなされない」という経験則を持っていたためであった。もちろん、学校で、“自由研究的な調べ学習”が行われることもある。しかしそうした“自由研究的な調べ学習”は、学習内容や授業時間があらかじめ決まっている教科の授業ではなく、「総合的な学習の時間」などの教科外の授業で行われることが多い。

ここから、教科の調べ学習を支援する際に、図書館は、その授業の目的が情報リテラシーの習得にない場合が多いことに留意すべきだと言える。この点を踏まえ、情報リテラシー教育を過度に意識した支援を行ってしまうと、授業者のねらいとずれ、図書館サービスが授業に役立たないものになってしまうからである。図書館は、授業支援をするに当たって、まず、この点を授業者に確認する必要がある。

しかし、このように教員の視点に沿わせる必要がある一方で、児童生徒に調べる力を付けさせるためには、情報リテラシー教育を無視できないことも明らかである。情報リテラシー教育的な要素を教科学習にどのように組み込めば良いかは、図書館の調べ学習支援サービスが抱える課題の一つと考えられる。5章のインタビューでこの課題を取り上げたところ、学校図書館の実践者からは、長期的な視野による体系的な全体計画を持つことの重要性が指摘された。つまり、情報リテラシー教育は単発の授業の中に組み込むものではなく、学習者の経験に応じた段階的な教育活動に仕立てる必要があるというのである。

授業支援の経験があまりない図書館にとっては、情報リテラシー教育の全体計画はすぐに策定できるものではないだろう。しかし、計画の策定は難しくとも、どんな図書館でも、情報リテラシー教育が、単発の授業の枠組みを超えた大きな視野で考えてこそ効果が上がるものだ、という意識を持つことはできる。長期的な視野を持って個別のサービスに取り組むことで、情報リテラシー教育を本格的に進める第一歩を踏み出すことが可能になるのである。

図書館と授業者との打合せについて

実践研究①から、図書館員と教員とでは、選書用のキーワードの面で、また調べ学習用資料の選書基準の面で、視点の違いがあることが明らかにできた。特に、2.4節で示した

とおり、教員の選書基準には、図書館員が従来型の児童図書館サービスの中で培ってきた選書基準と異なる点があった。ここから、図書館側の視点からだけで資料を選ぶと、授業者の意図とずれたものを揃えてしまう可能性があると推測できる。

プロジェクト全体を通して得た知見から、次のことが言える。授業に合った支援を行うためには、授業者との事前打合せが重要である。具体的には、図書館と授業者とで選書用のキーワードをリスト化したり、図書館が集めた候補資料を授業者が確認したりといった作業を通して打合せを行うのが効果的である。教員にとっても、こうした作業は自分の授業イメージや授業のねらいを明確にできる、というメリットがある（3.4節）。

授業者との打合せは、図書館側にとっては、前述の“授業を知る”作業そのものである。そのため、サービスを向上させるためには、この作業を効率的に行って、授業者が持つ授業イメージ等を的確に把握することが大切だと考えられる。5章のインタビューでは、この点について学校図書館の実践者から意見を聞いた。その成果は「授業者との打合せポイント」として整理し、本章3節に掲載した。

協働で授業支援を行うことについて

実践研究③から、授業者、学校図書館専門職（学校司書、司書教諭）、学校外の図書館（公共図書館、学校図書館支援センター）といった異なる役割を持つ者が、協働で授業支援を行うことの効果を明らかにできた。各自の役割に根ざした多様な視点が入ることで、支援内容の幅が広がり、授業の成功につながったのである。

授業支援における協働は、学校図書館と学校外の図書館との協働と、授業者と図書館との協働の2種類に分けられる。荒川区立第三峡田小学校の事例では、前者の効果は選書場面に現れた。それぞれの図書館の視点で選んだ資料を持ち寄ることで、調べ学習の充実度を左右する資料の多様性を確保できたのである。他方、後者の効果は、調べ学習の前から教室に調べ学習資料を展示するという工夫に現れた（4.4節）。

後者の“授業者と図書館との協働”は、効果的な授業支援をする上で不可欠と考えられるが、実際には様々なレベルがある。千里国際学園の司書教諭である青山氏は、その論稿の中で、図書館側から見た授業者との協働（コミュニケーション）の度合いによる、図書館を使った授業のパターンを次のとおり整理している¹。

＜担当教員と図書館とのコミュニケーションの度合いによる図書館利用のパターン＞

1. 全く図書館に予告なく課題が生徒に課され、やってきた生徒たちの行動を見てそれと知る場合
2. 生徒に課す課題についての通知が、事前に、生徒用プリントを渡す、メール等で予告するなど、担当教員側から図書館側に一方的にある場合（この場合は、図書館側から事前連絡を取ることが可能なので、さらに必要な協議を進めることができれば、3になる。）
3. 生徒に課す課題について通知があった上で、一通り事前相談をし、必要に応じた準

1 青山比呂乃. 学習・情報センターにおける学習支援サービスのあり方. 学校図書館メディアセンター論の構築に向けて：学校図書館の理論と実践. 勉誠出版. 2005, p.103.

備（資料の存在・質・量の確認／取出し、利用ルール決定／スタッフへの周知徹底）をしてから実際に実施する場合

4. 生徒にあるテーマで課題を出したいというまだ漠然とした構想のある段階で、担当教員から事前に図書館に相談があり、共に使える資料を実際に見て検討しつつ、実際の調査研究活動の進め方を相談し、実施する場合
5. おおよその単元内容が定まっているだけの状態で、調査研究活動の教育とそれをどう組み合わせ、具体的カリキュラムにするかを、担当教諭と司書教諭、場合によっては情報科教諭が協議して検討し、年間計画を立てて実施する場合

この整理に従うと、実践研究での協働レベルは、3から4に当たると考えられる。5章の実践者インタビューで、情報リテラシー教育の体系的な取組みの必要性が指摘されたが、これが可能になるのは、5の協働レベルだろう。しかしながら、多くの図書館にとって、現実の協働レベルは1や2かもしれない。

授業支援の経験が浅い図書館にとっては、始めから高次の協働レベルで動くことは難しいだろう。しかし、協働レベルが高次になればなるほど、より充実した授業支援が可能になることも明らかである。授業支援初心者の図書館員は、授業者との協働レベルを徐々に上げていくことを意識しながら、サービスの実績を積み重ね、まずは教員との間に信頼関係を作っていくことが大切だと考えられる。

学習支援での公共図書館と学校図書館との連携について

国際子ども図書館では、当初、プロジェクトの目的に、公共図書館と学校図書館の役割分担の明確化による両者の連携の促進を考えていた。しかし、プロジェクトを通して、学校図書館の実態には想像以上の幅があり、そうした幅がある状況では公共図書館と学校図書館の役割を全国一律に定めても、両者の連携を促す効果は低いことが明らかになってきた。ある学校で学校図書館の役割とした作業であっても、状態の違う別の学校ではできない場合があるからである。

公共図書館と学校図書館の連携促進を考えていくと、そこには、学校図書館の人・資料・施設等の整備が大きな課題となって現れてくる。中でも一番の課題は、やはり学校図書館を実際に機能させる人の配置である。これは、学校図書館専門職の配置がない中で行った実践研究②から、強く感じられたことであった。たとえ学校図書館の蔵書が充実していたとしても、効果的な調べ学習支援を行うためには、公共図書館から多様な資料を借り受け、それらを授業に適した形になるよう準備する必要がある。学校図書館に専門職がない場合は、授業者となる教員自身がそれをしなければならず、そのための時間が取れない教員は調べ学習を行うことをあきらめてしまうだろう。学校図書館に人が配置されていないと、教員の図書館利用が広がらず、結果として公共図書館と学校図書館の連携が進まないのである。

このように学校図書館への人の配置の問題は大きく、学校に対するサービスを行う限り、公共図書館にとっても、学校図書館が抱えるこの問題を避けて通ることはできない。しかし、たとえ学校図書館の体制が十分でなかったとしても、公共図書館が、この問題を理由

にして学習支援サービスの充実を先送りすることは、現実には支援すべき児童生徒がいることを考えると適切ではないだろう。現時点では整備が十分でなかったとしても、図書館サービスの実績を学校の中で積み重ね、その意義や必要性を浸透させていくことで、学校図書館の問題に関しても解決の道筋を探るしかないのではないだろうか。

そのためには、学習支援サービス、特に教科の授業に対する支援サービスを学校図書館だけの仕事にせず、公共図書館をも含めた地域の図書館ネットワークを活用して対応するのがよいと考えられる。教科学習は学校教育の主体であり、そこで成果を上げることは、図書館の必要性の認知につながりやすいと思われるからだ。そもそも一般的に言って、“図書館サービス”とは、他の図書館と相互協力のネットワークを構築し、資料の相互貸借や協力レファレンスなど様々な点で連携を行う図書館協力ネットワークを背景として提供するものである²。こうした複数の図書館の有機的なつながりは、図書館が持つ強みであり、学習支援サービスでも有用に働くだらう。

公共図書館の立場になって考えると、学習支援の分野で学校図書館と連携するためには、読書案内を重視した従来型の児童図書館サービスの枠を超える必要があると思われる。2.4節で述べたように、児童図書館サービスで培われてきた選書基準は、教員のそれとは異なる点がある。つまり、児童図書館サービスのノウハウは、読書案内を目的とするサービスでは有用に働くものだが、それをそのまま教科学習の場面で用いても効果は上がりにくいのである。

2年間のプロジェクトを通して、学校図書館と学校外の図書館が連携する場面で、授業支援の在り方や方法について、両者が共通の認識を持つことの大切さを感じてきた。共通の認識があつてこそ、有機的につながった“図書館”として、授業者や児童生徒が意義を実感するような授業支援サービスが提供できるのである。本書が扱ってきた知見は、授業支援サービスの初歩的なノウハウであり、学校図書館と公共図書館をつなぐ共通認識の土台となると考えられる。特に、公共図書館職員にとっては、多くの場合、教科学習の支援は従来の児童図書館サービスを越えたチャレンジ的な取組みであるため、そのノウハウを知る効果は高いだろう。本書が、学校図書館と公共図書館の双方から参照され、今後の両者の連携の土台となることを期待している。

6.2 調べ学習支援サービスの手順

実践研究で用いた授業支援の手順を、学校現場での経験を受けて修正し、「調べ学習支援サービスの手順」（図6-1及び表6-1）としてまとめた。授業支援サービスの作業内容を、22の作業項目とそれらをまとめた7つのユニットで示している。今回の研究が基にあるため、支援サービスの対象は、プロジェクトの対象と同じく、教科の中で行われる調べ学習である。

以下の手順は、図書館による調べ学習支援サービスの理想的な在り方を示すものではあるが、現実の公共図書館や学校図書館がこの手順を全てそのまま行うことまでは意図して

2 小田光宏. 図書館サービス論 (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ; 3). 日本図書館協会. 2010, p.246

いない。プロジェクトではきめ細やかな授業支援を目指したために、図書館側にも学校教員側にも力を入れて取り組む余裕がないと、この手順をそのままの形で実施するのは難しいと考えられるからである。実際の使い方として期待しているのは、公共図書館職員や学校図書館専門職（司書教諭、学校司書）が、自館の授業支援をさらに向上させるために、学校や図書館の状況に照らして手順の中から取り入れ可能な作業項目を見つけて参考にする、といったものである。

なお、「調べ学習支援サービスの手順」には、学校図書館への人の配置や公共図書館と学校図書館の連絡ルートの設置といった環境整備に当たる作業が含まれていない。こうした環境整備が授業支援サービスの効果を上げるために必要なのは言うまでもないが、プロジェクトが単発の調べ学習を範囲としたため、この手順の範囲もそれと同様としている。

図 6-1 調べ学習支援サービスの手順（フロー図）

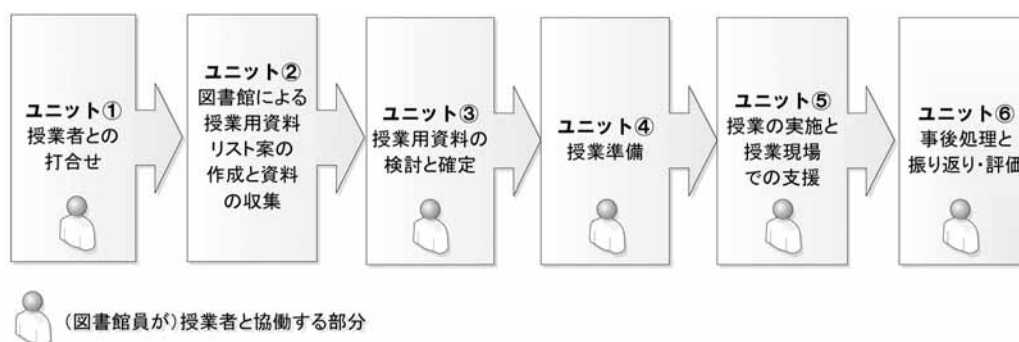


表 6-1 調べ学習支援サービスの手順

ユニット	作業項目 No.	想定される 作業者	項目ごとの作業内容
① 授業者との 打合せ	1	図書館 ^{※1} ・ 授業者 ^{※2}	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館と授業者として最初の打合せを行う。この時点での授業イメージや学習のねらいを関係者で共有する。 ⇒「6.3 授業者との打合せポイント」 ・より効率的に打合せを行うために、司書教諭が、授業者と図書館員をつなぐコーディネーターとして同席することも可能である。 ・図書館は、授業者に授業作りのための情報提供を希望するか尋ねる。
	2	授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は、教科書や学習指導案に基づいて、授業用資料の選書に用いる具体的なキーワード（以下、「選書用キーワード」という）を挙げる。
	3	図書館・授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者が集まり、授業者の作成した選書用キーワードを確認・確定させる。教科書を見ながら行くと分かりやすい。 ・共に検討することで、関係者で授業の学習ポイントを共有できる。 ・教科書によって、取り上げている学習キーワードが異なることも多い。学校で使っている教科書だけでなく、他の会社の教科書も参照すると授業作りの参考になる。
			<p>※以前に同様の授業を支援した経験があるなどの理由で、必要な情報が共有できている場合は、授業者インタビューや選書基準の検討を省略することもできる。</p>

ユニット	作業項目 No.	想定される 作業者	項目ごとの作業内容
② 図書館による授業用資料リスト案の作成と資料の収集	4	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、選書用キーワードをもとに資料検索ツール(OPAC等)を検索して候補資料をリストにする。 ・『先生と司書が選んだ調べるための本』など、既存の学習用ブックリストを参考にすると効率的である。 ・選書用キーワードの中には、資料検索にそのまま使えないものもあるので、検索に適した形に読み替える必要がある。
	5	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、リスト化の作業と並行して、候補資料を一か所に集める。
	6	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、資料の中身を見ながら、候補資料の採用を検討する。 ・選書用キーワードや授業者との打合せを踏まえて、検討する。
	7	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・(6の結果、候補資料では足りていないことが分かった場合)図書館は、足りない部分を補足する資料を追加する。関連書架でブラウジングするなど、補足資料も実際に手にとって検討する。
	8	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、最終的な授業用資料のリストを作成する。 ・リストには、書誌事項だけでなく、選書理由や資料の内容を補記しておくこと、11の検討の際に役に立つ。
	9	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・(授業者が授業作りのための情報提供を希望した場合)図書館は、4～7と同じ方法で、授業作りのための情報収集を行う。
			※公共図書館と学校図書館が協働で選書に取り組むと、提供する資料の幅を広げることができる。
③ 授業用資料の検討と確定	10	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、リストに挙げた候補資料を学校に集める。 ・(学校図書館にない資料は、公共図書館が学校へ貸し出す。)
	11	図書館・授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者が集まり、中身を見ながら、リストの候補資料を検討する。 ・資料の取捨選択を通して、関係者の授業に対する認識を合わせる。図書館は、必要に応じて、授業者との打合せを進める。 ⇒「6.3 授業者との打合せポイント」 ・リストに不足している資料がないかを探る。 ・授業者は、実際に資料を見て、学習者※3が資料を使う様子をイメージすることで、授業作りを効果的に進めることができる。 ・より効率的に打合せを行うために、司書教諭が、授業者と図書館員とをつなぐコーディネーターとして同席することも可能である。
	12	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・(授業者が授業作りのための情報提供を希望した場合)図書館は、授業作りのための情報を提供する。
③ 授業用資料の検討と確定(続き)	13	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・(11の結果、リストに不足している資料があった場合)図書館は、足りない部分を補足する資料を探し、リストに追加する。 ・追加した資料も学校に集める。(学校図書館にない資料は、公共図書館が学校へ貸し出す。) ⇒授業者に、修正したリストとリストに挙がっている授業用資料を提供し、最終確認を依頼する。
	14	授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は、13の資料を用いた学習指導案を作成する。
	15	授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は、作成した学習指導案を踏まえて、図書館から提供された授業用資料を最終確認し、確定させる。
			※資料や図書館を使った授業に慣れていない授業者の場合は、授業者が実際の資料を見ながら授業構想を検討したり、必要な資料を図書館へ伝え直したりする修正プロセスが特に重要となる。

ユニット	作業項目 No.	想定される 作業者	項目ごとの作業内容
④ 授業準備	16	図書館・授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、授業者と打合せを行い、授業現場での資料提供の方法や直接支援の方法を最終確認する。 ⇒「6.3 授業者との打合せポイント」 ・より効率的に打合せを行うために、司書教諭が、授業者と図書館員とをつなぐコーディネーターとして同席することも可能である。
	17	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、授業に向けて資料提供の準備をする。 ・授業に向けた準備には、次のようなものがある。学校図書館での授業用コーナーの設置、パスファインダーの作成、資料の該当箇所への付箋 <p>※調べ学習に慣れていない学習者の場合は、資料の背にマスキングテープを貼り、その上を通し番号を記入するとよい。調べ学習用の児童書は、タイトルが似ているため、慣れていないとタイトルだけでは区別しにくい。通し番号を控えさせておけば、次に使いたい時に、すぐにその資料を見つけることができる。</p>
⑤ 授業の実施と授業現場での支援	18	授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は、資料を用いた調べ学習を実施する。 ・学習者の授業や資料に対する感想や満足度を聞くアンケートを行うとよい。
	19	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館専門職（司書教諭、学校司書）は、16の打合せを踏まえて、授業現場で直接支援を行う。 ・（可能であれば）公共図書館職員は授業を見学するとよい。 <p>※学習者に資料を効率よく使ってもらうためには、授業現場での直接支援が効果的である。</p>
⑥ 事後処理と振り返り・評価	20	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、授業で用いた資料の事後処理を行う。（公共図書館から貸し出された資料を、貸し出しを受けた時の状態に戻してから返却する、など）
	21	図書館・授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者が集まって、①から⑤までを振り返る。 ・18の学習者アンケートの結果も参照するとよい。 ・振り返りの時間を持つことで、調べ学習の成果や授業支援サービスの今後の課題を明らかにすることができる。
	22	図書館・授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・授業支援の記録を作成し、次回の参考にする。 ・（可能であれば）他の教員や図書館が参照できるように、授業実践の記録や図書館の支援記録は広く公開するとよい。

注記

※1 「図書館」とは、学校図書館（学校司書、司書教諭）が、公共図書館や学校図書館支援センターのバックアップを受けて担当する作業である。

なお、「図書館」の中の役割分担（学校司書、司書教諭、公共図書館職員、学校図書館支援センタースタッフの作業分担）に関して、上記の手順では、実践研究で用いた作業分担を示した。しかし実際には、学校図書館の状態は地域により様々であるため、役割分担を一律に定めることは難しい。授業支援サービスに実際に取り組む際には、学校図書館の置かれた状況に照らして、ケースバイケースで「図書館」の中の作業分担を考える必要があるだろう。

※2 「授業者」とは、調べ学習の授業を担当する教員を指す。

※3 「学習者」とは、調べ学習の授業を受ける児童生徒を指す。

6.3 授業者との打合せポイント

本章の始めで述べたように、図書館による授業支援は“資料を知り、授業を知り、両者を結び付ける”活動と言える。このうち“授業を知る”は、学習内容を知ることにとどまらず、授業での指導法、学習者となる児童生徒の状態や授業者となる教員の授業作りのスタイルを知ることにも含まれる。サービスの効果を上げるには、図書館が“授業を知る”ために、授業者との打合せを効率よく行う必要がある。前節の支援手順の中でも、作業項目(1)(11)(16)で打合せのステップを設けている。

表6-2に、授業者との打合せで確認すべきポイントとそこから図書館が判断する事項を示した。これらは、実践研究(第2~4章)と学校図書館実践者へのインタビュー(第5章)の結果を整理したものである。そのため、ここで対象としているのは、プロジェクトの主対象(中学校の教科学習として行われる調べ学習への支援)と同じである。

以下の表では、打合せポイントの前に4種類の記号(●○△□)を付けている。その意味を簡単に説明しておきたい。

●は、教員から依頼があった最初の段階で確認すべきポイントを意味している。それ以外の○△□は、(目安は示したが)授業者の授業作りのやり方次第で確認する段階が変わるポイントである。というのは、最初の打合せの時点で、授業者の授業イメージが曖昧な場合は、授業で用いる資料の検討を授業者と進めていく中で、授業者が持つ授業目的や方法が具体化することがあるからである。したがって図書館は、●以外のポイントは、レファレンスインタビューのように教員から聞き出していか、もしくは(学校図書館専門職であれば)学校での授業の行われ方や児童生徒の様子を見て自分で探っていく必要がある。

- 授業者から依頼があった最初の段階で、授業者に確認すべきポイント
- 授業者との打合せの早い段階で、授業者に確認したいポイント
- △授業者と打合せする中で、詰めていくポイント
- 授業者と打合せする中で、探っていくポイント

表6-2 授業者との打合せポイント

打合せポイント	
押さえどころ	●当該授業で行う調べ学習は、「授業の一部として行う調べ作業」であるか ⇒「自由研究的な調べ学習」でないことを確認する
学習内容・指導法	●教科書と副読本 ⇒事前に調べておくとよい
	●教科単元
	●当該単元の授業のねらい・学習目的 ⇒授業のねらいが、授業者と図書館員とで共通理解すべき一番の聞きどころである ※図書館員と話すことで、授業者の授業目的やイメージが明確になる効果もある
	●当該単元の授業の日程(うち、調べ学習を行う日程)

打合せポイント (続き)	
学習内容・ 指導法(続き)	○当該単元の授業時間数 (うち、調べ学習を行う時間数)
	○調べ学習のねらい (調べ学習をすることで児童生徒にどうなってほしいか) ※図書館員と話すことで授業者の授業目的やイメージが明確になる効果もある
	○調べた成果をどうするか (例: レポートを書いて提出、グループで新聞を作る)
	△当該単元の授業の指導法・スタイル (例: まず教科書に沿って講義+その後グループで調べ学習+調べた成果を発表しよう) ※授業で使うプリントがあれば、もらうとよい ※図書館員と話すことで授業者の授業目的やイメージが明確になる効果もある
	△当該単元の授業のどこに調べ学習が入るか (例: 単元の最後に、発展として調べ学習を行う)
	△調べ学習をする場所 (例: 学校図書館)
	△調べ学習時の児童生徒のインターネットの使用可否
	△資料提供以外の支援を希望するか (例: 調べ案内、授業用パスファインダーの提供)
	△調べ学習時以外の支援を希望するか (例: 発展学習用資料を集め、学校図書館でコーナー展示する)
	学習者
○学習者の調べ学習の経験 (例: 当該授業までに調べ学習をしたことはあるか)	
□学習者の様子 (例: クラスの様子、学力、情報リテラシースキルなど)	
授業者	●現時点での授業のイメージ ⇒授業作りの段階を探る (例: 構想段階、指導案作成済み) ※図書館員と話すことで授業者の授業目的やイメージが明確になる効果もある
	○授業作りの参考となる情報の提供を希望するか
	○授業者が当該授業を実施した経験 (例: 今までに同じ授業を行ったことがあるか)
	□授業者の調べ学習の経験
資料	△必要な本の主題 ⇒教科書を見ながら、授業者と選書用キーワードを作成する。可能であれば複数の会社の教科書を見るとよい。

打合せを踏まえて、図書館が判断するポイント	
選書に関する 事項	必要な資料の量はどのくらいか (児童生徒一人当たりの冊数)
	授業者が資料に載っていてほしいと考えている情報は何か (例: 統計、写真)
	刊行年の新しさは考慮するか
	読み通す必要のある資料 (絵本・読み物) を含めるか
	大人向け一般書を含めるか
	複本は必要か

7. おわりに：図書館による授業支援サービスの可能性

本プロジェクトでは、公共図書館による、中学校の社会科の授業支援の方法を検討してきた。報告書の最後となる本章では、鎌田（帝京大学文学部教育学科・教職大学院教職研究科准教授）が、プロジェクト主査として、3つの実践研究の成果を振り返ると共に図書館による授業支援サービスの可能性について考察する。

実践研究①では、荒井正剛先生（東京学芸大学附属竹早中学校）の社会科（地理的分野）の授業支援を行うために、荒井先生・岡島玲子先生（学校司書）との連携に取り組んだ。ベテラン社会科教師である荒井先生は、既に学校図書館を活用した授業の経験もあり、ご自分の授業展開の中で、どのように調べる活動を位置付けるのか明確なビジョンを持たれていた。プロジェクトのメンバーは、荒井先生の授業構想を聞き取り、そのために必要な資料支援を検討・実施する中で、授業支援の基本的なプロセスを確認することができた。この事例では、授業は教師によって重点や展開が異なるということが図書館関係者には新鮮なこととして受け取られた。同じ単元、同じ教科書を使っていたとしても、それを実践する教師によって異なってくる。学校教育の現場にいる者にとっては、至極当然のことと受け取られているが、このことを踏まえると支援の在り方が異なってくる。図書館・学校図書館は授業の単元名や主題のみの情報から資料支援を求められることが多いのだが、授業者の授業意図を把握しなければどのような資料を提供することが良いのか判断できない。授業のねらい等を聞き取る事の重要性を認識できたことも大きな成果であった。

実践研究②では小石都志子先生（東京都大田区立大森東中学校）の社会科（歴史的分野）の授業支援に取り組んだ。この事例では、司書教諭が発令されていない学校で、授業ではあまり使われてこなかった学校図書館を整備しつつの実践となった。公共図書館も、学校現場の求めが少なかったのか、支援の経験が十分蓄積されていない状況であった。小石先生は司書教諭資格を持ち、他校では司書教諭として活躍されていたベテランの実践者であり、授業での学校図書館利用の経験も十分持たれていたが、新たに赴任された学校で、学校図書館の整備や公共図書館との連携の模索、学校図書館を活用した経験をあまり持たない生徒に対してどのように授業展開していくかを探りつつの実践となった。学校も小石先生の取り組みに理解を示されていたが、学校をあげての重点としようというわけではなかった。小石先生は、学校図書館の可能性を認識した教師として、ある意味独力で環境整備・授業実践に取り組まれたわけである。必ずしも望ましい環境での実践ではなかったと思われるが、多くの学校はこの状況から取り組まねばならず、プロジェクトにとっては貴重な事例となった。この事例では、実践研究①で得た支援の方法を、公立学校でも適用可能かを確認しつつ行われ、その妥当性が検証できた。極めて限られた時間であったが、生徒たちは主体的に資料を探し、そこから読み取ったことを作品にまとめることができた。小石先生が企図した室町時代の民衆の成長を実感できる学習が展開されたと言ってよいだろう。この実践研究では、先に述べたような事情での実践ゆえの新たな成果があった。それは、学校図書館活用経験の少ない生徒のために、新たな単元を開発しながらの実践となったため、小石先生の単元開発の支援に関わることができたということである。学校図書館は学校図書館法に示されているように教員の利用による教育課程展開寄与も目的にしてお

り、その理念はしばしば強調されるが、実践レベルでこの機能を果たしている学校図書館は十分とはいえず、今後開発が求められる分野である。この事例からは公共図書館の資料支援の必要性が改めて確認できた。授業展開のためには、生徒数に応じた資料が必要となるが、学校図書館に限られた空間と予算の中でそれを持つことは困難である。しかし単に資料の貸出しが可能であるだけでは十分な支援とはいえない。資料の配送等学校現場の現状に応じたきめ細やかな支援が求められるが、それに応じることのできる公共図書館はどれだけあるのだろうか。小石先生は資料の貸出しを受けるため、台車を用意して片道 20 分あまりの道のりを図書館まで出向かれたそうである。実際に支援要請に対応された区立図書館分館の担当者は誠心誠意の対応をしてくださったが、資料の配送サービスがない以上、利用者に取りに来てもらうほかないのである。公共図書館の支援についても課題が見えてきたように思う。

実践研究③では、荒川区教育委員会・同指導室学校図書館支援室（藤田利江主任学校図書館指導員）の協力を得て、同区第三峡田小学校の川島徹先生・吉田香奈子先生（学校司書）の授業支援について検証することができた。今回のプロジェクトが対象とした中学校の社会科授業支援ではないが、学校図書館支援室と学校司書の支援によって、学校図書館機能を活用し、学習対象に興味を持ち主体的に学ぶ子どもたちの姿が見られた。この事例から学んだことは学校図書館を支援する組織とそのコーディネーターの可能性である。荒川区は学校図書館を活用した教育改革に取り組む自治体であるが、学校図書館を活用した実践を経験していない多くの教師に、自身も豊富な教職経験を持ち、司書教諭としても活躍されてきた藤田氏が主任学校図書館指導員としてリーダーシップを発揮しながら授業での活用可能性を示し、授業作りの支援を行っておられた。川島先生も吉田先生も、互いの持つ疑問や感じた困難点を藤田氏に相談し、藤田氏はそれに答えつつ、荒川区の学校図書館公共図書館と連携して授業支援に取り組みおられた。それが授業での子どもたちの充実した学びを実現した要因であろう。

本プロジェクトでは、これら 3 つの実践研究から、図書館による授業支援サービスの方法を明らかにすることができたと考えている。その詳細は第 6 章に譲るが、最も重要なことは個性的に展開する各授業の授業者のニーズを把握する事であり、授業者の意図を具現化するための資料支援を行う事である。そのためのインタビューの方法（聞き取るべき事柄）を「打合せのポイント」として、それを基にした資料支援の方法について「調べ学習支援サービスの手順」として整理することができた。

この実践研究の中で、当初想定していた以上の可能性を見出すこともできた。その一つは、授業作り支援の可能性であり、今ひとつは学校図書館支援のコーディネーターの可能性である。

実践研究②の小石先生の実践で本プロジェクトが果たした授業作り支援の役割は、本来学校図書館が求められていた機能の一つであったが、学校図書館の物的・人的整備状況が厳しい環境下では望むべくもない事だったのではないか。しかし、授業支援に取り組むことになると、そのような環境下においても、いや、そのような厳しい環境下であるからこそ工夫した授業実践が求められる。それゆえ授業者を資料面だけでなく、授業作りの方法（先行実践の紹介や、情報リテラシーを育てる教育実践の理論と方法等）を含めた支援が重

要になる。学校図書館とその機能を活用した授業実践は、まだある意味「知られざる教育」である。授業支援サービスを考えるときには資料支援はもとより、学校の状況に応じ、授業者の潜在的なニーズを掘り起こすような授業作りに関する支援がこれから重要になってくるだろう。また、それらの授業支援を持続可能で安定したものとしていくための仕組み作りも重要である。本プロジェクトが荒川区の事例から学んだ事であるが、学校図書館支援センター事業に取り組まれ、成果を上げておられる自治体では、学校現場の実情に応じた柔軟な仕組み作りと行政のリーダーシップ、コーディネーターの役割が成否を分ける鍵となっているように思う。近年学校現場では教員の人事異動が頻繁に行われている。支援する側の図書館にも同様な事情があろう。授業支援が機能し始めても、担当者が変わってしまうたびに振出しに戻るようでは持続可能で安定的な実践とはならない。そこをつなぐ支援センターやセンターの中核となるコーディネーターの役割については今後検討していくべき課題である。

最後に、本プロジェクトでは大変多くの方々に協力をお願いし、御理解と御助力で多くの成果を得ることができた。この場を借りて、御協力いただいた関係者の皆様に謝意を表し、御礼に代えることとしたい。

(鎌田和宏)

参考資料 目次

<実践研究① 参考資料>

参考資料 1-1 「日本の諸地域調べ」授業実践ドキュメント ……………56

参考資料 1-2 「日本の諸地域調べ」学習用ブックリスト ……………58

<実践研究② 参考資料>

参考資料 2-1 「中世のものづくり」授業実践ドキュメント ……………63

参考資料 2-2 「中世のものづくり」学習用ブックリスト ……………66

<実践研究③ 参考資料>

参考資料 3-1 「江戸の文化と新しい学問」授業実践ドキュメント ……………72

参考資料 3-2 「江戸の文化と新しい学問」学習用ブックリスト ……………75

※実践研究の記録は、以下の国際子ども図書館ホームページにも掲載されています。

<http://www.kodomo.go.jp/promote/school/project.html>

参考資料 1 - 1

東京学芸大学附属竹早中学校 中学 1 年生・2 学期 社会科地理「日本の諸地域調べ」 授業実践ドキュメント

学習用ブックリストの資料（参考資料 1-2）を用いて、平成 23 年 1 月から 2 月にかけて、「日本の諸地域調べ」のグループ発表学習を行いました。荒井正剛氏が授業を行い、学校司書の岡島玲子氏が生徒の調べ作業をサポートしました。この授業の具体的な授業計画を紹介します。

【単元】	日本の地理 日本 の 諸 地 域 調 べ
【実施クラス】	1 年 A 組～D 組（各クラス 40 人）
【日程】	平成 23 年 1 月～2 月
【調べ学習の 位置付け】	当該単元の学習時間（全 21 時間）のうち、調べ学習には最後の 9 時間を当てる。調べ学習は、社会科グループ学習室で行う。
【教材・教具】	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、地図帳、資料集 ・都道府県別データ資料集（教科書会社発行） ・調べ学習用ブックリスト掲載資料（参考資料 1-2）約 120 冊
【調べ学習の授業計画】 <p style="text-align: right;">※以下は、授業時に生徒へ配布したプリントから抜粋した。 ※[]は、国際子ども図書館が補記した部分である。</p>	
学習の ねらい	<p>調査: 各地域の次の①～⑤の様子をとらえ、その特色が見られる理由を考察する。また、各地方の課題をとらえ、それについて自分たちなりの意見を持つ。 （①自然・環境保全、②人口・都市、③農林水産業、④工業と交通、⑤生活文化・歴史的背景）2 県くらい選んで、その県を中心に調べてもよい。</p> <p>発表: 調べたことについて、資料を使って、わかりやすく筋道立てて発表する。</p> <p>まとめ: 全部の発表を通して、他の地域との共通点と調べた地域の特色を考える。</p>
テーマ	<p>日本の諸地域を調べよう。（2 学期に学習した北陸地方と東京の授業を参考に、各地域の特色と課題を調べ発表し、学び合う。）</p> <p>[諸地域調べに入る前に、北陸（新潟）と東京について教員による講義を行った。] [生徒の希望等により、1 クラスを地域別に 8 グループ（沖縄、北海道、九州、中国・四国、近畿、東北、東海、北関東・甲信）に分けた。]</p>

【調べ学習の授業計画】（続き）		
調査の 進め方の 目安	1時間目	<p>身近な資料を使って、基本的な知識を得、テーマを考える。</p> <p>①[事前に配布された]プリントに沿って、自然、人口、産業の特色を大まかにとらえる。（全員で調べてもよいし、分担してもよい。分担した場合は必ず情報交換すること。）</p> <p>②以下の資料を調べる。（分担するとよい） 資料集、教科書、地図帳、別紙プリントで、農業や工業の全国に占める割合の変化をとらえる</p> <p>③疑問に思ったこと・面白いと思ったことを出し合い、テーマを決める。 *テーマは、上記①～⑤から、少なくとも3つ以上をカバーしたい。 [生徒は、考えたテーマ案を授業者に提出。授業者は、提出されたテーマ案を確認し、地理学習に合ったテーマ設定ができるよう、必要に応じて指導。]</p>
	2・3時間目	<p>詳しく知りたい内容などについて、図書やネット資料を収集する。[インターネットの使用は3時間目のみ許可。][時間中は学校司書による援助を行った。] *最後の10分間は、分かったことを出し合うこと。分担した内容の関連に気を付ける。</p>
	4時間目	<p>調べたことの整理と発表準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かったことを地図化・図表化するとよい。 発表の順番と方法を考える。（発表は20分程度、本を読んで発表することはやめよう！） 要点をB5サイズにまとめる。（印刷して全員に配ります） その他にプリント資料を作ってもよい。
	5～8時間目	<p>[グループごとの発表。生徒は、他グループの発表を聞く際、自分たちが調べた地域と比べて、共通点やキーワードを記録用紙に記入した。また、発表後の授業者の補足説明を聞きながら、配布された要点プリントを埋めた。]</p>
	9時間目	<p>[発表を聞いて分かったこと、特に共通点について、各自で整理し、最後に授業でまとめた。]</p>

参考資料1-2

東京学芸大学附属竹早中学校
中学校社会科「日本の諸地域調べ」学習用ブックリスト

ブックリストは、大きく、「日本全体の資料」と「地域別の主題資料」に分かれています。「評価」欄の△○◎は、本プロジェクトの授業者による評価です。ただし、「出版年」欄にWebとあるインターネット資料は、授業者による評価の対象外です。また、「生徒」欄の★は「参考になった」と答えた生徒の数、☆は「やや参考になった」と答えた生徒の数です(生徒1グループにつき★1つ、3グループ以上でも★3つにとどめました)。なお、ここでの資料の評価は、このリストを用いた実際の授業を踏まえたものであり、汎用的な評価でないことにご注意ください。

【日本全体の資料】

No	書名	出版社	出版年	補記	評価	生徒	ISBN	国立国会図書館 請求記号
① 地域ごとに、地域の大まかな情報や地域特有のテーマを紹介した本								
1	ふしぎがいっぱい!ニッポン文化. 1 北海道・東北地方のふしぎ文化	旺文社	2008	都道府県ごとに、Q&A形式で特徴的な文化を紹介。	○	★	978-4-01-071909-1	Y2-N09-J39
2	ふしぎがいっぱい!ニッポン文化. 2 南関東地方のふしぎ文化	旺文社	2009		○		978-4-01-071910-7	Y2-N09-J50
3	ふしぎがいっぱい!ニッポン文化. 3 近畿地方のふしぎ文化	旺文社	2009		○	★	978-4-01-071911-4	Y2-N09-J87
4	ふしぎがいっぱい!ニッポン文化. 4 沖縄地方のふしぎ文化	旺文社	2009		○		978-4-01-071912-1	Y2-N09-J126
5	ふしぎがいっぱい!ニッポン文化. 第2期 1 北関東・甲信越地方のふしぎ文化	旺文社	2009		○		978-4-01-071915-2	Y2-N10-J28
6	ふしぎがいっぱい!ニッポン文化. 第2期 2 東海・北陸地方のふしぎ文化	旺文社	2010		○		978-4-01-071916-9	Y2-N10-J35
7	ふしぎがいっぱい!ニッポン文化. 第2期 3 中国・四国地方のふしぎ文化	旺文社	2010		○	★★	978-4-01-071917-6	Y2-N10-J115
8	ふしぎがいっぱい!ニッポン文化. 第2期 4 九州地方のふしぎ文化	旺文社	2010		○	★	978-4-01-071918-3	Y2-N10-J160
9	新都道府県クイズ(1) 北海道・東北	国土社	2009		○	★	978-4-337-27021-3	Y2-N09-J80
10	新都道府県クイズ(2) 関東	国土社	2009		○		978-4-337-27022-0	Y2-N09-J81
11	新都道府県クイズ(3) 中部	国土社	2009		○		978-4-337-27023-7	Y2-N09-J82
12	新都道府県クイズ(4) 近畿	国土社	2009		○		978-4-337-27024-4	Y2-N09-J83
13	新都道府県クイズ(5) 中国・四国	国土社	2009		○		978-4-337-27025-1	Y2-N09-J84
14	新都道府県クイズ(6) 九州・沖縄	国土社	2009		○	☆	978-4-337-27026-8	Y2-N09-J85
15	都道府県別日本の地理データマップ. 1(日本の国土と産業データ)	小峰書店	2007		○		978-4-338-23001-8	Y2-N07-H128
16	都道府県別日本の地理データマップ. 2(北海道・東北地方)	小峰書店	2007		○	☆	978-4-338-23002-5	Y2-N07-H129
17	都道府県別日本の地理データマップ. 3(関東地方)	小峰書店	2007		○		978-4-338-23003-2	Y2-N07-H130
18	都道府県別日本の地理データマップ. 4(中部地方)	小峰書店	2007		○		978-4-338-23004-9	Y2-N07-H131
19	都道府県別日本の地理データマップ. 5(近畿地方)	小峰書店	2007		○	★	978-4-338-23005-6	Y2-N07-H132
20	都道府県別日本の地理データマップ. 6(中国・四国地方)	小峰書店	2007		○	★★	978-4-338-23006-3	Y2-N07-H133
21	都道府県別日本の地理データマップ. 7(九州・沖縄地方)	小峰書店	2007		○	☆☆	978-4-338-23007-0	Y2-N07-H134
22	都道府県別日本の地理データマップ. 8(総ざくいん)	小峰書店	2007		○		978-4-338-23008-7	Y2-N07-H135
② 地域ごとに、各地域を詳しく調べられる本								
23	日本の地理：都道府県大図解. 1(北海道・青森・岩手・宮城・秋田)	学習研究社	2007	巻頭に、特定トピックス(「世界自然遺産、知床」「東北三大祭り」など)の特集。都道府県の概要を、各県6ページ使って簡潔に紹介。	○		978-4-05-810824-6 (set)	Y2-N07-H29
24	日本の地理：都道府県大図解. 2(山形・福島・茨城・栃木・群馬)	学習研究社	2007		○			Y2-N07-H30
25	日本の地理：都道府県大図解. 3(埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨)	学習研究社	2007		○			Y2-N07-H31
26	日本の地理：都道府県大図解. 4(新潟・富山・石川・福井・長野)	学習研究社	2007		○			Y2-N07-H32
27	日本の地理：都道府県大図解. 5(岐阜・静岡・愛知・三重・滋賀)	学習研究社	2007		○			Y2-N07-H33
28	日本の地理：都道府県大図解. 6(京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)	学習研究社	2007		○	★		Y2-N07-H34
29	日本の地理：都道府県大図解. 7(鳥取・島根・岡山・広島・山口)	学習研究社	2007		○			Y2-N07-H35
30	日本の地理：都道府県大図解. 8(徳島・香川・愛媛・高知・福岡・大分)	学習研究社	2007		○			Y2-N07-H36
31	日本の地理：都道府県大図解. 9(佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄)	学習研究社	2007		○			Y2-N07-H37
32	日本の地理：都道府県大図解. 10(日本の国土と産業)	学習研究社	2007		○			Y2-N07-H38
33	日本の地理：都道府県大図解. 11(地図の見方・使い方)	学習研究社	2007		○			Y2-N07-H39

No	書名	出版社	出版年	補記	評価	生徒	ISBN	国立国会図書館 請求記号	
34	日本地理(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2005	日本各地のデータブック、 貿易、国際化などの統計も あり。	◎		4-591-08447-7	Y2-N05-H50	
35	九州地方(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2010		◎	★★★	978-4-591-11593-0	Y2-N10-J168	
36	関東地方(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2010		◎	★★	978-4-591-11589-3	Y2-N10-J173	
37	近畿地方(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2010		◎	★★	978-4-591-11591-6	Y2-N10-J171	
38	中国・四国地方(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2010		◎	★★	978-4-591-11592-3	Y2-N10-J170	
39	北海道・東北地方(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2010		◎	★★★	978-4-591-11588-6	Y2-N10-J174	
40	中部地方(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2010		◎	★★★	978-4-591-11590-9	Y2-N10-J172	
41	いきいき調べ学習新図解わたしたちの日本地理 関東地方	学習研究社	1997.2			○			Y2-1563
42	いきいき調べ学習新図解わたしたちの日本地理 九州地方	学習研究社	1997.2		○			Y2-1559	
43	いきいき調べ学習新図解わたしたちの日本地理 近畿地方	学習研究社	1997.2		○			Y2-1561	
44	いきいき調べ学習新図解わたしたちの日本地理 地図と調査・観察	学習研究社	1997.2		○		4-05-810494-5(set)	Y2-1565	
45	いきいき調べ学習新図解わたしたちの日本地理 中国・四国地方	学習研究社	1997.2		○			Y2-1560	
46	いきいき調べ学習新図解わたしたちの日本地理 中部地方	学習研究社	1997.2		○			Y2-1562	
47	いきいき調べ学習新図解わたしたちの日本地理 東北・北海道地方	学習研究社	1997.2		○	★★		Y2-1564	
48	いきいき調べ学習新図解わたしたちの日本地理 日本の国土	学習研究社	1997.2		○			Y2-1558	
49	図説学習日本の地理 改訂版 (1 日本の自然と産業)	旺文社	1982		○				Y2-517
50	図説学習日本の地理 改訂版 (2 九州地方)	旺文社	1982		○				Y2-517
51	図説学習日本の地理 改訂版 (3 中国四国地方)	旺文社	1982		○				Y2-517
52	図説学習日本の地理 改訂版 (4 近畿地方)	旺文社	1982		○			Y2-517	
53	図説学習日本の地理 改訂版 (5 中部地方)	旺文社	1982		○			Y2-517	
54	図説学習日本の地理 改訂版 (6 関東地方)	旺文社	1982		○			Y2-517	
55	図説学習日本の地理 改訂版 (7 東北地方)	旺文社	1982		○			Y2-517	
56	図説学習日本の地理 改訂版 (8 北海道地方)	旺文社	1982		○			Y2-517	
57	調べ学習に役立つ宇宙から見た日本の地理と産業 1(北海道・東北地方)	あかね書房	1998		○		4-251-07991-4	Y2-M99-40	
58	調べ学習に役立つ宇宙から見た日本の地理と産業 2(関東地方)	あかね書房	1998		○		4-251-07992-2	Y2-M99-40	
59	調べ学習に役立つ宇宙から見た日本の地理と産業 3(中部地方)	あかね書房	1998		○		4-251-07993-0	Y2-M99-41	
60	調べ学習に役立つ宇宙から見た日本の地理と産業 4(近畿地方)	あかね書房	1998		○		4-251-07994-9	Y2-M99-42	
61	調べ学習に役立つ宇宙から見た日本の地理と産業 5(中国・四国地方)	あかね書房	1998		○	★	4-251-07995-7	Y2-M99-43	
62	調べ学習に役立つ宇宙から見た日本の地理と産業 6(九州・沖縄地方)	あかね書房	1998		○		4-251-07996-5	Y2-M99-44	
63	調べ学習にやくだつ日本の地理 (1)北海道・東北地方	ポブラ社	1997			★★★	4-591-03271-X	Y2-1593	
64	調べ学習にやくだつ日本の地理 (2)関東地方	ポブラ社	1997				4-591-03272-8	Y2-1594	
65	調べ学習にやくだつ日本の地理 (3)中部地方1	ポブラ社	1997				4-591-03273-6	Y2-1595	
66	調べ学習にやくだつ日本の地理 (4)中部地方2	ポブラ社	1997				4-591-03274-4	Y2-1595	
67	調べ学習にやくだつ日本の地理 (5)近畿地方	ポブラ社	1997				4-591-03275-2	Y2-1596	
68	調べ学習にやくだつ日本の地理 (6)中国・四国地方	ポブラ社	1997			★	4-591-03276-0	Y2-1597	
69	調べ学習にやくだつ日本の地理 (7)九州地方	ポブラ社	1997			☆	4-591-03277-9	Y2-1598	
70	調べ学習にやくだつ日本の地理 (8)日本の国土のくらし	ポブラ社	1997				4-591-03278-7	Y2-1599	
71	調べ学習にやくだつ日本の地理 (9)日本地理データブック	ポブラ社	1997				4-591-03279-5	Y2-1600	
72	調べ学習にやくだつ日本の地理 (10)日本地理なんでも日本一	ポブラ社	1997				4-591-03280-9	Y2-1601	

No	書名	出版社	出版年	補記	評価	生徒	ISBN	国立国会図書館 請求記号
73	都道府県別21世紀日本の産業 (1)沖縄・鹿児島・宮崎・熊本・長崎・佐賀	学習研究社	2001		◎		4-05-810609-3 (set)	Y1-N01-108
74	都道府県別21世紀日本の産業 (2)福岡・大分・愛媛・高知・香川・徳島	学習研究社	2001		◎			Y1-N01-108
75	都道府県別21世紀日本の産業 (3)山口・広島・岡山・島根・鳥取	学習研究社	2001		◎	☆		Y1-N01-108
76	都道府県別21世紀日本の産業 (4)兵庫・大阪・京都・奈良・和歌山	学習研究社	2001		◎	☆		Y1-N01-108
77	都道府県別21世紀日本の産業 (5)滋賀・三重・愛知・岐阜・静岡	学習研究社	2001		◎			Y1-N01-108
78	都道府県別21世紀日本の産業 (6)福井・石川・富山・新潟・長野	学習研究社	2001		◎	★		Y1-N01-108
79	都道府県別21世紀日本の産業 (7)山梨・神奈川・東京・千葉・埼玉	学習研究社	2001		◎			Y1-N01-108
80	都道府県別21世紀日本の産業 (8)群馬・栃木・茨城・福島・山形	学習研究社	2001		◎			Y1-N01-108
81	都道府県別21世紀日本の産業 (9)宮城・岩手・秋田・青森・北海道	学習研究社	2001		◎			Y1-N01-108
82	都道府県別21世紀日本の産業 (10)全国データブック	学習研究社	2001		◎			Y1-N01-108
③ (地域別ではないが)特定の主題(トピック)を扱った本								
83	テーマで調べる日本の地理(ふるさとの自然)	岩崎書店	2002		○	☆	4-265-10269-7 (set)	Y2-N02-44
84	テーマで調べる日本の地理(ふるさとの農業・漁業・林業)	岩崎書店	2002		○	☆		Y2-N02-45
85	テーマで調べる日本の地理(ふるさとのものづくり)	岩崎書店	2002		○	☆		Y2-N02-46
86	テーマで調べる日本の地理(ふるさとの遺産)	岩崎書店	2002		○	☆		Y2-N02-47
87	テーマで調べる日本の地理(ふるさとの文化)	岩崎書店	2002		○	☆		Y2-N02-48
88	テーマで調べる日本の地理(ふるさとの人と町)	岩崎書店	2002		○	☆		Y2-N02-49
89	テーマで調べる日本の地理(わたしたちのふるさと; 都道府県別資料集)	岩崎書店	2002		○	☆		Y2-N02-50
90	グラフで調べる日本の産業(1)国土と人口	小峰書店	2008		○	★	978-4-338-23401-6	Y1-N08-J131
91	グラフで調べる日本の産業(5)工業	小峰書店	2008		○	★	978-4-338-23405-4	Y1-N08-J135
92	グラフで調べる日本の産業(3)米・野菜・くだもの	小峰書店	2008		○	★	978-4-338-23403-0	Y1-N08-J133
93	くわしい!わかる!図解 日本の産業(1)米	学習研究社	2006		○	★	4-05-810799-5 (シリーズ) (set)	Y1-N06-H103
94	くわしい!わかる!図解 日本の産業(2)野菜・くだもの	学習研究社	2006		○	★		Y1-N06-H104
95	くわしい!わかる!図解 日本の産業(3)水産物・畜産物・林産物	学習研究社	2006		○	★		Y1-N06-H105
96	くわしい!わかる!図解 日本の産業(4)自動車・化学製品	学習研究社	2006		○	★		Y1-N06-H106
97	くわしい!わかる!図解 日本の産業(5)新技術とハイテク製品	学習研究社	2006		○	★		Y1-N06-H107
98	くわしい!わかる!図解 日本の産業(6)交通運輸と貿易	学習研究社	2006		○	★		Y1-N06-H108
99	くわしい!わかる!図解 日本の産業(7)商業・サービス業	学習研究社	2006		○	★		Y1-N06-H109
100	くわしい!わかる!図解 日本の産業(8)マスコミ・IT	学習研究社	2006		○	★		Y1-N06-H110
101	くわしい!わかる!図解 日本の産業(9)国土の利用と産業	学習研究社	2006		○	★		Y1-N06-H111
102	くわしい!わかる!図解 日本の産業(10)自然保護と地球環境	学習研究社	2006		○	★		Y1-N06-H112
103	自給力でわかる日本の産業 1 米・魚はどこからくるの?	学習研究社	2009		○		978-4-05-810978-6 (set)	Y1-N09-J101
104	自給力でわかる日本の産業 2 小麦・野菜はどこからくるの?	学習研究社	2009		○			Y1-N09-J102
105	自給力でわかる日本の産業 3 肉・果実はどこからくるの?	学習研究社	2009		○			Y1-N09-J103
106	自給力でわかる日本の産業 4 電子機器はどこからくるの?	学習研究社	2009		○			Y1-N09-J104
107	自給力でわかる日本の産業 5 鉄・ゴムはどこからくるの?	学習研究社	2009		○			Y1-N09-J105
108	自給力でわかる日本の産業 6 資源・エネルギーはどこからくるの?	学習研究社	2009		○			Y1-N09-J106
109	自給力でわかる日本の産業 7 衣服はどこからくるの?	学習研究社	2009		○			Y1-N09-J107
110	自給力でわかる日本の産業 8 木材・セメントはどこからくるの?	学習研究社	2009		○			Y1-N09-J108

No	書名	出版社	出版年	補記	評価	生徒	ISBN	国立国会図書館 請求記号
111	これからの工業(日本の工業 21世紀のものづくり)	岩崎書店	2006		○	★		Y1-N06-H129
112	自動車工業(日本の工業 21世紀のものづくり)	岩崎書店	2006		○	★		Y1-N06-H130
113	機械工業(日本の工業 21世紀のものづくり)	岩崎書店	2006		○	★	4-265-10384-7 (シリーズ) (set)	Y1-N06-H131
114	鉄鋼業・石油化学工業(日本の工業 21世紀のものづくり)	岩崎書店	2006		○	★		Y1-N06-H132
115	食品・繊維工業(日本の工業 21世紀のものづくり)	岩崎書店	2006		○	★		Y1-N06-H133
116	電機・電子工業(日本の工業 21世紀のものづくり)	岩崎書店	2006		○	★		Y1-N06-H134
117	日本の技術(世界にはばたく日本力)	ほるぷ出版	2009		○	☆	978-4-593-58631-8	Y11-N09-J788
118	調べよう日本の水産業(第1巻)海と自然と漁業	岩崎書店	2005		○	☆	4-265-02581-1	Y11-N05-H233
119	調べよう日本の水産業(第3巻)漁業のいま・これから	岩崎書店	2005		○	☆	4-265-02583-8	Y1-N05-H138
120	調べよう日本の水産業(第5巻)都道府県別にみる水産業	岩崎書店	2005		○	☆	4-265-02585-4	Y1-N05-H139
121	日本の水産業(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2008		○	☆	978-4-591-10085-1	Y1-N08-J169
122	伝統工芸(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2006		○	★★★	4-591-09050-7	Y1-N06-H154
123	郷土料理(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2009		○	★	978-4-591-10685-3	Y2-N09-J129
124	日本の農業(ポブラディア情報館)	ポブラ社	2007		○	★★★	978-4-591-09600-0	Y1-N07-H153
125	農山漁村を体験しよう(日本の食料5)	岩崎書店	2009		○		978-4-265-02295-3	Y1-N09-J163
126	写真で見る日本の名産事典1	日本図書センター	2000		○		978-4-8205-4154-7 (set)	—
127	写真で見る日本の名産事典2	日本図書センター	2000		○			—
128	伝統工業を調べよう(調べよう・日本の伝統工業1)	国土社	1996		○		4-337-26601-1	Y1-2329
129	北海道・東北の伝統工業(調べよう・日本の伝統工業2)	国土社	1996		○	☆	4-337-26602-X	Y1-2269
130	関東の伝統工業(調べよう・日本の伝統工業3)	国土社	1996		○		4-337-26603-8	Y1-2330
131	中部の伝統工業(調べよう・日本の伝統工業4)	国土社	1996		○		4-337-26604-6	Y1-2331
132	近畿の伝統工業(調べよう・日本の伝統工業5)	国土社	1996		○		4-337-26605-4	Y1-2337
133	中国・四国の伝統工業(調べよう・日本の伝統工業6)	国土社	1996		○		4-337-26606-2	Y1-2332
134	九州・沖縄の伝統工業(調べよう・日本の伝統工業7)	国土社	1996		○		4-337-26607-0	Y1-2326
135	やきもの見方・楽しみ方―全国窯場別(セレクトBOOKS)	主婦の友社	2006		○	★☆	4-07-247479-7	KB372-H121
136	日本の地理(朝日ジュニアブック)	朝日新聞社	1997		◎	★	4-02-220613-6	Y2-M98-18
137	修学旅行で行ってみたい日本の世界遺産 2	岩崎書店	2007		○	☆	978-4-265-02752-1	Y6-N07-H114
138	修学旅行で行ってみたい日本の世界遺産 5	岩崎書店	2007		○	☆	978-4-265-02755-2	Y6-N07-H117
139	修学旅行で行ってみたい日本の世界遺産 1	岩崎書店	2007		○	☆	978-4-265-02751-4	Y6-N07-H113
140	日本の祭り 知れば知るほど	実業之日本社	2007		○		978-4-408-10681-6	GD33-H380
141	日本の祭り事典	汐文社	2008		○	★	978-4-8113-8490-0	Y2-N08-J48
142	森林資源をかんがえる(「資源」の本)	岩崎書店	2003		○		4-265-05992-9	Y1-N03-H82
143	ふるさとに文化のともしびを(きょう土につくした人びと ふるさと歴史新聞6)	ポブラ社	1996		○		4-591-05039-4	Y2-1462
144	ふるさとの自然をまもる(きょう土につくした人びと ふるさと歴史新聞7)	ポブラ社	1996		○		4-591-05040-8	Y2-1463
145	しらべ学習に役立つふるさとの歴史と風土1北海道の歴史と人びとのくらし	あすなる書店	1996		○		4-7515-1871-2	Y2-M97-5
146	しらべ学習に役立つふるさとの歴史と風土2東北の歴史と人びとのくらし	あすなる書店	1996		○		4-7515-1872-0	Y2-1472
147	しらべ学習に役立つふるさとの歴史と風土3関東の歴史と人びとのくらし	あすなる書店	1996		○		4-7515-1873-9	Y2-1473
148	しらべ学習に役立つふるさとの歴史と風土4中部の歴史と人びとのくらし	あすなる書店	1996	現代の所だけ使える。	○		4-7515-1874-7	Y2-1441
149	しらべ学習に役立つふるさとの歴史と風土5近畿の歴史と人びとのくらし	あすなる書店	1996		○		4-7515-1875-5	Y2-1474
150	しらべ学習に役立つふるさとの歴史と風土6中国・四国の歴史と人びとのくらし	あすなる書店	1996		○		4-7515-1876-3	Y2-1475
151	しらべ学習に役立つふるさとの歴史と風土7九州・沖縄の歴史と人びとのくらし	あすなる書店	1996		○		4-7515-1877-1	Y2-1476

No	書名	出版社	出版年	補記	評価	生徒	ISBN	国立国会図書館 請求記号
152	日本の農産物直売所—その現状と将来 (筑波書房ブックレット—暮らしのなかの食と農)	筑波書房	2004		○		4-8119-0270-X	DM185-H40
153	実測!ニッポンの地域力	日本経済新聞出版社	2007		○		978-4-532-35262-2	DD34-H287
154	日本の里山 日本の里海(4) 郷土自慢にふれる里	農山漁村文化協会	2007		○		978-4-540-06111-0	GB645-H443
155	スローな未来へ「小さな町づくり」が暮らしを変える	小学館	2009	「持続可能なゆったりとした時間と人間サイズの町づくり」に奮闘する全国10地域とイタリアを取材した本	○		978-4-09-379808-2	DD34-J128
156	地元学からの出発—この土地を生きた人びとの声に耳を傾ける (シリーズ地域の再生1)	農山漁村文化協会	2009		○		978-4-540-09214-5	EC111-J47
157	理科の地図帳 1 環境 : ゴミ、温暖化、大気汚染のようすが地図でわかる!	ポプラ社	2009	テーマ別の地図帳	○		978-4-591-10641-9	Y11-N09-J497
158	理科の地図帳3 気象 : 気温、降水量、日本の気候が地図でわかる!	ポプラ社	2009	テーマ別の地図帳	○	★★★	978-4-591-10643-3	Y11-N09-J499
159	ニッポンの心意気—現代仕事カタログ	筑摩書房	2007	地域に根ざした仕事をしている人の仕事の様子	○		978-4-480-68756-2	Y1-N07-H149
④ 最新のデータが確認できる情報源								
160	日本のすがた2010—表とグラフでみる日本をもっと知るための社会科資料集—	矢野恒太記念会	2010	最新の統計データ解説付き	◎		978-4-87549-234-4	Y1-N10-J111
161	朝日ジュニア学習年鑑 2010	朝日新聞出版	2010	最新のデータ	◎	★★☆	—	Z32-847
162	データでみる県勢 2010年版	矢野恒太記念会	2009	最新のデータ	○	★★★	—	Z41-5991
163	日本国勢図会 2009～2010	矢野恒太記念会	2009	最新のデータ	○	★★	—	Z41-107
164	県勢のあらまし	都道府県	2010	リーフレット	○	★★☆	—	—
165	なるほど統計学園 > 探す・使う・作る > 探してみよう統計データ http://www.stat.go.jp/naruhodo/c1s3.htm	総務省統計局	Web	中高生向け統計サイト	—	★★★	—	—
166	全国自治体マップ検索 http://www.lasdec.nippon-net.ne.jp/cms/1,0,69.html	地方自治情報センター	Web	市町村、都道府県のホームページへのリンク	—	★	—	—
167	政府統計の総合窓口 > 都道府県・市区町村のすがた http://www.e-stat.go.jp/SG1/chiki/Welcome.do	総務省統計局	Web	都道府県別のデータが取り出せる 地域統計概観	—	—	—	—
168	統計からみる日本の工業 > グラフを作ってみよう > 日本の工業のすがた http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/topics/kids/graph/step2.html	経済産業省	Web	「このページのグラフを作成する」都道府県別データdetail.xlsあり。	—	★★	—	—
169	統計からみる日本の工業 > 日本の工業 > 都道府県別の工業 > 都道府県の工業のようす http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/topics/kids/industry/map.html	経済産業省	Web	データを使いグラフを作ることも可能。	—	★★★	—	—
170	農林水産省 > 統計情報 (トップページ) > 農業 http://www.maff.go.jp/j/tokei/index.html	農林水産省	Web	農業(詳細な統計)	—	★	—	—
171	農林水産省 > 統計情報 > わがマチ・わがムラ http://www.machimura.maff.go.jp/machi/	農林水産省	Web	市町村レベルまで調査可能。	—	☆	—	—
172	> 環境統計・調査結果等 > 環境統計集 http://www.env.go.jp/doc/toukei/index.html	環境省	Web	環境(詳細な統計)	—	—	—	—
173	農林水産省 > 統計情報 > 分野別分類/水産業 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kensaku/bunya6.html	農林水産省	Web	水産業(詳細な統計)	—	★	—	—

参考資料 2-1

大田区立大森東中学校 中学 1 年生・2 学期 社会科歴史「中世のものづくり」 授業実践ドキュメント

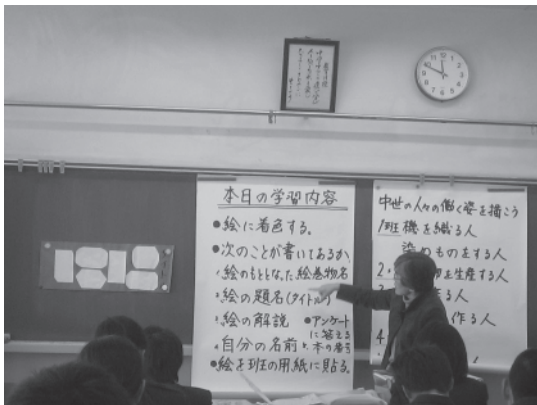
学習用ブックリストの資料（参考資料 2-2）を用いて、平成 23 年 12 月から平成 24 年 1 月にかけて、「中世のものづくり～経済の発展と民衆の成長～」の調べ学習を行いました。小石都志子氏が学習指導案を作成しました。実際の授業の様子を紹介します。

1. 調べ学習の指導案

【単元】	日本の歴史 東アジア世界との関わりと社会の変動
【実施クラス・日程】	1 年 1 組～4 組（各クラス約 30 人）平成 23 年 12 月中旬～平成 24 年 1 月中旬
【調べ学習の 位置付け】	当該単元の学習時間（全 10 時間）のうち、6 時間目、7 時間目、8 時間目の 3 時間を当てて、中世のものづくりをテーマとした調べ学習を行う ^{注）} 。 場所は、各クラスの教室で行う。
【教材・教具】	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史教科書（東京書籍）、歴史資料集（浜島書店） ・調べ学習用ブックリスト掲載資料約 120 冊（ブックトラックに載せて、教室へ持ち込む） ・トレーシングペーパー、色鉛筆、のりとはさみ、色画用紙、絵巻物の材料
【調べ学習時の指導】	
学習の ねらい	<ol style="list-style-type: none"> ①経済の発展によって民衆の力が成長したことを理解するために、絵巻物に描かれている働く民衆の姿を図書から探して模写する。 ②模写することによって、歴史を調べる材料の一つである絵画を丁寧に読み取る体験をする。 ③模写した作品を絵巻物にすることによって、中世にたくさん作られた絵巻物というものの特徴や見方を理解する。
学習テーマ	中世のものづくり～中世の人々の働く姿を描いてみよう～
学習の流れ	<ol style="list-style-type: none"> ①学習のねらいと学習テーマを確認する。 ②クラスを 5 班に分け、班ごとに学習テーマを確認する。（学習テーマは紙に拡大コピーして掲示する。） <ol style="list-style-type: none"> 1 班 機を織る人、染め物をする人など 2 班 食べ物を生産する人 3 班 料理をする人 4 班 鉄を作る人、鋳物を作る人 5 班 大工 ③生徒は、図書を一人 2 冊ずつ選ぶ。 ※注意：目的の絵が見つからない場合はブックトラックに残っている図書を利用する。絵が見つかった生徒は、不要になった図書をすぐにブックトラックに戻す。 ④生徒は、図書からテーマに合う働く庶民の絵を探す。（目次や索引を活用する） ⑤トレーシングペーパーに庶民の姿を模写する。 ⑥トレーシングペーパーに記載することを確認する。 【記載すること】 <ul style="list-style-type: none"> ・働く庶民の模写（黒ボールペンと色鉛筆で仕上げる） ・絵の題名 ・（絵の説明） ・絵の元になった絵巻物名（出典を明らかにする） ・使用した図書の整理番号 ・自分の名前 ⑦描いた絵を画用紙に貼る（画用紙は班で 1 枚～2 枚） ⑧最後に、全部の班の画用紙を貼り合わせて絵巻物にする。
	第一時
	第二時
	第三時

注）調べ学習に入る前の時間（4 時間目）で、生徒は教科書と資料集を用いて、①庶民が何を作っていたか、②誰が作っていたか、③何を使って作っていたかを調べてカードにまとめる作業を行った。

2. 調べ学習時の様子



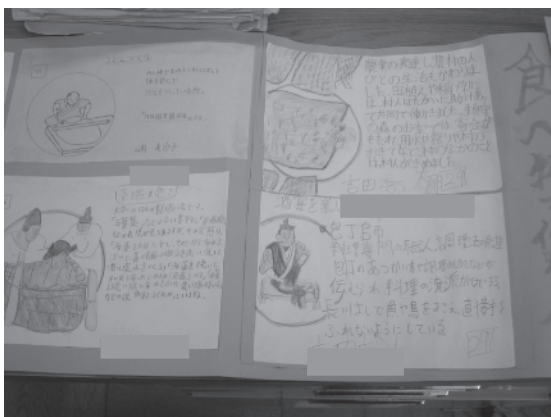
始めに、授業者が本日の学習内容を確認します。



調べ学習用資料は、ブックトラックに載せて、教室へ持ち込みました。



生徒は、グループに分かれて作業を進めました。
授業者は、机間指導を行います。



各自で写したトレーシングペーパーは、
班ごとに、色画用紙に貼ってまとめました。



全部の班の画用紙を貼り合わせて、
クラスごとに絵巻物を作りました。

3. 生徒の感想（授業後のアンケートのまとめ）

（回答した生徒数 115人）

質問事項	回答
①（調べ学習中に）使った本は使いやすかったですか？	はい 92人 いいえ 23人
② 次のうち、どんな本があったら、使おうと思いますか。 当てはまるもの全てに○をつけてください。	○をつけた人数
*絵や図が多い本	89人
*カラーの本	85人
*くわしく書いてある本	56人
*かんたんに書いてある本	53人
*目次や索引がわかりやすい本	48人
*見出して内容がすぐわかる本	47人
*薄い本	42人
*ふりがながふってある本	33人
*新しい本	28人
*厚い本	21人
*その他	2人 [絵や内容がくわしく書いてある本/字が大きくてわかりやすい本]
③ 本を使った調べ学習は好きですか？	はい 66人 いいえ 49人
④ 本を使った調べ学習をまたやりたいですか？	はい 65人 いいえ 49人 (※△と回答した人数を除く)
⑤ 今回の「本を使った調べ学習」について、感じたことを書いてください。 (主な感想を抜粋)	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本に書いていることをうつしたり、かいたり、読み取ったりすることが難しいけど、楽しいです。 ✓ 歴史の授業はあまり好きではないけど、自分で本などを使って調べると自分から進んで調べられるのでだいたい分かった。 ✓ 本には教科書にのっていないことなど、教科書よりくわしいことなどが書いてあるから、結構わかりやすかった。 ✓ パソコンよりも早く調べられたから、自分は本の方があっていると思った。 ✓ 本をさがすのと大変だし、パソコンでやったほうが楽だと思いました。絵をうつすのは、本の方が良いと思いました。[注：この授業では、PCやインターネットは使用不可としました。] ✓ 最初は興味なかったけど、調べていくうちに興味を持った。次は戦国武将をやりたいです。 ✓ 本によっては調べたいものがのっていないものもあって、さがすのが大変でした。 ✓ 調べるのに時間がかかりすぎて居残りになって難しかった。 ✓ 絵をかくのは楽しかったです。歴史の知識が深まってよかったです。 ✓ いつもの授業だけではなくて、自分たちで調べる「本を使った調べ学習」はたまにやるのは良いと思いました。自分たちでまとめたから、他の班の興味を持って見られるので、今度またやってみようと思いました。 	

参考資料2-2

大田区立大森東中学校
中学校社会科「中世のものづくり」学習用ブックリスト

「本に含まれる学習テーマ」欄は、調べ学習で生徒が調べることになった5つの学習テーマのうち、資料に含まれていたものを示しています。授業では、1クラスを5班に分け、あらかじめ授業者が決めた学習テーマを班ごとに割り振り、グループ学習を行いました。
「生徒」欄の☆★は、調べ学習時に当該資料を使用した生徒の数です。(☆=1人、★★=2人)

No.	書名	出版社	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる学習テーマ	選書検討時のコメント	生徒	ISBN	国立国会図書館請求記号
1	教科書に出てくる歴史ビジュアル実物大図鑑	ポプラ社	2010	(時代順)図鑑 教科書の掲載図版を実物大にして収録	(2) 食べ物を生産する人	月次風俗図屏風、洛中洛外図屏風が使える。		978-4-591-11539-8	Y2-N10-J164
2	ジュニア日本の歴史辞典	岩崎書店	2005	(五十音順)事典 カラー口絵図版・年表・索引 <複本2冊用意>	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人	学校図書館にあり。冒頭の衣服の絵が良い。	☆	4-265-05955-4	Y2-N06-H7
3	伝統芸能(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2007	事典、目次・資料(もっと調べよう)・索引あり		伝統芸能の歴史の記述があり。この部分は使えそう。		978-4-591-09602-4	Y6-N07-H120
4	衣食住の歴史(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2006	事典(時代順に衣食住別の項目)見開きカラー 目次・年表・索引 <複本2冊用意>	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人	時代別の構成になっていて良い。	★★★★ ★★★	4-591-09042-6	Y2-N06-H71
5	ビジュアル 日本の歴史(ニューフッドずかん百科)	学習研究社	2006	事典 目次・カラー年表・人物・ことから索引・写真イラスト <複本2冊用意>	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人	絵が豊富で良い。説明文も簡潔。	★☆☆	4-05-202368-4	Y2-N06-H150
6	日本の歴史(朝日ジュニアブック)	朝日新聞社	2002	Q&A式、時代別 <複本2冊用意>		上級者向けだが、読める生徒はいるだろう。		4-02-220618-7	Y2-N02-125
7	ことば絵事典:探検・発見授業で活躍する日本語;8 歴史・文化・行事のことば	偕成社	2008.3	ことば事典 歴史・文化分野別に、絵入りで言葉を説明	(3) 鉄を作る人、鋳物を作る人	産業経済のことばが説明してあるので、使えそう。	☆	978-4-03-541380-6	Y8-N08-J372
8	日本の歴史.2 鎌倉～安土桃山時代(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2009	事典(時代別) 貴重な写真資料や図版が満載 歴史上の重要人物や用語などについてのコラムが充実 巻末には年表のほか、調べ学習に役立つ博物館・資料館の案内も掲載 <複本2冊用意>	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人	使いやすいので、複本があっても良い。	☆	978-4-591-10681-5	Y2-N09-J155
9	日本の歴史資料集:教科書の絵と写真で見る.第3巻 鎌倉時代～室町時代	岩崎書店	2002	写真が鮮明	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人	学校図書館にあり。	☆	4-265-04853-6	Y2-N02-51
10	調べ学習に役立つ時代別・テーマ別日本の歴史博物館・史跡.4(鎌倉・南北朝・室町時代)	あかね書房	1999	目次、博物館・史跡リスト、30祇園祭り、32職人、「調べるための本」 ¹⁾ にあり	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人	職人の仕事を取り上げられている。	★	4-251-07904-3	Y2-N00-5
11	室町・戦国時代(地図でみる日本の歴史;4)	フレーベル館	2000	目次、索引、文献 日本歴史Q&A 16一揆、28職人、31座、「調べるための本」注にあり <複本2冊用意>	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人	p.29座・職人の絵が良い。書画装置に映して生徒に見せてもよいか。	★★★☆☆	4-577-02021-1	Y2-N00-130
12	金閣・銀閣の研究:日本文化のルーツをさぐる(調べ学習日本の歴史;4)	ポプラ社	2000	索引 37祇園祭 「調べるための本」 ¹⁾ にあり		p.38,p.39 は使える。	☆	4-591-06379-8	Y2-N00-63
13	日本の遺跡と遺産.4 中世・近世の遺産	岩崎書店	2009	室町時代の都市 産業と流通を説明してから全国の遺跡を写真で紹介する		堺、運送業の記述がある。		978-4-265-02864-1	Y2-N09-J139
14	南北朝・室町・戦国時代(人物・資料でよくわかる日本の歴史;6)	岩崎書店	2000	イラストと見開き・索引・文献・年表 22職人、27水車	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人		☆	4-265-04846-3	Y2-N00-53
15	鎌倉時代(人物・資料でよくわかる日本の歴史;5)	岩崎書店	2000	イラストと見開き・索引・文献・年表 22料理、24農業技術、36職人	(2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人		☆	4-265-04845-5	Y2-N00-52

No.	書名	出版者	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる学習テーマ	選書検討時のコメント	生徒	ISBN	国立国会図書館請求記号
16	塩の大研究：海から来た宝物：さまざまな用途を発見しよう	PHP研究所	2008.7	塩作りの歴史	(2) 食べ物を生産する人	塩作りの歴史の記載がある	★	978-4-569-68772-8	Y11-N08-J425
17	Jr.日本の歴史、3 武士の世の幕あけ：鎌倉時代から室町時代	小学館	2010.12	年表あり 索引あり 読み物 <複本2冊用意>				978-4-09-293013-1	Y2-N11-J17
18	金閣・銀閣をしらべる：現代につながる室町文化のすがた（しらべ学習に役立つ日本の歴史；7）	小峰書店	1995	くらしと文化Q&A、年表、索引 「調べるための本」 ^注 にあり	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人		★	4-338-12207-2	Y2-1391
19	戦乱の時代を生きた人びと 衣食住にみる日本人の歴史；3(鎌倉時代～戦国時代)	あすなろ書房	2002.3	目次・鳥瞰図イラスト、写真23職人	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人		★	4-7515-2163-2	Y2-N02-43
20	中世を歩く(日本歴史探険 2)	福武書店	1988	目次・年表 国立歴史民俗博物館の展示を写真で紹介する 68-71職人、72農村	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人		☆	4-8288-1172-9	Y2-901
21	読む日本の歴史：日本をつくった人びとと文化遺産。5 戦国の世と統一への動き：室町～江戸時代初期	あすなろ書房	2009	20職人 年表・索引 読み物で上級向けか <複本2冊用意>	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人			978-4-7515-2575-3	Y2-N09-J113
22	調べて学ぶ日本の衣食住。衣	大日本図書	1997	時代別(現代から古代へ)に展開 年表あり	(1) 機を織る人、染物をする人	学校図書館にある。時代別の構成が良い。	★	4-477-00786-8	Y1-2472
23	調べて学ぶ日本の衣食住。食	大日本図書	1997	時代別(現代から古代へ)に展開 年表あり	(2) 食べ物を生産する人 (5) 料理をする人	学校図書館にある。時代別の構成が良い。職人が載っている。	★	4-477-00787-6	Y1-2472
24	調べて学ぶ日本の衣食住。住	大日本図書	1997	時代別(現代から古代へ)に展開 年表あり	(4) 大工	学校図書館にある。時代別の構成が良い。		4-477-00788-4	Y1-2472
25	商業・工業の歴史：物々交換からキャッシュレスまで商工業の歩み	ポプラ社	1994	目次・うつりかわり年表、20-21職人、26-27鉱業 <複本2冊用意>	(3) 鉄を作る人、鋳物を作る人	座がある。	★★★☆	4-591-04548-X	Y2-1249
26	京都千二百年。上(日本人はどのように建造物をつくってきたか；8 平安京から町衆の都市へ)	草思社	1997	室町時代限定ではない年表あり 見開きに白黒イラスト 上級向け		学校図書館にある。		4-7942-0757-3	Y6-M97-7
27	京都千二百年。下(日本人はどのように建造物をつくってきたか；9 世界の歴史都市へ)	草思社	1999	室町時代限定ではない年表あり 見開きに白黒イラスト 上級向け	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人	学校図書館にある。		4-7942-0868-5	Y6-M97-7
28	もうひとつの日本の歴史：絵本	解放出版社	2007	時代順に見開き絵 巻末に描かれた内容の解説(33-)あり	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人	絵本だが、授業で使えそう。	☆	978-4-7592-4303-1	Y1-N08-J31
29	絵で見る日本の歴史	福音館書店	1985	時代順に見開き絵 巻末に描かれた内容の解説あり 26-27市、28-29田植、30-31農業、32-33築城 <複本5冊用意>	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人	絵本だが、授業の導入で使えそう。	★	4-8340-0226-8	Y2-736
30	一揆いろいろ(まんが日本史キーワード)	さ・えら書房	1989	<複本2冊用意>	(2) 食べ物を生産する人	漫画だが、どんな本か見てみたい。	☆	4-378-05005-6	Y2-956
31	戦国時代の村の生活：和泉国いりやまだ村の一年	岩波書店	1988.8	絵本 48-51あとがき「団結する村人たち」 52-56解説「絵をみながら旅をする」	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人			4-00-110644-2	Y2-918
32	「絵巻」子どもの登場：中世社会の子ども像	河出書房新社	1989.7	遊ぶ子ども、働く子ども(建築現場)	(2) 食べ物を生産する人 (4) 大工			4-309-61151-6	GB211-E20
33	歴史おもしろ新聞、第5巻 足利義満、金閣をたてる：南北朝の争いと室町幕府(南北朝時代～室町時代)	ポプラ社	1990.4	1-22号 見開き1号 目次・年表 人物事典 16-17農民	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人			4-591-03615-4	Y2-1005
34	住まいの歴史：自然に合わせた日本の住まいのうつつりかわり(調べ学習にやくだつるしの歴史図鑑；3)	ポプラ社	1994.4	22-29 22-23建築道具 24-25京の町屋	(4) 大工		★☆	4-591-04545-5	Y2-1252
35	食物の歴史：写真や絵でみる食生活のうつつりかわり(調べ学習にやくだつるしの歴史図鑑；1)	ポプラ社	1994.4	22-29 22-23調味料 24-25日本食・物売り	(5) 料理をする人		★★	4-591-04543-9	Y2-1254

No.	書名	出版社	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる学習テーマ	選書検討時のコメント	生徒	ISBN	国立国会図書館請求記号
36	応仁の乱で京都はどうなった? :南北朝・室町時代(調べ学習 にやくだつ日本史の大疑問; 4)	ポプラ社	1998.4	16-22職人の図版多数 24- 25農民はどうやって団結し たか <複本2冊用意>	(1)機を織る人、染物をする人 (2)食べ物を生産する人 (3)鉄を作る人、鋳物を作る人 (4)大工 (5)料理をする人		☆	4-591-05698- 8	Y2-M98-106
37	絵巻物に見る日本庶民生活誌	中央公論社	1981.3	新書 著作一覽				—	GB82-46
38	鎌倉・南北朝時代(地図でみ る日本の歴史;3)	フレーベル館	2000.10	目次・年表・索引・地図・参 考文献 34-36大工、54-65	(1)機を織る人、染物をする人 (2)食べ物を生産する人 (3)鉄を作る人、鋳物を作る人 (4)大工 (5)料理をする人	庶民の生活には、鎌倉 時代も必要になる。	★	4-577-02020- 3	Y2-N00-129
39	戦国大名の研究(調べ学習日 本の歴史;5)	ポプラ社	2000.4	目次・索引・カラー図版	(2)食べ物を生産する人			4-591-06380- 1	Y2-N00-64
40	武士の研究(調べ学習日本の 歴史;13)	ポプラ社	2001.4	目次・索引・カラー図版				4-591-06740- 8	Y2-N01-82
41	仏教の研究(調べ学習日本の 歴史;10)	ポプラ社	2001.4	目次・索引・カラー図版 22-24鎌倉、30-37室町				4-591-06737- 8	Y2-N01-79
42	源平の戦いと鎌倉幕府(人物・ 遺産でさぐる日本の歴史;6)	小峰書店	1998.4	目次・年表・索引・カラー図 版		庶民の生活には、鎌倉 時代も必要になる。		4-338-15106- 4	Y2-M98-122
43	天下統一への道(人物・遺産で さぐる日本の歴史;8)	小峰書店	1998.4	目次・年表・索引・カラー図 版				4-338-15108- 0	Y2-M98-124
44	地方の動きと武士の誕生(人 物・遺産でさぐる日本の歴史; 5)	小峰書店	1998.4	目次・年表・索引・カラー図 版	(1)機を織る人、染物をする人 (2)食べ物を生産する人 (3)鉄を作る人、鋳物を作る人 (4)大工 (5)料理をする人	庶民の生活には、平安 時代も必要になる。	☆	4-338-15105- 6	Y2-M98-121
45	読む日本の歴史.3 平安京の 貴族と武士の出現:平安時代	あすなろ書房	2009.3	年表・索引 上級向け <複本2冊用意>		庶民の生活には、平安 時代も必要になる。		978-4-7515- 2573-9	Y2-N09-J111
46	読む日本の歴史.4 武士の世 を築いた人びと:鎌倉~室町 時代	あすなろ書房	2009.3	年表・索引 上級向け 182 絵巻物にえがかれた民衆 <複本2冊用意>		庶民の生活には、鎌倉 時代も必要になる。		978-4-7515- 2574-6	Y2-N09-J112
47	室町幕府と民衆の成長:室町 時代(人物・遺産でさぐる日本 の歴史:調べ学習に役立つ; 7)	小峰書店	1998	目次・年表・索引・一部カ ラー図版 上級向け	(2)食べ物を生産する人			4-338-15107- 2	Y2-M98-123
48	歴史の流れがわかる時代別 新・日本の歴史.5 室町時代	学研教育出版	2010.2	文献・年表・索引 疑問形 で解説する見開きページ 26-27団結する民衆、28- 29手工業(かじ屋)、座	(2)食べ物を生産する人 (3)鉄を作る人、鋳物を作る人	Q&A式になっているのが 良い。中学生にとって は、ある程度文字分量が あって、テーマがはっきり している情報が載ってい る本が使いやすい。生徒 には、具体例を超えた 「学問」への第一歩を体 験させたい。	★★★	978-4-05- 500691-0	Y2-N10-J75
49	歴史の流れがわかる時代別 新・日本の歴史.4 鎌倉時代	学研教育出版	2010.2	文献・年表・索引 疑問形 で解説する見開きページ 26-27衣食、28-29農作物、 30-31職人、34-35子ども	(1)機を織る人、染物をする人 (2)食べ物を生産する人 (3)鉄を作る人、鋳物を作る人 (4)大工 (5)料理をする人	庶民の生活には、鎌倉 時代も必要になる。	★★★	978-4-05- 500690-3	Y2-N10-J74
50	歴史の流れがわかる時代別 新・日本の歴史.3 平安時代	学研教育出版	2010.2	文献・年表・索引あり 疑問 形で解説する見開きページ 26-27庶民の生活	(2)食べ物を生産する人	庶民の生活には、平安 時代も必要になる。		978-4-05- 500689-7	Y2-N10-J73
51	日本の歴史.1~11(中世1). (週刊朝日百科;529号~539 号)	朝日新聞社	1986.4-6	テーマ別冊子の合冊版 目 次・年表・地図・カラー写 真・カラー図版 4-83職 人、4-174製塩、4-244身分 と職能	(1)機を織る人、染物をする人 (2)食べ物を生産する人 (3)鉄を作る人、鋳物を作る人 (4)大工 (5)料理をする人			—	GB71-E23
52	日本の歴史.12~22(中世2). (週刊朝日百科;540号~550 号)	朝日新聞社	1986.6-9	目次・年表・地図・カラー写 真・カラー図版 テーマ別冊 子の合冊版				—	GB71-E23
53	日本の歴史.23~33(中世から 近世へ)。(週刊朝日百科;551 号~561号)	朝日新聞社	1986.9- 11	目次・年表・地図・カラー写 真・カラー図版 テーマ別冊 子の合冊版 42-45変貌す る農村と都市、52立ち上 がる職人たち	(1)機を織る人、染物をする人 (2)食べ物を生産する人 (3)鉄を作る人、鋳物を作る人 (4)大工 (5)料理をする人			—	GB71-E23
54	日本の歴史.56~66(古代から 中世へ)。(週刊朝日百科;584 号~594号)	朝日新聞社	1987.5-7	目次・年表・地図・カラー写 真・カラー図版 テーマ別冊 子の合冊版	(2)食べ物を生産する人	庶民の生活には、平安 時代も必要になる。	☆	—	GB71-E23
55	図解楽しく調べる日本の歴史: 最新の資料オールカラー.3 武 士の政治と文化:平安・鎌倉・ 室町時代)	日本標準	2010.4	歴史年表(小学校の教科書 内容) 42-43くらし	(2)食べ物を生産する人 (3)鉄を作る人、鋳物を作る人			978-4-8208- 0432-1	Y2-N10-J195

No.	書名	出版社	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる学習テーマ	選書検討時のコメント	生徒	ISBN	国立国会図書館請求記号
56	和食に挑戦しよう(伝統文化で体験学習; 2)	ポプラ社	2003.4	目次・索引・年表・参考文献・博物館情報 9鎌倉・室町の食事	(2) 食べ物を生産する人 (5) 料理をする人		★	4-591-07563-X	Y2-N03-H82
57	戦国時代の道具図鑑: 各地を訪ねて描いた: 調べ学習のヒントがいっぱい!	PHP研究所	2003.12	見聞さに大きく道具を紹介し平易な解説	(3) 鉄を作る人、鋳物を作る人		☆	4-569-68444-0	Y2-N04-H3
58	きものに親しよう(伝統文化で体験学習; 3)	ポプラ社	2003.4	目次・索引・年表・参考文献・博物館情報 11小袖、30-31染め、38機織師	(1) 機を織る人、染物をする人		★	4-591-07564-8	Y2-N03-H83
59	和の心を感じよう(伝統文化で体験学習; 6)	ポプラ社	2003.4	目次・索引・年表・参考文献・博物館情報 39室町時代の和の心				4-591-07567-2	Y12-N03-H109
60	竹細工(伝統を作る: 読んで見ることができる; 4)	学習研究社	2004.2					4-05-201985-7	YU81-H174
61	やきもの(伝統を作る: 読んで見ることができる; 1)	学習研究社	2004.2					4-05-201982-2	YU81-H171
62	染めもの(伝統を作る: 読んで見ることができる; 2)	学習研究社	2004.2		(1) 機を織る人、染物をする人			4-05-201983-0	YU81-H172
63	和紙(伝統を作る: 読んで見ることができる; 3)	学習研究社	2004.2					4-05-201984-9	YU81-H173
64	うるしの文化(図説日本の文化をさぐる)	小峰書店	2003.8	目次・参考文献 モノクロ(図版は江戸期)				4-338-07508-2	Y6-N04-H231
65	奈良がわかる絵事典: 修学旅行にもつかえる!: 古都の楽しさを知ろう!	PHP研究所	2006.6	奈良文化中心 34能楽、50宮大工	(4) 大工			4-569-68605-2	Y2-N06-H97
66	日本の鉄(図説日本の文化をさぐる)	小峰書店	2004.2	目次・参考文献・カラーイラスト 6-7鍛冶屋	(3) 鉄を作る人、鋳物を作る人		☆	4-338-07501-5	Y11-N04-H104
67	鋳物の文化史(図説日本の文化をさぐる)	小峰書店	2004.2	目次・図版 説明は上級向き	(3) 鉄を作る人、鋳物を作る人		★★☆	4-338-07505-8	Y11-N04-H107
68	民家のなりたち(図説日本の文化をさぐる)	小峰書店	2004.1	目次 世界地域別の比較モノクロイラスト 上級向け				4-338-07502-3	Y2-N04-H31
69	民家の事典: 北海道から沖縄まで(図説日本の文化をさぐる)	小峰書店	2004.1	目次 日本全国各地の民家				4-338-07507-4	Y2-N04-H32
70	着る物とはきもの(図解むかしのくらし 教科書がよくわかる; 1)	学習研究社	1997.2	時代順ではなく主に明治-昭和期				4-05-500257-2	Y2-1566
71	食べ物と調理器具(図解むかしのくらし 教科書がよくわかる; 2)	学習研究社	1997.2	時代順ではなく主に明治-昭和期				4-05-500258-0	Y2-1567
72	住まいと家具(図解むかしのくらし 教科書がよくわかる; 3)	学習研究社	1997.2	時代順ではなく主に明治-昭和期				4-05-500259-9	Y2-1568
73	衣食住に見る日本の歴史; 5 鎌倉・室町時代 武士と庶民のくらし	あすなろ書房	1989.6	12-13年表、32-33大工、42水車	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人		☆	4-7515-1491-1	Y2-991
74	衣食住に見る日本の歴史; 7 資料編 ぐらしの中の歴史発見	あすなろ書房	1989.6	衣食住別のイラスト入り年表(14-15食、22-25住、34-35衣)	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人		☆	4-7515-1491-1	Y2-991
75	ヴィジュアル史料日本職人史 第1巻 職人の誕生: 古代・中世編	雄山閣出版	1991.6	職人の図あり	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人		★	4-639-01033-8	DL315-E35
76	日本人のはじまり(「日本人」を知る本; 1)	岩崎書店	2004.2	目次・索引・カラー図版 縄文時代				4-265-02651-6	Y2-N04-H75
77	日本人の信仰(「日本人」を知る本; 2)	岩崎書店	2004.2	目次・索引・カラー図版				4-265-02652-4	Y5-N04-H75
78	日本人の衣服(「日本人」を知る本; 3)	岩崎書店	2004.2	目次・索引・関連年表・カラー図版 12庶民、23機織、36-37鳥帽子	(1) 機を織る人、染物をする人		★☆	4-265-02653-2	Y2-N04-H76
79	日本人の食事(「日本人」を知る本; 4)	岩崎書店	2004.2	目次・索引・関連年表・カラー図版 26-27料理、28茶の湯、33花見	(5) 料理をする人		★★☆	4-265-02654-0	Y2-N04-H77
80	日本人の住まい(「日本人」を知る本; 5)	岩崎書店	2004.2	目次・索引・関連年表・カラー図版 24-25床、36-37大工	(4) 大工		★★☆	4-265-02655-9	Y2-N04-H78
81	食のひみつ(日本人の暮らし大発見! : 日本の伝統をもっとよく知ろう; 1)	学習研究社	2003.3	時代がわかりにくい 現代の食文化	(2) 食べ物を生産する人 (5) 料理をする人		☆	4-05-201731-5	Y2-N04-H2

No.	書名	出版者	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる学習テーマ	選書検討時のコメント	生徒	ISBN	国立国会図書館請求記号
82	住まいの知恵(日本人の暮らし大発見! : 日本の伝統をもっとよく知ろう; 2)	学習研究社	2003.3	目次・索引・カラー図版 16 料理	(4) 大工 (5) 料理をする人		★	4-05-201732-3	Y2-N03-H102
83	道具のひみつ(日本人の暮らし大発見! : 日本の伝統をもっとよく知ろう; 3)	学習研究社	2003.3	18-23陶磁器、24鋳物、46-47刀師・刀研ぎ師	(3) 鉄を作る人、鋳物を作る人		★	4-05-201733-1	Y2-N03-H103
84	伝統芸能(日本人の暮らし大発見! : 日本の伝統をもっとよく知ろう; 4)	学習研究社	2003.3	目次・索引・カラー図版				4-05-201734-X	Y6-N03-H96
85	食べる道具(イラストで見るモノのうつりかわり; 1)	河出書房新社	1998.4	目次 道具が中心、時代がわかりにくい 26-27料理、59酒づくり	(2) 食べ物を生産する人 (5) 料理をする人		☆	4-309-61011-0	Y2-M98-93
86	住まう道具(イラストで見るモノのうつりかわり; 2)	河出書房新社	1998.4	目次 道具が中心 時代がわかりにくい				4-309-61012-9	Y2-M98-94
87	装う道具(イラストで見るモノのうつりかわり; 3)	河出書房新社	1998.4	目次 道具が中心、時代がわかりにくい	(1) 機を織る人、染物をする人			4-309-61013-7	Y2-M98-95
88	働く道具(イラストで見るモノのうつりかわり; 4)	河出書房新社	1998.4	目次 道具が中心、時代がわかりにくい 16農具、鍛冶、機織	(1) 機を織る人、染物をする人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人		★	4-309-61014-5	Y2-M98-96
89	祈る道具・遊ぶ道具・索引(イラストで見るモノのうつりかわり; 5)	河出書房新社	1998.4	目次・5巻すべての索引あり 室町時代に該当するモノはなし				4-309-61015-3	Y2-M98-97
90	食べ物・飲み物(まるごとわかる「モノ」のはじまり百科; 1)	日本図書センター	2004.3	目次索引あり				4-8205-9587-3	Y2-N04-H90
91	暮らし・生活用品(まるごとわかる「モノ」のはじまり百科; 2)	日本図書センター	2004.3	目次索引あり 14足利学校、28台所、45紙漉き、50鍛冶屋	(4) 大工 (5) 料理をする人			4-8205-9588-1	Y2-N04-H91
92	交通・メディア(まるごとわかる「モノ」のはじまり百科; 4)	日本図書センター	2004.3	テーマ・モノ別にはじまりをカラー図版で紹介 目次索引あり 明治以降が多く、室町時代はなし				4-8205-9590-3	Y11-N04-H210
93	絵巻物による日本常民生活絵引. 第1	角川書店	1964	一般書 伴大納言絵詞、信貴山縁起 など 絵巻物から詳細な解説をする絵引 分野別索引	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人				382.1-Si267n
94	絵巻物による日本常民生活絵引. 第2	角川書店	1965	一般書 一遍聖絵 絵巻物から詳細な解説をする絵引 分野別索引	(2) 食べ物を生産する人				382.1-Si267n
95	絵巻物による日本常民生活絵引. 第3	角川書店	1966	一般書 西行物語絵巻 など 絵巻物から詳細な解説をする絵引 分野別索引	(2) 食べ物を生産する人		☆		382.1-Si267n
96	絵巻物による日本常民生活絵引. 第4	角川書店	1966	一般書 春日権現験記、親鸞上人絵伝、石山寺縁起 など 絵巻物から詳細な解説をする絵引 分野別索引 176-181作業場、204-208作業場	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人				382.1-Si267n
97	絵巻物による日本常民生活絵引. 第5	角川書店	1968	一般書 法然上人絵伝 など 絵巻物から詳細な解説をする絵引 分野別索引	(2) 食べ物を生産する人				382.1-Si267n
98	絵巻物による日本常民生活絵引. 索引	角川書店	1968	一般書 全5巻の五十音順索引 解説	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人				382.1-Si267n
99	七十一番職人歌合 画像ファイル	ファイル資料		「七十一番職人歌合」絵巻カラー画像 東京国立博物館所蔵資料の画像を学習目的で使用するために作成した	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人		★★☆		
100	日本庶民生活史料集成. 第30巻; 東北院歌合(曼殊院本)ほか40篇	三一書房	1982.5	一般書 絵巻物	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人				382.1-N6882
101	新日本古典文学大系. 61(七十一番職人歌合)	岩波書店	1993	七十一番職人歌合 白黒挿絵があるが解説は専門的	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人			4-00-240061-1	KH2-E3
102	日本職人辞典(新装版)	東京堂出版	1998.9	一般書 職人について解説する辞典	(1) 機を織る人、染物をする人 (2) 食べ物を生産する人 (3) 鉄を作る人、鋳物を作る人 (4) 大工 (5) 料理をする人			4-490-10501-0	GB8-G26

No.	書名	出版者	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる学習テーマ	選書検討時のコメント	生徒	ISBN	国立国会図書館請求記号
103	風俗画大成;2目で見える鎌倉時代	国書刊行会	1986.1	一般書 絵巻物	(1)機を織る人、染物をする人 (2)食べ物を生産する人 (3)鉄を作る人、鋳物を作る人 (4)大工 (5)料理をする人			—	YQ11-507
104	風俗画大成;3目で見える足利時代	国書刊行会	1986.1	一般書 絵巻物	(1)機を織る人、染物をする人 (2)食べ物を生産する人 (3)鉄を作る人、鋳物を作る人 (4)大工 (5)料理をする人			—	YQ11-507

注) 鎌田和宏,中山美由紀編著『先生と司書が選んだ調べるための本 : 小学校社会科で活用できる学校図書館コレクション』少年写真新聞社, 2008, 159p

参考資料 3-1

荒川区立第三峡田小学校 小学校 6 年生・2 学期 社会科歴史「江戸の文化と新しい学問」 授業実践ドキュメント

学習用ブックリストの資料（参考資料 3-2 参照）を用いて、「江戸の文化と新しい学問」の調べ学習を行いました。授業者である川島徹氏とともに、学校司書の吉田香奈子氏と学校図書館支援室の主任指導員である藤田利江氏が、児童の調べ作業をサポートしました。実際の授業の様子を紹介します。

1. 授業の概要

【実施クラス・日程】	6 年 1 組 26 名 平成 23 年 9 月 28 日（水）第 3、4 校時
【単元】	日本の歴史 6. 江戸の文化と新しい学問
【教科書等】	東京書籍『新しい社会 6』 資料集 光文書院『社会科資料集』
【調べ学習の 位置付け】	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめとして調べ学習を実施した。調べ学習には、当該単元の学習全 7 時間のうち 6 時間目と 7 時間目を当てた。（1～5 時間目は、教科書に沿った講義形式の授業を行った。） ・当該単元の学習期間中は、教室に、「江戸時代を勉強できる本」（調べ学習用ブックリストの資料と発展学習用ブックリストの資料）を置いておき、事前に、児童が資料に目を通せるようにした。
【調べ学習時の指導】	
ねらい	「江戸の文化と新しい学問」の学習から興味を持ったテーマについて調べ、まとめる。
学習の流れ	<p>①学習の目当てを確認する。</p> <p>②調べたいテーマを決め調べたいことを考える。「太陽チャート」を使う。</p> <p>③テーマに沿った資料を基に「そのままカード」を書く。引用なので、「」をつける。出典も書く。 （当該小単元の学習期間中、教室に資料が置いてあったため、多くの児童は事前に資料に目を通し、どんな資料があるか分かっていた。また、興味のある箇所を見つけた児童は、該当箇所に付箋を貼っていた。）</p> <p>④「そのままカード」を基に「まとめカード」を書く。調べたことをまとめて書くようにする。</p> <p>⑤「感想カード」を書く。調べたことに関する感想を書く。</p> <p>⑥「まとめカード」と「感想カード」を画用紙にまとめる。文字の大きさや色を工夫する。写真等の資料（ワーク）を切り貼りしてもよい。</p> <p>⑦まとめたものを紹介し合う。</p>
評価	江戸の文化と新しい学問を作り上げた人々の思いや願いについて、考えたことを作品に適切に表現しているか評価する。

※「太陽チャート」「そのままカード」等を使った調べる方法については、以下を参照。

- ・内田洋行教育総合研究所 「学びの場.com: 学校図書館を活用した調べる学習 ～どう情報を読み取りまとめるか、児童・教員共に学ぶ～東京都荒川区教育委員会 学校図書館支援室・藤田利江 主任学校図書館指導員一」。

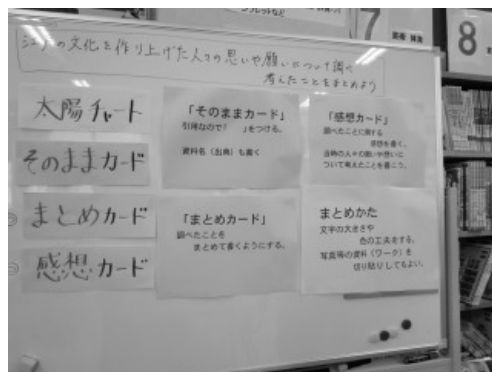
<http://www.manabinoba.com/index.cfm/6,16813,14,html> (accessed2012-5-31)

- ・「調べ学習を調べる 上」 毎日小学生新聞 2011 年 11 月 7 日号 p.1-2
- ・「調べ学習を調べる 中」 毎日小学生新聞 2011 年 11 月 8 日号 p.1-2
- ・「調べ学習を調べる 下」 毎日小学生新聞 2011 年 11 月 9 日号 p.1-2

2. 調べ学習時の様子



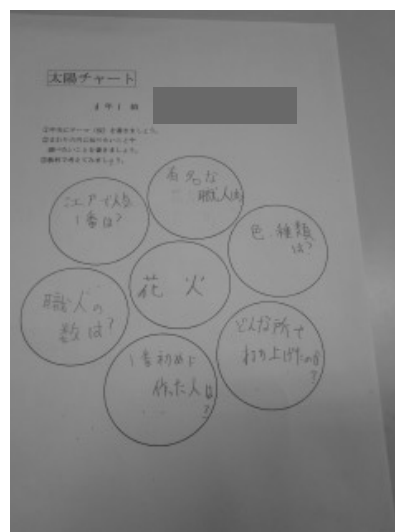
調べ学習は学校図書館で行いました。まず、授業者が学習の目当てを確認しました。



「太陽チャート」「そのまめカード」「まとめカード」「感想カード」の使い方を確認しました。



学校司書が、資料選びに迷っている児童をサポートしました。



「太陽チャート」には、テーマについての疑問（課題）を書きました。



調べ学習用ブックリストの資料を使って、「太陽チャート」に書いた各自の疑問（課題）を調べました。



調べたことをまとめた画用紙を、最後に見せ合いました。

3. 児童の感想（授業後のアンケートのまとめ）

（6年1組 26人）

質問事項	はい	いいえ
①教室に江戸時代を勉強できる資料（本）が置いてあったのを知っていましたか？	25人	1人
②その資料を手にとってみましたか？	25人	1人
③その資料を読んでみましたか？	25人	1人
④今日の授業で資料を使って勉強しましたか？	26人	0人
⑤今日使った資料は使いやすかったですか？	26人	0人
⑥資料を使った調べ学習は好きですか？	23人	2人
⑦次のうち、どんな資料があったら使おうと思いますか。 当てはまるもの全てに○をつけてください。	○をつけた人数	
*くわしく書いてある本	22人	
*カラーの本	19人	
*厚い本	18人	
*目次や索引がわかりやすい本	18人	
*絵や図が多い本	16人	
*新しい本	13人	
*見出しで内容がすぐわかる本	13人	
*かんたんに書いてある本	12人	
*ふりがながふってある本	12人	
*薄い本	3人	
*その他	2人（説明がいっぱい書いてある本/見やすい本）	
⑧今回の「資料を使った授業」について、感じたことを書いてください。 （主な感想を抜粋）	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を使えば知らないことがわかるし、楽しかった。またやりたい。 ・大きいカードに貼って、自分だけのものをつくるのは楽しかった。 ・江戸時代のいろんな本があって、様々な江戸の職業みたいのや食べ物が色々あるんだなあと感じました。 ・調べ学習で調べたものをちゃんと覚えられる。 ・自分が調べたい人物や物がすぐに調べられて、いろいろなことがわかるから好きです。本を読んだら学習では習っていない人物も分かるから、調べ学習が好きです。 ・今回これで二回目なので、なれています。だからすらすら書けるようになっていました。一回目はうまくいかなかったけれど、二回目はうまくいったので、また三回目もやりたいと思いました。（注：このクラスは、同じ形式の調べ学習を1学期に1回行っていました。） ・本を探すのに苦労したけれど、ちゃんと見つけて完成したときはうれしかった。 ・自分の知っていることや、知らないことが分かった。もっと調べてまとめてみたい。 	

参考資料3-2

荒川区立第三峡田小学校
小学校社会科「江戸の文化と新しい学問」学習用ブックリスト

このブックリストは、知識の本を中心とした「調べ学習用ブックリスト」と読み物を中心とした「発展学習用ブックリスト」に分かれています。これらのリストの資料は、当該単元の学習期間中は教室に別置き、朝読書等で児童が自由に読めるようにしました。

「児童」欄の★は、調べ学習時に当該資料を使用した児童の数です。（なお、実際の授業では、本ブックリストの資料だけでなく、教科書や社会科資料集も使用して調べ学習が行われました。）☆は、調べ学習時以外の時間も含め、当該資料を読んだ児童の数です。一人につき、★または☆1つ。

【調べ学習用ブックリスト】

No.	書名	出版者	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる主なキーワード	選書検討時のコメント	児童	ISBN	国立国会図書館請求記号
1	日本の歴史3 江戸時代(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2009	事典 貴重な写真資料や図版が満載 歴史上の重要人物や用語などについてのコラムが充実 巻末には年表のほか、調べ学習に役立つ博物館・資料館の案内も掲載	江戸の町の仕事 江戸のリサイクル 年中行事 芝居小屋 相撲 浄瑠璃 近松門左衛門 錦絵 浮世絵 歌川 広重 写楽 喜多川歌麿 葛飾北斎 東海道五十三次 富岳三十六景 十返舎一九 東海道中膝栗毛 藩校 寺子屋 蘭学 杉田玄白 前野良沢 翻訳 蘭学事始 ターヘル・アナトミア 解体新書 伊能忠敬 大日本沿海輿地全図 本居宣長 国学 回向院		★★★ ☆☆	978-4-591-10682-2	Y2-N09-J156
2	伝統芸能(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2007	事典(江戸時代に限定されない) 目次 資料(もつと調べよう) 索引	歌舞伎 芝居小屋 近松門左衛門 落語 文楽(浄瑠璃)		★☆☆	978-4-591-09602-4	Y6-N07-H120
3	日本の祭り事典	汐文社	2008	事典(江戸時代に限定されない) 日本全国各地の祭 40隅田川花火大会	江戸三大祭(三社祭) 隅田川花火 年中行事		★☆☆	978-4-8113-8490-0	Y2-N08-J48
4	衣食住の歴史(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2006	事典(江戸時代に限定されない) 江戸136-174 年表、索引、博物館情報	江戸の遊び 職人 リサイクル		★★★ ☆☆	4-591-09042-6	Y2-N06-H71
5	伝統工芸(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2006	事典(江戸時代に限定されない) 都道府県別資料館・体験工房・HPの紹介、索引あり 20江戸 82-83東京都	江戸		☆☆☆	4-591-09050-7	Y1-N06-H154
6	日本の文学(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2008	事典(江戸時代に限定されない) 時代順 70-99江戸時代 索引 資料編	芝居小屋 東海道中膝栗毛 十返舎一九 歌舞伎 浄瑠璃 近松門左衛門		★★☆☆	978-4-591-10089-9	Y8-N08-J430
7	ごみとリサイクル(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2006	事典(江戸時代に限定されない) 18江戸のリサイクル	江戸の町 隅田川		☆☆☆	4-591-09048-5	Y1-N06-H153
8	年中行事(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2009	事典(江戸時代に限定されない) 索引あり 正月 節分 節句(桃 端午 七夕 重陽) 餅つき	江戸の年中行事(五節句) 祭り 遊び		☆☆☆	978-4-591-10686-0	Y2-N09-J128
9	郷土料理(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2009	事典(江戸時代に限定されない) 索引あり 都道府県別の郷土料理 郷土の寿司 15	江戸前寿司		★★☆☆	978-4-591-10685-3	Y2-N09-J129
10	日本の伝統文化・芸能事典	汐文社	2006	事典(江戸時代に限定されない) (目次:年中行事 生活・風俗 伝統芸能・芸術) 索引、参考文献・サイトリスト	歌舞伎 相撲 落語 浮世絵 江戸前寿司		★☆☆	4-8113-8067-3	Y2-N06-H22
11	21世紀こども百科食べもの館	小学館	2007	事典(江戸時代に限定されない) 30-31寿司 200-203 年中行事	江戸前寿司 年中行事		☆☆☆	978-4-09-221261-9	Y5-N07-H255
12	日本の歴史人物(ポプラディア情報館)	ポプラ社	2006	人物事典	近松門左衛門 歌川広重 東洲斎写楽 喜多川歌麿 葛飾北斎 十返舎一九 杉田玄白 前野良沢 伊能忠敬 本居宣長 吉田松陰		★★☆☆	4-591-09041-8	Y3-N06-H46

No.	書名	出版社	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる主なキーワード	選書検討時のコメント	児童	ISBN	国立国会図書館請求記号
13	知ってほしい江戸幕府の世に活躍した人びと：江戸時代	あかね書房	2000	人物事典風	杉田玄白 前野良沢 伊能忠敬 十返舎一九 歌川広重 東洲斎写楽 葛飾北斎		★★☆	4-251-07935-3	Y2-N01-16
14	日本を変えた53人：人物日本の歴史. 5	学習研究社	2002	人物事典風	近松門左衛門 本居宣長 杉田玄白 伊能忠敬 歌川広重		★★☆	4-05-201569-X	Y2-N02-56
15	もっと知りたい!人物伝記事典. 1(芸術・宗教)	フレーベル館	2003	人物事典 人によって取り上げ方法が違う 生涯、関連本をカラーで紹介 広重12-16 北斎88 近松91	歌川広重 葛飾北斎 近松門左衛門		★★★☆☆	4-577-02599-X	Y3-N03-H41
16	もっと知りたい!人物伝記事典. 4(学問・科学技術・産業)	フレーベル館	2003	人物事典 人によって取り上げ方法が違う 生涯、関連本をカラーで紹介 本居16-19 杉田20-23 伊能24-27	本居宣長 杉田玄白 伊能忠敬		☆	4-577-02602-3	Y3-N03-H44
17	時代のヒーローたちのホントの話：100人のおもしろ歴史人物伝	ポトス出版	2004	人物伝 見開きモノクロ、エピソード	伊能忠敬 東洲斎写楽 葛飾北斎		★☆☆	4-901979-09-4	Y3-N05-H64
18	教科書に出てくる歴史ビジュアル実物大図鑑	ポプラ社	2010	教科書に出てくる数々の歴史史料を、実物大で紹介 142江戸図,152越後屋,156芝居場,164解体新書,166浮世絵,168伊能忠敬	歌舞伎 江戸の商売 芝居小屋 解体新書 浮世絵 大日本沿海輿地全図	面白い。教科書に出てくる部分を実物大で示されている。	★☆☆	978-4591115398	Y2-N10-J164
19	楽しく調べる東京の歴史：東京の歴史・人物・文化遺産	日本標準	2007	東京の教員が作成した本(東京都小学校社会科研究会編著)時代順 49-江戸88回向院観音記念碑の写真 91吉田松陰記念碑	江戸の商売 年中行事 隅田川 芝居小屋 歌舞伎 相撲 錦絵 十返舎一九 葛飾北斎 歌川広重 前野良沢 杉田玄白 回向院 解体新書 ターヘル・アナトミア 翻訳 蘭学事始 伊能忠敬 吉田松陰		★	978-4-8208-0283-9	Y2-N07-H65
20	歴史の流れがわかる時代別新・日本の歴史. 7(江戸時代. 前期)	学研教育出版	2010	江戸の町では人々ほどのようにくらしていたのだから 元禄文化とはどのようなものだったのだろうか など	江戸のリサイクル 江戸の商売 近松門左衛門			978-4055006934	Y2-N10-J77
21	歴史の流れがわかる時代別新・日本の歴史. 8(江戸時代. 後期)	学研教育出版	2010	蘭学や国学などの新しい学問にはどんなものがあって、どんな影響があったのだろうか	寺子屋 藩校 国学 本居宣長 蘭学 杉田玄白 解体新書 伊能忠敬 大日本沿海輿地全図 寺社へのお参り 浮世絵 歌川広重 東洲斎写楽 喜多川歌麿 年中行事		★★☆	978-4055006941	Y2-N10-J78
22	人物や文化遺産で読み解く日本の歴史. 5 (徳川家康・鎖国・浮世絵：江戸時代)	あかね書房	2010	索引 見開きカラー図版が多い 40千住小塚原刑場(荒川区)	町人のくらし 江戸のリサイクル 江戸の商売 歌舞伎 浄瑠璃 近松門左衛門 錦絵 浮世絵 歌川広重 東洲斎写楽 喜多川歌麿 葛飾北斎 宿場町 東海道五十三次 富嶽三十六景 寺子屋 藩校 蘭学 杉田玄白 前野良沢 ターヘル・アナトミア 解体新書 伊能忠敬 大日本沿海輿地全図 本居宣長 国学		★☆☆	978-4251082756	Y2-N10-J157
23	見る・読む・わかる日本の歴史 3;近世	朝日新聞社	1992	年表あり 60街道宿場町 90芝居小屋 98伊能図 92手習塾 95蘭学	蘭学 杉田玄白 前野良沢 ターヘル・アナトミア 解体新書 伊能忠敬 大日本沿海輿地全図			4-02-256564-0	Y2-1165
24	調べて学ぶ日本の衣食住. 衣	大日本図書	1997	時代別(現代から古代へ)年表あり 24-33 26仕事着、浮世絵、32呉服店	江戸の町人のくらし			4-477-00786-8	Y1-2472

No.	書名	出版社	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる主なキーワード	選書検討時のコメント	児童	ISBN	国立国会図書館請求記号
25	調べて学ぶ日本の衣食住. 食	大日本図書	1997	時代別(現代から古代へ)年表あり 41江戸の外食料理 44-45町民の食生活	江戸前寿司		★☆☆	4-477-00787-6	Y1-2472
26	調べて学ぶ日本の衣食住. 住	大日本図書	1997	時代別(現代から古代へ)年表あり 32-41江戸	江戸の町人のくらし			4-477-00788-4	Y1-2472
27	調べる学習日本の歴史. 3 江戸幕府の政治と文化	国土社	2008	監修 図版多用、ルビあり 人物コラム 索引 人物クイズ(23近松 54吉田)	江戸の町の仕事 江戸のリサイクル 年中行事 芝居小屋 相撲 浄瑠璃 近松門左衛門 錦絵 浮世絵 歌川 広重 東洲斎写楽 喜多川歌麿 葛飾北斎 十返舎一九 東海道中膝栗毛 藩校 寺子屋 蘭学 杉田玄白 前野良沢 翻訳 蘭学事始 ターヘル・アナトミア 解体新書 伊能忠敬 大日本沿海輿地全図 本居宣長 国学 吉田松陰		★★☆	978-4-337-14833-8	Y2-N08-J63
28	人物なぞとき日本の歴史. 5 江戸時代中期・後期	小峰書店	2008	見開き 人物を中心にした Q&A 年表・人物・コラム・索引 クローズアップ(10交通・都市 商業 20学校 40旅)	江戸の町の仕事 浄瑠璃 近松門左衛門 浮世絵 歌川広重 東洲斎写楽 喜多川歌麿 葛飾北斎 東海道五十三次 富岳三十六景 十返舎一九 東海道中膝栗毛 藩校 寺子屋 蘭学 杉田玄白 前野良沢 翻訳 蘭学事始 ターヘル・アナトミア 解体新書 伊能忠敬 大日本沿海輿地全図 本居宣長 国学 回向院 吉田松陰		★★☆	978-4-338-23305-7	Y2-N08-J103
29	ひとり調べができる時代別日本の歴史; 7 江戸時代(前期)	学習研究社	1997	見開き 疑問文で問いかける	芝居小屋 東海道中膝栗毛 十返舎一九 歌舞伎 浄瑠璃 近松門左衛門		★☆☆	4-05-500235-1	Y2-1552
30	ひとり調べができる時代別日本の歴史; 8 江戸時代(後期)	学習研究社	1997	見開き 疑問文で問いかける 人物 年表 博物館情報あり	浮世絵 国学 落語 年中行事		★☆☆	4-05-500236-X	Y2-1553
31	歴史おもしろ新聞. 第8巻 吉宗、享保の改革を行う:くずれゆく幕府(江戸時代中期～後期)	ポプラ社	1990	年表 索引あり 漫画やイラスト入り新聞形式	杉田玄白 前野良沢 翻訳 蘭学事始 ターヘル・アナトミア 解体新書 本居宣長 国学 伊能忠敬 大日本沿海輿地全図 東海道中膝栗毛 十返舎一九 寺子屋 芝居小屋 歌舞伎		★☆☆	4-591-03618-9	Y2-1005
32	こども歴史新聞. 中巻 室町(戦国)時代-江戸時代	世界文化社	1999	漫画やイラスト入りの見開き新聞形式 年表、索引	伊能忠敬 東海道五十三次 相撲 寺子屋 食べ物 長屋 浮世絵 江戸のゴミ		☆	4-418-99116-6	Y2-M99-57
33	一目でわかる江戸時代: 地図・グラフ・図解でみる	小学館	2004	ちょっと難しい(できる子向け) 見開きカラー図版 地図・グラフ・図解による解説 目次・参考引用文献リスト (人びとのくらし 自然環境と人口 生産と流通 レジャーと文化 幕藩体制と対外関係)	江戸の町の仕事 年中行事 江戸のゴミ(リサイクル) 江戸の商売 寺社へのお参り 伊能忠敬 寺子屋 藩校 隅田川 吉田松陰	面白いグラフが示されている。	★	N 4-09-626067-3	Y2-N04-H120
34	農民・町民とその文化: 江戸時代2 (人物・遺産でさぐる日本の歴史: 調べ学習に役立つ; 10)	小峰書店	1998	ちょっと難しい(できる子向け) モノクロ縦書き 索引 年表あり(第1章 町の人びととくらし 第2章 民衆の文化と発展)	江戸の町の仕事 浄瑠璃 歌舞伎 浮世絵 芝居小屋 歌川広重 十返舎一九 東海道中膝栗毛 宿場町 国学 蘭学 本居宣長 翻訳 解体新書 藩校 寺子屋	昔ながらの調べ学習本。		4-338-15110-2	Y2-M98-126
35	大江戸ファンタジー〜ユミとケンタの江戸への冒険	バロディー社	2002	『先生と司書が選んだ調べるための本』 ^注 より	江戸の年中行事 寺子屋		☆	4-938688-08-5	Y2-N02-105
36	葛飾北斎: 絵本画集(おはなし名画シリーズ; 19)	博雅堂出版	2006	『先生と司書が選んだ調べるための本』 ^注 より	葛飾北斎 富嶽三十六景		☆	4-938595-34-6	Y3-N07-H2
37	町人の研究: 江戸時代の町人のくらしと文化 調べ学習日本の歴史; 14	ポプラ社	2001	『先生と司書が選んだ調べるための本』 ^注 より	江戸の町の仕事 江戸の年中行事	きちんと作られている。情報が多い。	★☆☆	978-4591067416	Y2-N01-83

No.	書名	出版社	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる主なキーワード	選書検討時のコメント	児童	ISBN	国立国会図書館請求記号
38	絵本夢の江戸歌舞伎	岩波書店	2001	『先生と司書が選んだ調べるための本』 ^注 より	歌舞伎、芝居小屋	・絵は美しいが、巻末の解説は難しい。 ・絵だけで十分な子どももいるので、あってもいい。	★☆☆	4-00-110648-5	KD484-G32
39	落語でわかる江戸のくらし1(江戸の町人のくらし)	学研教育出版	2010	落語を導入に、江戸文化を紹介する 参考文献あり 年表あり 索引あり	江戸の町の仕事 寺子屋	これは子どもが飛びつきそう。コラムはきちんとしているので調べにも使える。	★★★☆☆	978-4055007009	Y2-N10-J56
40	落語でわかる江戸のくらし2(江戸の社会のしくみ)	学研教育出版	2010		江戸の町の仕事		☆	978-4055007016	Y2-N10-J57
41	落語でわかる江戸のくらし3(江戸のリサイクルと科学技術)	学研教育出版	2010		江戸の町の仕事 江戸のゴミ(リサイクル) 解体新書		★☆☆☆	978-4055007023	Y2-N10-J58
42	落語でわかる江戸のくらし4(江戸の職業)	学研教育出版	2010		江戸の町の仕事 江戸の商売		★☆☆☆	978-4055007030	Y2-N10-J59
43	落語でわかる江戸のくらし5(江戸の人々の楽しみ)	学研教育出版	2010		歌舞伎 浄瑠璃 芝居小屋 落語 江戸の年中行事(花火) 寺社へのお参り		★☆☆☆	978-4055007047	Y2-N10-J60
44	江戸のごとば1(売る・つくるほか)	汐文社	2010	参考文献、目次、索引あり	江戸の町の仕事 江戸の商売	子どもは、現在の「しごとば」がとても好きなので、この本も好きだと思う。	★☆☆	978-4811386515	Y2-N11-J90
45	江戸のごとば2(とる・加工するほか)	汐文社	2011		江戸の町の仕事 江戸の商売		☆	978-4811386522	Y2-N11-J155
46	江戸のごとば3(教える・楽しませるほか)	汐文社	2012		江戸の町の仕事 芝居小屋 寺子屋 相撲		☆	978-4811386539	Y2-N11-J156
47	江戸のくらしから学ぶ『もったいない』第1巻 ゴミをへらす知恵	汐文社	2008	漫画と簡単な解説で絵が中心 11物売り 19江戸野菜 26修理屋	江戸のゴミ(リサイクル) 江戸の町の仕事		☆	978-4811385747	Y1-N09-J66
48	江戸のくらしから学ぶ『もったいない』第2巻 快適に過ごす工夫	汐文社	2009	漫画と簡単な解説で絵が中心 6家の便利な道具 18お楽しみ	江戸のゴミ(リサイクル) 相撲 年中行事 歌舞伎 落語		☆	978-4811385754	Y1-N09-J179
49	江戸のくらしから学ぶ『もったいない』第3巻 ムダを出さない社会	汐文社	2009	漫画と簡単な解説で絵が中心 27食べ物	江戸のゴミ(リサイクル)		☆	978-4811385761	Y1-N09-J248
50	切絵図・現代図で歩く江戸東京散歩	人文社	2002	一般書 古地図 荒川区(76、46)	小塚原 回向院	古地図は面白い。子ども達は自分の住んでいる所を探したりできる。調べないで、ずつと見てしまいうちもいるかもしれない。		4-7959-1290-4	Y77-H486
51	江戸・東京歴史の散歩道6	街と暮らし社	2003	一般書 荒川区	小塚原 回向院			4-901317-06-7	GC65-H72
52	東京江戸たんけんガイド：行ってみよう	PHP研究所	2003	61延命寺(小塚原刑場跡)、回向院	吉田松陰 回向院 寺社参り	面白い		978-4569684079	Y2-N03-H117
53	絵で見たのしい古典 8 東海道中膝栗毛	学習研究社	1990	国語・社会の学習用 写真や浮世絵、囲み解説・イラスト解説(旅の持ち物) 57 作品をもっとよく知るために	十返舎一九 東海道中膝栗毛 東海道五十三次 歌川広重 寺社参り	・国語の文脈での本。 ・古典本文だけでなく、古典自体についても詳しく書かれているので使える。東海道中膝栗毛は資料が少ないので、このキーワードを調べる子用に一冊必要。		4-05-104238-3	Y8-7533
54	知って楽しい花火のえほん	あすなろ書房	2008	26-27江戸の花火 火の作り方・打ち上げ方・種類・歴史	江戸の年中行事(花火)	最近、花火の本が出版されるようになってきた。	★★★☆☆	978-4-7515-2292-9	Y11-N08-J447
55	衣食住にみる日本人の歴史：4(江戸時代～明治時代) 江戸市民の暮らしと文明開化	あすなろ書房	2002	江戸時代(完成した巨大都市「江戸」) 小袖と髪飾り 江戸市民の芝居見物 表店と裏店 花見弁当と祝い膳 街道と宿場町	芝居 江戸前寿司			978-4751521640	Y2-N02-68

No.	書名	出版社	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる主なキーワード	選書検討時のコメント	児童	ISBN	国立国会図書館請求記号
56	ビジュアル 日本の歴史 (ニューワイドずかん百科)	学習研究社	2006	164-233江戸時代 豊富な写真資料、イラストで時代、人物、生活がわかる	江戸時代	写真が多く、子どもが手に取りやすい。	★	978-4052023682	Y2-N06-H150
57	江戸の町 上 (日本人はどのようにに建造物をつくってきたか 4)	草思社	2010	目次のみで索引なしモノクロ見開き1テーマで絵がつき詳細な解説	江戸の年中行事	目次・索引がないので探すのが難しい。読む力がある子には見開きで1テーマを書いているので、良いだろう。書き抜きもできる。→必要なテーマの個所を付箋で示すことにしたい。		978-4794201393 978-4-7942-1779-0 2010年新装版あり	Y2-N10-J284
58	江戸の町 下 (日本人はどのようにに建造物をつくってきたか 5)	草思社	2010	目次のみで索引なしモノクロ見開き1テーマで絵がつき詳細な解説	町人の生活	目次・索引がないので探すのが難しい。読む力がある子には見開きで2テーマを書いているので、良いだろう。書き抜きもできる。→必要なテーマの個所を付箋で示すことにしたい。	★★	978-4794201546 978-4-7942-1779-0 2010年新装版あり	Y2-N10-J285
59	市川染五郎の歌舞伎 日本の伝統芸能はおもしろい .1	岩崎書店	2002	市川染五郎が、歌舞伎の成立から舞台裏まで紹介する	歌舞伎	江戸の歌舞伎に限定された本ではないが、歌舞伎が現代にも続いていることが分かりやすい。→伝統芸能「歌舞伎のはじまり」の項目を付箋を付ける。	☆	978-4265055516	Y6-N02-50
60	吉田蓑太郎の文楽 日本の伝統芸能はおもしろい .5	岩崎書店	2002	吉田蓑太郎が文楽(江戸=浄瑠璃)の成り立ちから舞台裏まで紹介する	浄瑠璃			978-4265055559	Y6-N02-54
61	日本のしきたり絵事典：行事や儀式の「なぜ?」がわかる：衣食住から年中行事まで	PHP研究所	2008	32 50土用	江戸の年中行事	文字が大きく、図版が少ないが、小学校中学年程度の子どもの調べ学習に向く。		978-4-569-68912-8	Y2-N08-J198
62	江戸のくらしがわかる絵事典	PHP研究所	2003		町人の町の仕事			4-569-68404-1	Y2-N03-H112
63	新都道府県クイズ、2(関東)	国土社	2009	県別クイズ 伊能忠敬51クイズ 54解説	伊能忠敬	伊能忠敬のエピソードが面白い。		978-4-337-27022-0	Y2-N09-J81
64	ふしぎがいっぱい!ニッポン文化、2 南関東地方のふしぎ文化	旺文社	2009	地域別クイズ形式 カラー図版 (五街道 日本橋 江戸城 江戸の水道などクイズと解説あり)	江戸前寿司			978-4-01-071910-7	Y2-N09-J50
65	エコでござる：江戸に学ぶ、3の巻 江戸のゆったりスローライフ	鈴木出版	2009	見開きで漫画と解説 江戸と東京比較マップ、博物館テーマパークの紹介	江戸のゴミ(リサイクル) 年中行事			978-4-7902-3219-3	Y1-N09-J476
66	木工品をつくる職人さん：江戸指物	ポプラ社	1998	江戸指物職人(荒川区 伝統工芸)	江戸指物職人(荒川区 伝統工芸) 町人・歌舞伎役者の家具			4-591-05688-0	Y1-M98-258
67	江戸しぐさから学ぼう(第1巻)まちかどの思いやり	汐文社	2007	肩引き 傘かしげ いろいろなしぐさ 七三歩き 江戸のなりたち こぶし腰かけ などこまごまが江戸のまち? 会釈のまなざし 江戸の交通	江戸の町 江戸の交通			978-4811384443	Y1-N08-J7
68	江戸しぐさから学ぼう(第2巻)人に対しての思いやり	汐文社	2008	時泥棒 指切りげんまん 死んだらごめん うかつあやまり さしのべしぐさ 呑気しぐさ	町人の仕事			978-4811384450	Y1-N08-J85

No.	書名	出版者	出版年	補記(数字は記載頁)	本に含まれる主なキーワード	選書検討時のコメント	児童	ISBN	国立国会図書館請求記号
69	江戸しぐさから学ぼう(第3巻)まちかどの思いやり	汐文社	2008	ある家族の一日 お心肥やし 三脱の教え いろいろなしぐさ もったい大事 町人の家のような いろいろな生活道具 結界わきまえ どんなリサイクルがあったの? この世にいらぬ人間なし 江戸のあそび	町人の家 生活用具 あそび リサイクル			978-4811384467	Y2-N08-J109
70	みんなでめざそう循環型社会:マンガでわかる環境問題.7	学習研究社	2009	学習漫画	江戸のゴミ(リサイクル)	学習漫画は、調べには使いにくい →必要なページだけコピーして、カード資料を作る。		978-4-05-500576-0	Y1-N09-J131

注) 鎌田和宏,中山美由紀編著『先生と司書が選んだ調べるための本 : 小学校社会科で活用できる学校図書館コレクション』少年写真新聞社, 2008, 159p

国際子ども図書館調査研究シリーズ No. 2 (ILCL Research Series No.2)
図書館による授業支援サービスの可能性：小中学校社会科での3つの実践研究

平成24年8月30日 発行

編集・発行 国立国会図書館国際子ども図書館
〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話 03-3827-2053 FAX 03-3827-2043
印刷・表紙デザイン 株式会社 丸井工文社
〒107-0062 東京都港区南青山7-1-5

ISBN 978-4-87582-736-8

本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に国際子ども図書館企画協力課協力係に連絡してください。本誌のPDF版を国際子ども図書館ホームページ (<http://www.kodomo.go.jp/>) でご覧いただけます。なお、訂正があった場合は、ホームページ上に掲載いたします。

リサイクル適性 **B**

この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。